

地域社会・地域の文化と 子どもの生活

「市民との共同研究」報告書

坂西友秀・原田裕子・馬場久志

(埼玉大学教育学部)・(鶴ヶ島市)・(埼玉大学教育学部)

はじめに

本研究は、市民1名と本学教員2名の合計3名の共同研究として進められた。研究会は、「市民との共同研究会」で、埼玉大学の取り組みとして2005年度から開始された。「一般公募した課題の中から三つのテーマを採用し」(朝日新聞, 2005年10月14日)、本研究は、その一つである「母親の視点を通して見た現代家庭の実相—子ども・母親・父親のかかわりと非行問題」を検討課題としてスタートした。このプロジェクトそのものが大学として初の試みであったこともあり、当初共同研究としての事前の打ち合わせもなく研究会は発足した。研究プロジェクトが開始された時期が遅く、研究内容を深く検討する時間がなかったことと、市民との共同研究のあり方・進め方を模索することも大きな課題であったことから、初年度(2005年)は研究に関する共通認識を持つこと及び予備的調査実施し、検討材料を得ることを目的とした。以下、活動経過、調査の内容、報告書作成の3点を中心に、概要を記載する。

概要の記述に先立って、本研究会を発足させる契機になった「熊谷事件」について、概略紹介しておこう。事件は、関係者に中学生が含まれており、地元民に大きな衝撃を与えた。「広報つるがしま」は事件を次のように伝えている(鶴ヶ島市役所広報室, 2005)。「平成16年6月28日から8月23日にかけて、熊谷市内で夜間鶴ヶ島市在住の中学3年生男子2人(ともに15歳)、中学2年生男子1人(13歳)が主な実行役となり、中学2年生の兄である塗装工(21歳)の主導により、金属バットで通行人を襲撃し、路上強盗を行いました。被害者は20歳から65歳までの7人(内1人は未遂)。9月4日、中学生の2人が西入間警察署に自首したことにより事件が発覚し、少年5人を含む7人が逮捕された。一連の事件のうち最も凶悪とされたのは、7月29日午前1時ごろ、熊谷市内の路上で無職の男性(65歳)の顔面を金属バットで殴って死亡させ、現金約13万円を奪った強盗殺人事件であった」。研究会では、まず、子どもと家族・父母、学校、地域、それぞれの関わりとそのありようを探ることにした。

研究会の活動経過 以下の日程で都合3回研究会を開催した。

2005年8月8日 県内で発生した少年によるホームレス殺傷事件は、地域の窮状、家族の葛藤を示唆する。そこで、研究会のメンバーが、地域・学校で活動している利点を生かし、父母に対する子どもとの関わり・悩み等について聞き取り調査を行うことにした。並行して、学区内の小学校と中学校の父母を対象にした親子関係・子育て仲間との関係等に関する質問紙調査を実施することにした。

2005年11月8日 聞き取り調査の大まかな内容の打ち合わせと、質問紙調査の内容・分量、実施時期と実施方法について検討を行った。調査時期は12月中旬をめぐりに実施・回収し、年明けに結果の分析を行う。なお、質問紙の配布は各学校で開催される父母会の際に行い、回収は返信用封筒を同封し、大学宛に回答者ごとに返送してもらうことにした。

2006年2月14日 結果の分析・整理の進行状況の確認と、研究報告書のとりまとめに

関する意見交換をおこなった。研究報告書は、学部紀要に投稿・掲載する形式で作成することにし、2月を目途に役割分担に沿って原稿を執筆することとした。

研究・調査の内容 調査内容は、小学生、中学生の父母を対象にした聞き取り調査と質問紙調査の2つに分けられる。聞き取り調査は、各学校において個別・集団の面談形式で行った。子どもに関するいろいろな思い、親子の人間関係の多様性が、聞き取りの中から浮き彫りになっている。今回は聞き取り内容を一次的な資料として提示するにとどめた。聞き取り内容の分類や詳細な分析は、今後の継続研究において行う検討事項である。

質問紙調査は、主に統計的な分析を中心に行った。子どもと父母の関わりからは、主に4つの主要な要因が抽出された。「子ども理解と子育て仲間のコミュニケーション」、「親子間の葛藤」、「子どもの私生活に関する不安」、「夫婦の子育て方針一致」の4つであった。父親に比べ母親と子どもの強い関わりが示され、両者の認識の違いが示唆された。

報告書の作成 役割分担にそって、聞き取り調査及び質問紙調査について分析・整理を行った。分析・整理した内容は、研究論文としてまとめた。報告書の内容・構成は以下の通りである。問題・目的、方法（馬場久志）、結果：研究1「親子関係に関する母親と父親の回答の全体的傾向」（坂西友秀）、研究2「親の危機感と支援の必要性の所在」（馬場久志）研究3「面接聞き取り調査」（原田裕子）。以上が、共同研究の端緒と開始後一年間の経緯である。以上の研究は、『母親・父親の視点から見た現代家庭の実相—子ども・母親・父親の関わりと非行問題—』 埼玉大学紀要教育学部（教育科学）55巻2号 67-91頁、2006年9月、に掲載した。本報告書では、これらの研究は割愛した。

その後、子どもと青少年をとり巻く社会環境はさらに厳しさを増している。不登校、いじめ問題に改善の兆しは見えない。景気が回復基調にあるとはいわれるが、庶民にその実感はない。とりわけ若者の就労をめぐる情勢は好転どころか悪化の一途をたどっているといわざるを得ない（小林、2007、坂西、2006、坂西、2007）。派遣労働者の急増は、雇用保険にも加入していない不安定雇用、労働者の現実を社会問題化させている。労働条件・環境の悪化はその日暮らしもままならない若者を大量に生み出し、「ネットカフェ難民」ということばを「先進国」を自負する日本に定着させている。社会的弱者の生産は、ホームレスの大量排出にも表れている。こうした社会的弱者に対する青少年による暴力行為が、事件としてマスコミに取り上げられることもめずらしいことではなくなった。青少年、子どもが起こすさまざまな事件や問題が、彼らの心の荒廃に深く根ざすことは容易に推測できる。しかし、なぜ青少年・子どもの心がすさんでしまったのか、その本源を問い直すことなしには問題の解決の糸口を見いだすことはできない。彼らを取りまく社会環境、彼らが生活する地域社会の有様と変貌の実相を明らかにし、それらが子どもの成長と発達に及ぼす影響を解明しなければならない。

「市民との共同研究」を契機に始まった一連の研究は、2006年度をもち終了したが、その後も研究は坂西が継続し現在に至っている。この間、埼玉大学から2005年度に研究費補助（20万円）を受け、2006年度にも研究費の補助（50万円）を受けた。本報告書は、これ

らの研究とその後に行った福岡県と沖縄県の青年の地域における生活と人間関係に視点をあてた質問紙調査と現地聞き取り調査の研究へつながるものである。報告書は三部で構成されている。概要は次の通りである。

第一部は、地域における文化と人々の生活・人間関係に焦点をあてた聞き取り調査である。本報告で取りあげた聞き取り調査は、次の五つである。小学校における「本の読み聞かせ」ボランティアの活動、子どもを主人公にした子どものための「子どもフェスティバル」、地域に求心力のある新しい伝統行事を定着させたいとの願いから創られた「どんど焼き」、江戸時代から行われ、途中中断していたものを復活させた「脚折雨乞いの行事」、同じく江戸時代から高倉日枝神社で行われてきた奉納の舞い「高倉獅子舞」、この5つである。

第二部は、地域で催される各種のお祭りや行事と子どもの関わり、地域における子どもと大人の人間関係、子どもにとっての地域の安全性、等に関する質問紙調査を中心にした研究である。産業、経済、文化などあらゆるものが都市に集中するかの様相を呈する現在、地方・地域の衰弱は著しい。地域社会、生活、人間関係の事態を小学生・中学生の子どもの視点から明らかにする。

第三部は資料編である。小学生と中学生を対象に実施した質問紙調査を、地域別、学校別、学年別、さらに性別に、子どもと大人の関わり、子どもの地域の文化・行事への関わり、子どもにとっての地域の安全と子どもの防犯意識、に焦点を当てて整理した。

本報告書の作成にあたり、鶴ヶ島市の小学校、中学校、公民館、ボランティア活動に従事する方々、伝統芸能・行事の保存を中心的に担う方々、そのほか調査にご協力下さいました皆様に記して感謝申し上げます。

2008年8月28日 坂西友秀

目 次

はじめに	i
第一部 地域社会・地域の文化と子ども	1
研究の目的	2
方 法	3
結 果	3
聞き取り調査1ー本の読み聞かせ	3
聞き取り調査2ー子どもフェスティバル	9
聞き取り調査3ーどんど焼き	16
聞き取り調査4ーすねおり雨乞い行事	24
聞き取り調査5ー高倉獅子舞	31
考 察	34
第二部 子どもが見た地域社会・地域の文化と人間関係	36
問題と目的	37
方 法	37
結 果	40
地域のお祭りと子ども	39
地域の伝統行事と子ども	43
子どもと地域の人間関係	45
地域の安全と子ども	48
地域の自然と子ども	53
社会的弱者と子ども	55
考 察	57
おわりに	60
第三部 調査結果と資料	62
小学生の地域意識に関する質問紙調査の結果	63
資料ー質問紙	91

第一部

地域社会・地域の文化と 子ども

研究の目的

本研究では、地域の父母と子どもを対象に、地域の文化・伝統、及び地元にある各種サークル・団体の活動とその内容について聞き取り調査を実施し、分析を行う。第Ⅰ部では、「読み聞かせ」、「どんど焼き行事」、「脚折雨乞い行事」や「お祭り」など、地域で地道に行われている行事や取り組みが、地域の大人によってどのように作り出されてきたのかを聞き取り調査を通じて明らかにする。鶴ヶ島（図1）にある各種のお祭りや伝統行事は、地域の大人だけを対象に行われているわけではない。子どもたちが活動や行事に参加できるようにするにはどうしたらよいのかを思案し、地域の住民がさまざまに知恵を出し合い、試行錯誤と工夫を積み重ねた結果として創出されていることがわかる。第Ⅰ部、第Ⅱ部では、地域を創る大人の意気込みと同時に、こうした取り組みが、子どもたちにどのように受けとめられ、彼らの成長・発達にどのような積極的肯定的な効果をもつものであるのかを、小学生と中学生への意識調査と、関係者への聞き取り調査を通して明らかにする。Ⅰ部では、特に聞き取り調査に焦点を当て、地域の文化・伝統が、子どもと大人の日常生活及び両者の交流と人間関係に如何に深く関わっているのかを明らかにする。

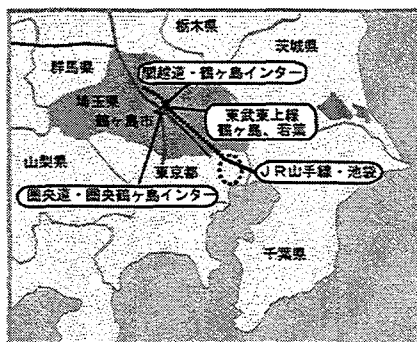


図1 鶴ヶ島（鶴ヶ島市役所ホームページ(2008)より）

地域にはそれぞれの歴史があり、代々受け継がれてきた伝統行事が存在することが多い。鶴ヶ島市には「脚折雨乞い」行事や「高倉獅子舞」などの伝統行事・芸能が伝承され、現在保存されている。こうした地域の文化を、どれだけの子どもたちが知っているのか。また、子どもたちは、地域に残る伝統的な行事や文化をどのように受けとめ享受しているのか。子どもと地域の関わりを明らかにすることは、個々の子どもの意識と行動にばかり目を奪われるのではなく、地域における大人と子どもの関わりと生活環境全体に目を向けることになる点で有意義であろう。

伝統行事とはいえ、昔からとぎれることなく受け継がれてきたわけではない。一時的に中断した時期もある。「脚折雨乞い」行事は、明治期に行われたのを最後に、昭和になるまで中断されていた。一旦途絶えた伝統行事を復活させるためには、行事催行の段取りを細部にわたって再現し組み立てなければならず、並たいていの努力ではなかったという。復活された伝統行事は、新しい現代文化の精神を吹き込んで「現代の伝統行事」として再生している。そこには「ミニ龍蛇」が制作されるなど子どもが活躍できる舞台が用意されている。伝統文化の継承と今流の創造的発展を意識した伝統行事の再生が試みられているのである。小正月に行われるどんど焼き（道祖神と呼ぶ地域もある）も鶴ヶ島の新しい伝統行事になりつつある。

前述の母親を中心にしたボランティア活動である「本の読み聞かせ」は、文学作品の朗読や紙芝居の上演を通じた子どもへの教養教育であり、情感や想像力を豊かに育む働きかけである。それと同時に、地域の「お母さん」が定期的に学校を訪問して、子どもたちに直接話しかけ、生の声・肉声で「読み聞かせる」ことは、テレビやインターネット、電子ゲームなど電子機器を媒介にした擬似的な「対人的」接触とは質的に異なる生き生きとした現実感と臨場感を与え、血の通った交流を

生み出す。子どもを目の前にしたお母さんによる本の読み聞かせは、とかく疎遠になりがちな大人と子どもの関係を親密にし、地域の中に子どもが安心できる場と人間関係を提供することにつながるのではないだろうか。このように、本の読み聞かせは、学校を基点にしながら、大人と子どもの間の世代間の溝を埋め、相互に親しみのある人間関係を生み出す重要な役割を果たしていると考えられる。その一方で、都市に限らず、地縁血縁関係が残る地方・地域においても近隣の「つきあい」は希薄化し、お互いに関わりのない「他人」になっている。第一部では、大人と子どもの地域における人間関係の実態についても、父母を中心にした大人の視点を通して明らかにする。なお、とりあげた活力、伝統行事は「子どもフェスティバル」、「本の読み聞かせ」、「どんど焼き」、「脚折雨乞い行事」、「高倉獅子舞」の5つである。

方 法

聞き取り方法 西公民館、中央図書館、等、事前に聞き取り調査をお願いした場所に伺い、こちらの質問に対して自由にお答えいただく形式をとった。聞き取りに際しての質問は、場面に応じて行い、質問の順番も臨機応変に変えた。ただし、各聞き取り対象が行っている活動の内容、起源・由来・経過等については共通に尋ねた。なお、お話しいただいたときには、許可を得た上で、カセット・テープレコーダーで録音した。各会場で聞き取りに要した時間は、約1時間であった。なお、聞き取り調査は、地元で社会教育活動に積極的に関わる原田さんの司会進行のもと、埼玉大学の坂西、馬場の2名が加わり行った。

聞き取り結果 聞き取り結果については、語られた内容に応じていくつかのカテゴリーを設定し、整理した。整理にあたっては、カテゴリーの内容を表す小見出しをつけ、原則としてお話しいただいたことばをそのまま引用する形式をとった。

結 果

【聞き取り調査1】

本の読み聞かせ

読み聞かせの始まり 「読み聞かせ」は、それぞれの学区内のお母さんが中心になって、定期的に朝学校を訪問して行っている。子どもたちに本を朗読してあげたり、紙芝居や腹話術を演じてあげたりするボランティア活動である。「読み聞かせ」がどのような活動であるか、参集していただいたお母さん方に率直に語ってもらった（図2、図3）。

「読み聞かせ」の立ち上げに関わった原田さんは、次のように語りかけた。「市内には小学校が8校あるんですが、IさんとTさんは、そのネットワークをいろいろとりまとめてくださいました。今回もIさんを通じて電話で集まっていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。『読み聞かせ』は、一番初めはN小学校から始まりました。このN小学校の読み聞かせボランティアを立ち上げるときに私が講師として伺って、そしてPTAのお母様方に集まっていたいてワンポイントレッスンをしました。心構え等についてお話しさせていただいて、Nから発信いたしました。現在では、8校それぞれボランティアさん、お母さま方に関わっていただいています。地域性の違いによって多少の違いはあると思います。今「読み聞かせ」をやる中で、自分たちが親として、地域の一人として関わってきて、子どもたちにどんな感想を抱いてきたのか、関わってきて気がついたこと、見えてきたこと、あるいは課題でもいいんですが、そんな感想を最初にお聞かせいただきたいと思います。各学校の名前と個人名はかまいませんので、どこどこ学校ということで端の方からお願い

します」。原田さんの話から、読み聞かせが鶴ヶ島全域の小学校に広まっていることがわかる。

Aさんは、「読み聞かせ」への参加について、次のように振り返る。「N小学校で下の子が1年生になったときからですので6年目になります。最初は軽い気持ちで始めました。私がいたときは低学年だけでした。今はもう中3ですが、その子が1年の2学期のときに図書館・図書室を手伝う形で募集がありました。その中で何人かのお母さんで「読み聞かせ」をしませんかということで、「読み聞かせ」をすることになったのです。みんなで「えっ」といったんですけど、それが始まりまででした。最初できる人数からということで、一部の学年から初めて、徐々にそれを拡大していきました。下の子が6年生なんですが、私も今6年の『読み聞かせ』をしています」。子どもの入学と同時にAさんの「読み聞かせ」は始まったのだ。



図2 中央図書館



図3 「読み聞かせ」ボランティアの皆さん

Gさんの「読み聞かせ」は紙芝居の上演から始まった。「やる場所を見つけたということもあって、担任の先生にS小にもと、こういうのを話したら、すぐ校長先生に話しを持っていつていただきまして、1人で紙芝居に7時間いただきました。きっかけなんですね。ちょっとS小が西図書館、西分室ですね、そこに近いということで、西分室の図書館の人が、学校にとっても関わりがあったんです。図書館の人と司書の方と私と4人で入ったのがきっかけです。学年1回とか、そのくらいの回数で。募集はかけませんね。図書館の人も、長い間務める人できちんとしたもの（「読み聞かせ」の会）を持ちたいということで、安易にすぐ募集をかけることはしませんでした。学校との関わりがどんなものなのかもわかりませんでしたので、すぐには募集をかけなかったんですよ。3年目くらいに募集をかけたところ、1名しかいらっしやなくて。でもその方がとても信用の厚い方で、8人くらい一気に連れてきてくださいました。去年くらいですかね、昨年の4月ぐらいから1学期に学校側の代表となる先生が連絡係になりました。この人は大丈夫ということで、毎週水曜日に、5、6回、2学年に入ります。こういう形で当時学校に入りました。入ったとき「読み聞かせ」の珍しさと、紙芝居がなかったということとで、すごく興味を持ってくれました。毎回、子どもたちは、ザワザワしていることもなく、お話をよく聞いてくれました。S小では、机を後ろに寄せて、体育館座りで肩を寄せ合いながら、みんなが肩組み合うようにして聞いています。「読み聞かせ」は、子どもにとっても興味津々の新しい経験の始まりであった。

子どもは「読み聞かせ」が大好き 「子どもたちは、集中して聞いていますか」、こうAさんに問いかけてみた。「そうですね、最初ざわついているときもあるんですが、やっぱり子どもたちは本の朗読を聞くのが大好きみたいで、吸い込まれていく感じです」。子どもたちから、読む本についてのリクエストはあるのだろうか。「いえ、ないですね。そういうのは」と、彼女は語る。「でも、低学年のうちは、怖いものがないとか、次は何がいいとかいいます。怖い本は、時間が限られているので、意外と読むのが難しい。なかなか探せないんですけど、『怖い本』を持って行くと結構喜んでくれたりします。読む本は学年が違ってても意外と変わらない。15分くらいなので、低学年は最初は幼稚園のときに聞いたようなものもあります。単純でことばの少ない、絵本に近い本を高学年で読ん

でも、それはそれで低学年とは見方が違うのか、喜ぶ。高学年だから難しい本をといわれるのですが、低学年用の本を見せると、懐かしいのか、意外と反応がよかったりするんです。本の選び方はなかなか難しい。大丈夫かなって思って読んだ本が、低学年にも割と受けたりします。高学年にちょうどいいかなって思って読むとすごく『引かれ』ちゃったりして。毎回、お母さんたちみんなが苦労しているところなんですよ。この学校は、すごく個性的にやっている方が大勢います。そういう方は自前の紙芝居を持ってきて、一人でやったり、腹話術の人形を持ってきたり、絵本とは関係ないんですけど、自分の得意なものをやってくださるんです。理科の分野のお話を子どもたちにわかりやすく話してくださる人もいます。大人が聞いても楽しいと思うようなお話をする方もいます。子どもは「読み聞かせ」を楽しみ、読み手のお母さんたちは、子どもの歓声と笑顔に喜びと充実感を味わっている。

「読み聞かせ」の効果 「読み聞かせ」にはどのような効果があるのだろうか。「読み聞かせ」をすることでお母さんたちは、子どもたちにどのような変化が現れてきたと感じているのだろうか。

Aさんは、次のように振り返る。「1年生のときから『読み聞かせ』をしている学年と、していない学年とでは、最初差があったんですよ。高学年になりますと、1年生のときから『読み聞かせ』してきた学年は、聞く姿勢ができていましたね。途中から始めた学年は、何となく『読み聞かせをはじめます』という、ちょっとざわついていたり、差が出てきていたようですね。『読み聞かせ』は、子どもに集中して聞く構えを作り出しているようだ。

Bさんは、「読み聞かせ」の効果を明言することは難しいという。「M小学校で『読み聞かせ』が始まって4年経ちました。『読み聞かせ』をして子どもがどう変わったかといわれると、はっきりしませんが。そこまで私たちは意識してお話しているわけではありません。ただ普通に、お母さんたちが絵本を読んであげる時間があつたらいいな、ということから始まったからです。それに、選書によって子どもに集中してもらえるときと、そうでないときとありますので、子どもの変化がはっきりしないところもあります。行事が多くなると読み聞かせの時間も少なくなりますし、子どもと学校の状態によっても子どもたちの受けとめ方が微妙に違ってきます。正直な言い方をすると、『読み聞かせ』が子どもたちにどんな効果をもつかわかりません。手応えとして、これですってお話できるものはないんです。読み聞かせによる子どもの変化を明確に語るのは難しいという。

「読み聞かせ」歴3年目のCさんも「どのように子どもが変わったかというのはまだわかりません」という。「まだ3年目ですので、自分の子どもに『読み聞かせ』をしたときのことを思い出して、抱っこするような気持ちでやりました。そんな温もりのある関係を子どもと持ちたいなという気持ちでやっています。時間は15分ですけども、自分の子どもに『読み聞かせ』たときの温もりみたいなものを感じてくれる子が、1人でもいてくれたらいいなと思います。あとは本との出会い、いい出会いがあればいいかな、という気持ちでやっています。どのように（子どもが）変わったかというのはまだ分かりません」。お母さんの子どもへの温かい愛情が読み聞かせにはあふれている。

一方、経験6年目のDさんは、「読み聞かせ」が子どもに及ぼす積極的な効果を認める。「F小学校の「読み聞かせ」を始めて6年経ちます。最初から関わっています。やはりN小の方がおっしゃったように低学年からずっと『読み聞かせ』をやっている学年と、途中から初めて一ヶ月に一回とか二回くらいしか『読み聞かせ』に入れない学年では、子どもに違いがあると思います。やはり耐性、習慣というものがついたり、つかなくなったりする点では、差が出るのかなと思います。学年によって落ち着いてまとまっていたり、ものすごくにぎやかで元気があったり、さまざまなんです。元気な学年はすごく反応がいいんですね。読んでいると、子どもは、決して聞いていないわけでもなく、集中力がないわけでもないことがわかります。朗読をしていて、子どもの反応がすごくいい学年があるのを感じます。今は全部通年でやっています。1年生から6年生までやってるんですけど、先生の方で希望がありまして、隔週でお願いしますって学年もありますし、毎週お願いしますって学年もあります。その学年に応じてやっています。高学年は主に一ヶ月に一回くらいしか入れないんです。それでも今の6年生は、1年生のときからずっと「読み聞かせ」をやっている学年なんで

す。すごくよく聞いてくれます。どんな作品を持って行ってもよく聞いてくれます。ですから、最初から読み聞かせをしている学年は、そんなに難しくないんですね。読み聞かせを継続することで、子どもの聞く力を伸ばすことができるという。

Tさんは、行政に携わる職員の視点から、「読み聞かせ」の効用を次のように話す。『読み聞かせ』ボランティアで、私が最近感じますのは、子どもの聞くことへの『耐性』ということです。図書館でロンちゃんクラブというのをやっています。『ロンちゃん』、それは本と子どもを結びつける活動の一環としてやっているんです。主に1、2年生を対象に、隔月くらいでやっています。中央図書館の方にみなさんにきていただいています。活動の中には工作とかいろいろなものが入っています。子どももいろんな学校から来るわけですね。子どもはいつも騒いでいますが、本を読むときだけ静かなんです。『本を読む』ときには意外と集中するんです。それは、みんなが今まで『読み聞かせ』ボランティア活動に触れてきたからだと思います。学校で『読み聞かせ』をずっと経験してきたことが大きいと思います。『読み聞かせ』は、子どもに朗読を聞くための耐性、あるいは習慣を形成しているということを感じますね。「読み聞かせ」は、子どもたちに話を聞く姿勢と集中力を作り出す力を持っているようだ。

同じ行政職員のUさんは、「読み聞かせ」の有効性を認める。『読み聞かせ』は結構な年数やっていますので、形として生きていると思います。そこでどういう風な心境の変化があったかとか、子どもに何かの変化があったのか、という子どもの心の変化を読み取ることはしていません。ただ、本を読むという形での働きかけに対する、子どもの積極的な『姿勢』はできると思います。学年によって『のって』くれたり、『しらけ』たり、ちょっと斜に構えたりだとか、どの学校にも多かれ少なかれ浮き沈みはあると思います。「読み聞かせ」は、ある程度、本の朗読を聞く姿勢を子どもに身につけさせると考えている。

お母さんと先生の連携 「読み聞かせ」は、お母さん方が学校を訪問して行う。自発的な活動であり、子どもたちにとっても授業・勉強とは異なる時間である。それだけに先生との連携がとれるとありがたいとお母さんたちはいう。Bさんは次のように語る。「最初からやっていますので、5年です。選書が一番苦労するところですが、自分たちがよいと思う本を最終的に読んでいたので、まったく聞いてくれないことはないですね。本を読んだ後に、先生がどれだけそれを話題にしてくださるかが1つ大きなポイントだと思います。『読み聞かせ』をした後に、1年生から6年生までのノートを作って、そこに今月朗読した本4、5冊について記録します。教室の簡単な様子、例えば、すごく集中して聞いてくれた、読んでいる本の内容にすごく反応して楽しく声が上がっていたなどです。あるいは、「いいですか」って1人の子がトイレに行ってしまったために、続いて3人くらい行ってしまったことなどを書きます。私たちのこの記録に対して、週遅れになりますが、先生が簡単なコメントをつけてくださいます。ほとんどのコメントが『ありがとうございました』になってしまうんですけどね。そのときに、『ざわついた』っていうか、『ちょっとそういう（ざわついた）こともありましたよ』と、そのときの子どもの姿を書き留めることがあります。でもそれは、「注意しなくてもいいですよ」という気持で、ただそのときの教室の状況と子ども様子を書いているだけなのです。にもかかわらず、先生から『大変ご迷惑をおかけしました』というコメントをいただくと、ちょっと苦しいですね。そこまでは踏み込んで子どもに関わっていないという気持でやっています。「読み聞かせ」の活動では、お母さんと先生の意思の疎通も大切なことがわかる。

先生の学級運営の違いも、「読み聞かせ」活動と関わる面があるようだ。Iさんは学級文庫に注目する。「学級文庫が各クラスにあるんです。図書とか本に関心を持ってくださる先生のクラスは、学級文庫がものすごく充実しているんです。同じ学年でもクラスによって本の量と種類・内容が違うんですね。学級文庫に積極的な先生のクラスになった子どもたちは、読書に対して興味もわくし、読書量もすごく増えるんです。そうでないクラスのお子さんは、残念だったかなと思う。文庫の本は、先生が図書館に行行って借り出すんです。中央図書館から本を大量に借りてきて、先生が管理する。すごく手間のかかることを先生が個人的にやってくださっていると思うんですね。それをすべ

ての先生がやるのは不可能ですし、私たちボランティアもそこまではできないので、その辺の差は出てきてしまうと思います」。Iさんは、学級文庫の充実度により、子どもの本に対する親しみが異なるのではないかと考えている。

選書・活動の工夫と子どもの感動 読み聞かせは、工夫次第で子どもを大きく感動させるという。「N小学校のお母さんもいっていましたけれども、低学年向けの本だから高学年に向かないかという、そうともいえません。ガマの油売りの口上の本を読んだ時のことです。友だちのご主人にガマの油売りの口上をやっている人がいて、その人のまねを何日か練習して、読み聞かせで『口上っぽく』いったときに、教室がシーンとなっちゃったんですね。教室が盛り上がり、子どもが「わあー」といってくれると思っていたんです。静かな教室を見て、『意外とすべったな』て気持ちを私は持っていたんですね。何週間後かに、先生のコメントに、『とても楽しかったようですね』とあるのを見たときには嬉しかったです。結局、最初から口上っぽくいったので、子どもたちは驚いてしまったの。『あーよかった、やってよかった、嬉しかったな』ということもありました。6年生だからといって、宮沢賢治の本を読んで理解しているかということ、そうでもありません。ちょっと本の題目を忘れてしまい、お話しできないのが残念なんですけど、2年生には難しかったかなと思う本を朗読したことがありました。意外にシーンとなってよく聞いてくれることがあるんです。そのときの読み手の状態と、受け手の子どもの状態がうまく適合し共鳴することによって、人と人とのかみ合わせによって、『気持ちよかった』とか、『楽しい』とか、『心に残る』ということが生まれてくると思うんですね。低学年向けの本であっても、高学年が楽しめることもあります。語り手の工夫と聞き手の興味・関心がうまくかみ合い融合したときに、「読み聞かせ」が子どもを深く感動させる。そこに「読み聞かせ」のダイナミズムと味わい深さがあるであろう。

子どもにとって「読み聞かせ」がより充実したものになるように、ボランティアの人たちは、研修を重ねるなどの努力をしている。ボランティアの研修について行政職員のUさんはこう語る。「そうですね。学校図書館ボランティア勉強会を4、5年やっています。学校で読み聞かせをしたときの感想や、どんな本を読んで、どういう子どもたちの反応があったかなど、いろいろ出し合います。それらをまとめてみなさんに還元し、向上を図ろうと思っています。この間も読み聞かせのボランティアのみなさんに集まっていただきました。そのとき、みなさんの前でそれぞれ絵本を一冊読んでいただきました。みなさん緊張したとおっしゃっていました。読み聞かせした本に対して、反応はどうであったとか、こういう読み方はどうだとか、意見を交換し合うわけです。つい先日は、紙芝居を上演している方に来ていただいて、『紙芝居の演じ方』を話していただきました。お互いを向上させ、理解を深めるという意味で、ボランティア研究会というのを開いています」。メンバーが相互に刺激し合い、研鑽を重ねることが、「読み聞かせ」を長期にわたって活力のある活動にしているのである。

お母さんと子どもの親近感 床に座って、肩を寄せ合って「読み聞かせ」を聞く中で、子どもたちと読み手の距離はぐっと近くなり、親しい交流が生まれるという。Eさんの話を聞いてみよう。「朝なので、できるだけ明るい気持ちになれる読みものを選ぶようにしています。戦闘ものであったり、ちょっと悲しい結末だったりするお話でも、『あえて実話なので聞いて欲しいと思って読みました』、とことばを添えます。悲しい本でも、子どもは、それはそれなりに受けとめてくれることがあるので、本の選び方にはそれほどこだわりません。『本の読み聞かせ』の影響は、子どもが落ち着くとか、そういうことではなくて、人と人との関わりにあると思います」。読み聞かせを介した人との関わりが、子どもたちに大切なのだという。

Eさんは、最近ちょっと気をつけなければと思うことがあるといいます。「私にとっては子どもは何十人もいるわけですよね。それなのに、子どもたちは『読んでくれているお母さん』と私を呼んでくれ、すごくよく覚えているみたいなんです。近所のスーパーに行っても低学年の子に、「あつ、読み聞かせのお母さんだね」っていわれるんです。『読み聞かせ』が、今少なくなっているといわれる近所つき合いや父母と子どものつき合いに、よい影響を及ぼしているのかなと思います。ただ本

を一週間に1回か2週間に1回読んでいますが、子どもたちは私たちがしっかり覚えていてくれる。まったく知らない人にだったら絶対話しかけてはいけないって、親にいわれる時代です。でも、子どものそのそばにいる母親も『あんた知ってるの』ってたずねると、子どもが『うん、学校で本を読んでくれているお母さんなんだよ』っていう。すると、母親はほっとした顔をする。『読み聞かせ』は、そういう子どもと大人の関わりやつなかりを育む、その第一歩としては非常にいいかなって思います。ボランティアと子どもが心を通わせることに、読み聞かせの核心があるとEさんは考えている。

Eさんは、『読み聞かせ』を始めて6年になる。「うちの娘がちょうど6年生ですが、1年生のときに『読み聞かせ』があるというお話を伺って参加しました。ちょうどその頃に、うちの子が、学校に行くのがちょっと難しくなった時期がありました。不自然にならないように、学校に行く機会を増やしたいという気持ちがあり、参加させていただきました。おかげさまで、みんなが『〇〇ちゃんのお母さん』といって受けとめてくれるんです。『読み聞かせ』で学校に入っているときは、絶対に名のったり、個人的にだれかに手を振ったりはしないんですけど、いつのまにかすごく自然な形で学校にとけ込んでいるんですね。どのお子さんも、どの先生も顔見知りになれたというのが、とてもよかったと思っています」。読み聞かせは、無理なく自然に学校にとけ込むよい機会になったという。Eさんは、ときどき心温まるほほえましい光景を目にするという。「子どもも1年生の『読み聞かせ』の方の手をすっととったり握ったりし、手をつないで歩いてくるんですよ。初めはそんな子どもの姿を見るとびっくりしていたんですけど、あったかいというか、いいなという感じを受けます」。「読み聞かせ」は、ボランティアと子どもの心を和ませてくれる。

子どもと「読み聞かせ」ボランティアとの親しい交わりは、学校内にとどまらず、地域の人間関係へと広がりを見せる。Jさんが、ふだんの地域における子どもとの出会いを一例として紹介している。「よその子とことばを交わすこともありますよね。子どもと道ばたで出会ったりすると、向こうはこちらをよく知っているみたいで、『こんにちは』と挨拶をしてくれます。少なくとも読み聞かせに入っている学校の子どもたちからは、『読み聞かせ』ボランティアの認知度はすごく高いと思うんです。違う学年に読みに行っても、すれ違うとき子どもが、「今日は読み聞かせなんだ」と声をかけてきたりします。うちの学校には、『読み聞かせ』ボランティア以外にも地域の方がだいたい来ていますが、そうした他のお父さん、お母さんよりよく知られていると思います。『いつも読み聞かせしてくれる〇〇さんだ』といわれます。こっちから子どもに声をかけるだけでなく、子どもから声をかけてもらえるんで、ある種幸せかなと思います。卒業した子からも町で声をかけられることがあるそうです。地域の方で、ちょっと年配の男性が『読み聞かせ』ボランティアに入っています。子どもたちにとってはおじいちゃんのような年齢の方ですけど、町で会うと子どもが声をかけてくるんですね。おじいちゃんは、『だれだろうーな』と、最初はわからなかったらしいんです。けど、卒業した子だったといっていました。そんな子どもと2、3回出会ったそうです。学校の「読み聞かせ」でできた子どもとボランティアのつながりが、地域の人間関係にまで広がりをもっていることを示している。

「読み聞かせ」の喜び 「読み聞かせ」を通じて子どもたちと交流する中で、お母さん・ボランティアの人にも心に残る大きなものを得ているようだ。Fさんはこう語る。「S小で「読み聞かせ」をやっています。私は、子どもが2年のちょうど今頃から始めました。今5年生ですので、4年目に入ります。立ち上げはもっと前でした。立ち上げた人からは、子どもたちは、落ち着いて話を聞くようになったよね、というお話をよく耳にします。私自身が感じるのは、こちらが本を読んだときに、子どもが「引く」ときと、すごく「のってくる」ときがあるということです。読み聞かせをするとき、子どもが「のる」のか「引く」のかよくわかりませんので、引かれるとこちらが焦り、その焦りが子どもに伝わって、さらに「引かれ」てしまい、悪循環に陥ることがあります。子どもたちの反応に、こっちも「のって」読んだりするわけです。すごく不思議な空気を味わえる時間だと思っています。私たちは「読み聞かせ」に先生として行っているわけではないんです。でも『あ

っ、読み聞かせの何々先生だ』なんていわれると、『いや、先生じゃないよ』といいつつも、ちょっと嬉しい気もします」。子どもたちが、読み聞かせボランティアを学校の一員として認めることは、お母さんたちの大きな喜びでもある。

読み聞かせをやっていなかったら、子どもたちと外で会っても声をかけたりすることはなかったとFさんはいます。「例えば、ちょっと暗くなってから帰る子に『気をつけて帰ってね』なんて、声をかけられなかったと思うんです。そういうことが自然にできるようになったのが、私にとっての一つの収穫だったと思います。今、息子の学年がちょっと落ち着きを失ってきてるんですね。去年まではとてもよく話を聞いてくれる学年だといわれてたんですよ。私も1学期に入ったときに『あれっ、ちょっと去年と違ってきたぞ』と思ったんですね。『学年の落ち着きがありません』と、先生からも言われるようになりました。私は、読み聞かせを通して、これから読み聞かせをしていくことで、『よく聞いてくれるようになったな』というように子どもが変わったらいいなと思っています」。学校内の子どもの様子、ちょっとした子どもの変化に、読み聞かせをするお母さんは気がついている。

Hさんも『読み聞かせ』には喜びがあると語る。「自分も楽しいですね。子どもたちの反応を見るのが楽しみです。先生方が読んだ後の感想を一言書いてくださるのを読むのと、楽しみが2つあります。どちらも楽しみであったり、ドキドキであったり、勉強になったりで、変化に富んでいます」。喜びと楽しみの源泉は、自分の活動に対する子どもの反応であり、先生からのフィードバックである。

【聞き取り調査2】

子どもフェスティバル

フェスティバルの始まり 子どもフェスティバルが始まったのはいつ頃からであろう。子どもフェスティバルの開催に尽力されてきたみなさんに、発足当時の様子を思い出もまじえて、富士見公民館の方にお話ししていただくことにした。Aさんはこう語る。「第1回からですね、第13回までの資料が、こちらの横の資料に書いてあります」。子ども祭りを始めた当時から現在まで、保存されている資料を見せていただいた。公民館の職員には定期的な異動があり、現在の館員にはフェスティバルが始められたときには他館に勤務していた人が多い。「この当時はいなかったもので、S館長の方に最初は、お話しいただければと思うのですけれども」。当事者に、最初にお祭りが開催された当時の様

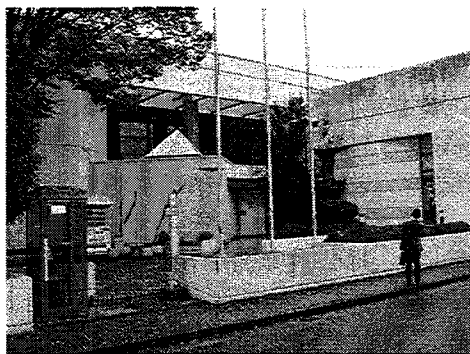


図4 富士見公民館

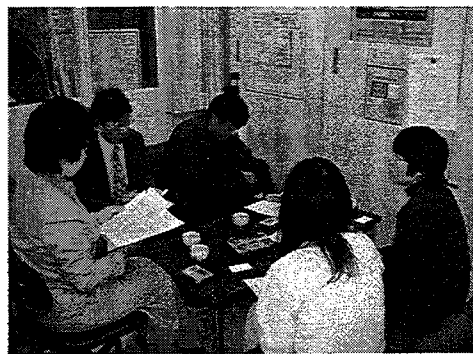


図5 公民館のみなさん

子をお話ししていただいた(図4, 図5)。

「子どもフェスティバルが始まったのは、昭和57年からなんです。当時公民館は、町公民館といわれるものでした。現在ではもうなくなっています。今、市の保健センターがある場所に町公民館がありました。公民館はその1館だけでした。東にコミュニティーセンターがあり、西に西部会館がありました。子どもフェスティバルについては、前に町公民館を利用していた方たちの、『子どもたちと遊びながら、子どもたちと交流したい』との熱い思いから話が出てきました。「こどもの日」もありましたし、子どものために何かできないかとみなさん思ったのです。こちらの表にあるように、当時町公民館を利用していた5つの団体の方が集まって、子どもたちが一日楽しむことができればということで始めました。映画会だ、ゲームだ、模擬店だと、そんなものをやりました。翌年には、町公民館の利用者だけでやったんですが、それを東のコミュニティーセンターの方でもよい企画だと思ったんですね。『子どもたちのために、町公民館でやったのよかったよね』って。当時は「こどもの日」は、連休ではあっても家族でどこかへ旅行にでかけるとか、行楽に出かけるということもあまりない頃でしたから。「こどもの日」といってもどこにも行かない、休みだけでも楽しみもない東エリアの子どもにも、何かやってあげようじゃないか、ということになったのです。町公民館とコミュニティーセンターが同時に『子どものための催しもの』を考えてやったんです。そんな形で2ヶ所で子どもが楽しめる『催し』を開催しました。ほんとに小さなもので、金額的にも今予算の制約があったり、参加者数の問題があったりしますけれども、毎年開催してきました」。休日に子どもたちが充実した活動をし、楽しく過ごすことを願った地域の大人の存在が貴重である。

フェスティバルの統合と定着 子どものための催しものの開催が3回目になったときに、市の方で「かんだちが池(雷電池)」をきれいに整備したんですね。『雷電池』というのは、市が4年に1度雨乞い行事をする場所なんです。そこは鶴ヶ島市の中では比較的広い面積がありますので、子どもたちのためにその日に市全体で何かできないかと、広く市民に呼びかけてやったというのが第3回になります。今まで東のコミュニティーセンターと町公民館で別々に行ってきた子どものためのイベントを、共同で開催しようということになったのです。あっちとこっちという形で2ヶ所で行われたきたものを、このときから、全市的、市全体でのお祭りへと発展させていきました。どの子も「こどもの日」を楽しく有意義に過ごせるようにと、地域の大人の積極的な取り組みがフェスティバルを生み出したことがわかる。

子どものために、地域の大人が力を結集することが、如何に大きな力を発揮するかを子どもフェスティバルは示している。「ここを見ていただくとわかりますが、参加団体は、公民館を利用する団体だけでなく、子ども会、育成会、青少年相談員、図書館関係、交通安全関係、もういろんな地域の中の文化団体、社会教育団体に広がっています。教育委員会や福祉関係者の中にも少しずつ広がって、今では参加団体は17団体にまで広がっています。このときから、実行委員会もこまめに開き、協力体制も教育委員会全体で取り組む形になりました。教育委員会が中心になって、教育委員会全体で組織をあげて取り組み、市役所内ではいろんな部署に声をかけ、またそれぞれの関連団体に呼びかけていただき、だんだん参加が広がっていきました。これが、子どもフェスティバルなんです」。町ぐるみで行う、それが子どもフェスティバルなのだ。

フェスティバルの開催は、順調なときばかりではなかったという。「フェスティバルをやっていくうちに、会場の広さがしだいに問題化してきました。会場の変遷があり、第5回から鶴ヶ島町の農村広場の方に移りました。話がちょっと戻りますけど、第4回のときにちょうど町政施行20周年の記念式典がありました。「雷電池ではちょっと狭いね」ということになりまして、会場を少し広めの富士見の近隣公園に移しました。それでもやっぱり会場が狭いということで、太田ヶ谷にある町の農村広場に変えたんです。そこは、今運動公園になっています。沼があり、ボートやカヌーにも使え、緑も十分あるところだということで、第5回からはずっと農村広場を会場にして開催してきました。途中、農村広場を運動公園に改装するための工事がありましたので、その改修工事期間中は、第20回と21回ですが、富士見の近隣公園と近くの栄小学校で開催しました。それ以降は全部運動公園

で進めております」。子どもフェスティバルが市民の間に定着するにつれ、会場が手狭になり、新たな場所を開拓し確保しなければならず、裏方は喜びと共に苦労も多かった。

フェスティバルの転機 「子どもフェスティバル」、その名の通り子どもが主人公になるお祭りにしたい、との願いも強くなってきた。子どもフェスティバルに関わるいろいろな団体があったが、なぜ子どもたちのためにお祭りをするのか、何を目的に行うのか、突きつめた議論は十分には行われてこなかったという。実行委員会の中からフェスティバル開催に対する前向きな反省が出されるようになった。「ただ子どもに楽しませるという方向から、子ども自身が望むことを取り入れる方向に祭りを変えよう。子どもがほんとに何を望んでいるのかを、考えていこうという方向が出てきました。自分たちのやりたいことを子どもが主体的に実現していく。そういう場として祭りで何か企画できないかとみんなで思案しました。いろいろな手を打ってきましたが、なかなか進展しないという問題もあります」。子どもの手で作るフェスティバルへと梶をきっても、実行することは容易ではなかった。

ちょうどその頃、市でも「子どもは小さな町作り人」として、子どもの主体性を育む町作りを推進していた。将来的に町を作り担っていく市民として子どもを育てるよう、市全体を盛り上げる動きが当時生まれてきていた。「この機運が広がる中で、子どもフェスティバルも、子ども実行委員会をしっかりと位置づけることになりました。当初、第20回くらいですか、そのときの実行委員会なんか9回ほど開いていますね。それだけしっかりしている。初めのうちは何もなかなか決まらない。でも、最後の方になると『やっぱりやろうよ』と、子ども自らが動き出したんです」。子どもフェスティバル実行委員会は、今子どもと共に歩み始めている。「子どもを中心に据え、実際には少しずつですが、子どもが何を望むか、子どもがどういうふうに主人公になって動けるか、模索しながらやっているのが、子どもフェスティバルですね。その辺を明確にしながら、子どもフェスティバルを根本からしっかり見つめ直す、こうした動きが出てきたのが今回の広域市民会議です」。これが、子どもフェスティバルの大きな流れである。

徐々に機が熟し、目ざしていたものが達成されつつある。子ども祭りを始めた当初とは若干考え方が変わってきた。「大人が何かやってあげて、子どもを楽しませてあげたい」という思いからスタートした子どもフェスティバルだったのが、子どもが自ら作り、主人公になれる子どもフェスティバルへと、時代の流れと共に変わってきているのである。

市民会議とフェスティバル実行委員会 大きな転機は、第22回だったという。「第22回の子どもフェスティバルで子どもが前面に出てきました。その前から、どう子どもたちに関わらせていくか、一緒にやれるか、話し合ってきました。催しものコーナーによっては、自分たちの子どもを連れてきて集いの輪を広げていきました。参加団体は、それぞれに子どもが参加できるように工夫していたのです。フェスティバルに参加した子どもが、今度はお母さんやお父さんと同じように遊びにきた友だちに対応するわけです。みなさん、それなりにはやっていたんですけど、子どもたちがメインに中心に、子どもたちが企画して運営していく、なかなかそこまで行っていっていませんでした。それが、22回から形としてしっかりしてきました」。子どもたちにフェスティバルの企画と運営をバトタッチするには、周囲の大きな支援と協力が欠かせないものだった。「全国的に子どもを中心としたこういうものはめったにないと私は聞いていますよ」。子どもフェスティバルの名称は日本各地にあっても、子どもを運営・実行の中心に据えた祭りはほとんどないとのことである。

子どもフェスティバルに関わって、市民会議と子ども実行委員会はどのような関係にあるのだろうか。「子ども実行委員会は、毎年フェスティバル開催に向けて新規に始めて、お祭りが終わったら解散します。実行委員会の継続性とか課題とかは大切ですので、記録として書いてあるんですね。4月1日号に発行された新しいものなんですけど、子どもフェスティバルの課題が書いてあります。この2番目のところに書いてあるんですけど、反省事項をどう改善していくか、大きな問題です。検討時間がないままに次の実行委員会が始まっていることもあります」。課題は、継続的に取り組む事であり、難しい点だという。

「年間を通した継続的な取り組みが必要です。そこで、今年度の1月からだれでも参加できる形にし、前年の実行委員の役員さんたちに声をかけまして参加していただいたんです。これが鶴ヶ島広域市民会議でして、会議は毎月1回くらい行っています。その中で、子どもの主体的参加をどのようにして進めて行くのが1つの課題となっています。子どもが進んでフェスティバルに参加する、なかなかそこまでいかないのが現実なんです。こうした困難もありますので、子どもの主体的参加をテーマに今学習会をやっています。例えば、世田谷区羽根木のプレイパークのAさんですとか、千葉県佐倉市で毎年3月に行われていますミニサクラというイベントをとりあげたりします。それらを運営しているNPOの代表の方を紹介したりという形で学習会を進めています。どうしたら子どもが積極的に関わり、活動を自分たちで進めていく形にできるのか、先進地の事例を探りながら、一緒に学習会を開いています」。子どもの生き生きとした関わりを生み出すためには、大人による支援と周到な準備が必要であることを示している。

子どもリーダーを育てる 子ども実行委員会自体は、来年の5月に向けて、この1月くらいに発足するという。今年度はすでに2度ほど実行委員会を開いている。それは、継続して参加してくれている子どもたちがいるからできることなのだ。「新たに参加する子もいますけども、継続して去年から参加している子どもがいるんです。『じゃ今年のフェスティバルどうしようか』。その子たちが今度は、みんなを引っ張っていく形で進めていくんです」。経験のある子どもの智慧が次の年に生かされ、子どもフェスティバルが継承されていく。実行委員会は、各サークルを基礎単位として構成するわけではない。市民会議とは若干異なり、実行委員会はサークルではあるが、個人参加も歓迎される。

フェスティバルを支える子どもの年齢層はどのような構成になっているのだろうか。お話を伺ってみた。「子どもの年齢層というと、今高校生と中学生が多いですね。小学生が若干名参加しているという形です。今年は高校生が力をつけてきたんですね。何度かやっている子が残っているの、その子たちが力をつけてきた。その子たちが引っ張る形でやっている感じですね」。経験を積んだ中学生・高校生がリーダーシップを発揮してきているという。「その高校生ってのも、ただポツと出てきたんじゃなくて、社会教育の中で育ってきたわけです。もともと子ども会の関係からジュニア・サポートリーダーなどの活動を通じて育ってきた。地域の子どもの活動に関わってきた子が中心にいます。ほかにもフリートークや子どもを対象にした催しものなど、鶴ヶ島の中で共にやってきた子どもたちなのです。子ども会、サークルや団体に声をかけて、その中で出てきた子どもたちです。脚折の雨乞い行事で龍蛇に関わった子どもたちがいたりとか、そういうこともあります」。鶴ヶ島の層の厚い社会教育の中で、子どもたちはじっくり育てられ、積極的に地域に関わる姿勢と力を身につけてきているのである。

子どもが育つ鶴ヶ島に 都市化の急速な進行と生活様式・内容の均一化・同質化に伴い、日本のどこに住んでいようと近隣の人間関係は希薄化し、疎遠になり、地域差のないものになりつつある。今や地域・地域社会ということばは死語になったといっても言い過ぎではない。こうした中で、鶴ヶ島は、子どもを地域で育てることを重視し、地域の文化や伝統を大切にしてきた。子どもフェスティバルも鶴ヶ島のこうした積極性を現す典型例であろう。鶴ヶ島では、子どもは「地域が育てる」ものなのだ。「サポーターズ・クラブ、健全育成会、子ども会、子どもを育てる関係団体はたくさんあります。リーダーシップをとってやっていく子どもを育てるために研修会を何度か開きます。研修を受けた子が、中学生になってジュニアサポーターになり、中学生、高校生、大学生になっても、そのままずっと継続してやっていくわけです。ですから、中学生の段階ですずっと関わっていた子は、リーダーとしてだんだん上にあがっていく形になります。こうして毎年、活動に参加する子どもを育てています。子ども同士の関わり合いを継続させ、お互いに『育ち合い』の中で大きくなれたらと思います」。社会性を持った健康的な子どもを育てるには、学校教育だけでは難しく、社会教育を充実させる必要があることを鶴ヶ島の事例は教えてくれる。

ところで、学習会ではどんな内容を学習するのだろうか。「当初は、子どもの現状や、今子どもの

遊びがどれだけ少なくなっているのかなど、講演形式でお話を聞くことが多かったんです。最近では、実際に子どもと共に活動している人たちのお話を聞いています。以前は大学の先生の話が多かったのですが、今では実際に私たちにどうことができるのか、実践的な内容の学習が増えていきますね。鶴ヶ島の地域の特長を生かした活動を展開することに焦点が当てられている。

鶴ヶ島では、小正月に行う「どんど焼き」の行事が、昭和57年に始まっている。子どもフェスティバルへの取り組みが始まったのもやはり昭和57年である。両者の始まりにはつながりはあるのだろうか。当時の様子を語っていただいた。「当時、公民館が一館だったところに、コミュニティセンターができました。その後東部会館から東公民館へと名前が変わりますが、コミュニティセンターができて、市民活動が一気に増えてきたというのがあるんです。当時、私は東公民館にいたんですけど、今までなかった子育て講座を初めて開講しました。それこそ幼児をつれたお母さん方が公民館に来るなんて、『そんなっ』て驚かれる時世でした。私が赴任したときに、子育て講座開講の中心になったお母さんたちが来て、『私たちは、子どもを連れて公民館に来ることを白い目で見られる』って、だから『私たちが正々堂々と公民館に来られるような、そういう講座と一緒にやってほしい』って話すんです。『子どもを連れて一緒にできる講座』ということで、幼児の体力作りやいろんなゲームをしました。最初はそういう講座から始まりました。そのうちだんだんだんだん子どもについて学習したりするようになりました。思うにほんとに人との関わりに飢えていたんですね。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいる家庭が少なくなってきたというか、核家族が増えてきたんですね。特に、後から鶴ヶ島に引っ越してきた方が一気に増えた時代、そういうのもありました。子どもに対して、どう対応していいかわからない。社会も急激に変わってきた時代でした。鶴ヶ島に新興の住宅地が増える中で、子育ての真最中にある若い母親が、新しい人間関係と仲間を地域に求めたことが、市民活動を活発化させた一因でもあったようだ。

社会教育の町鶴ヶ島 鶴ヶ島では社会教育が活発に展開されてきた。「当時、子どもを考える集い、社会教育を考える集いが開かれたりしました。その頃、社会教育施設ができ、地域の現在と未来についていろんな視点で考えようという機運が生まれてきました。公民館分野と所管分野、スポーツ分野、いろんな分野で集中して考える中で、子どもを考える分野もできたわけなんです。いろんな人が、子どものことをどうしたらいいのか、地域の中で子どもたちを育てるにはどうしたらいいのか、話し合いました。『子どもの分科会が1つあってもいい』、『子どもに係わることをやりたい』、『公民館活動に参加したい』、いろいろな意見や希望が出されました。スポーツの団体も図書館の団体も、子どものことについては一緒に考えられるんじゃないかということになったんです。その後何年かして、子どもに関わる活動は、独立して『鶴ヶ島町子どもを考える集い』という別の集いを継続して開催しました。こうした経緯がありまして、改めて子どもについて体制をどう整えていったらいいか、鶴ヶ島の未来を創る子どもに育てるにはどうしたらよいか、考えることになりました。その中で子どもへのいろんなアクションが出てきました。ほんとうに活発な、一気に開花していった時代ってのもありますね。特に石井町政になってから活発になりました。石井町政、最初問題もありましたけれども。石井町長は、教育長を経てその後に町長になった方で、教育をすごく重視されたんです。教育長も学校の校長先生でしたから、その辺の所から一気に子どもを活気づかせるための体制づくりが進んでいったんです。行政のあり方が、町の文化のあり方全体を大きく左右することをよく示す事例である。

鶴ヶ島は、もともと教育が盛んな地域だったのであろうか。原田さんの話を聞くと、必ずしもそうではなかったようだ。「そうではなかったですね。本音をいうと、私は都会から引っ越してきて、幼稚園があるかしらと心配しました。転勤を考えると、学校は近くかしら、医療機関はどうかしら、交通機関の便は、駅はどうかしらなどと、子どものことを先ず考えました。私が20年前にこの町に来て思ったのが、『子どもを連れてもう都内のカルチャーセンターまで行けないわ』でした。都内から来たら確かに文化的なものがないなって感じると思うんです。そのときに、私がとびこんだのが公民館活動でした。時代の流れを反映して、鶴ヶ島は、教育とりわけ社会教育を充実させて

きた。地域の人間関係が希薄になる今、新住民にとって公民館活動は地域活動の拠点であり、精神的に開放される場でもあろう。公民館活動に飛び込んだ彼女のことばは、このことを裏づけている。

「20年を経た今、私があるんですね。だから、社会教育の鶴ヶ島によって私は育てられてきた市民だと。だから今度はお返しとして鶴ヶ島のこれまでとこれから、研究会を持ちながら何ができるか、何をしていかなければいけないか、外部の目から見て鶴ヶ島が生き残っていける方法を私自身も考えたい」。今、彼女は、鶴ヶ島は、社会教育が充実し進んだ町だと思っている。

子どものフェスティバル 軌道に乗る子どもフェスティバルであるが、課題もあるという。「ちょっとイベント化しているという批判もあるんです。イベント化すると細かいところに手が届かないというのがありますので、その点も含めて見直しをしていかなければならないと思います」。子どもフェスティバルの主旨を見失わず、子ども主体の活気のある催しであり続けるには、大人と子どもの協力と智恵と工夫が求められる。

フェスティバル開催の予算的な措置はどのように行われているのだろうか。「金額的には市の予算として、市の予算ですべてまかなわれています。第15回までは書いてあるんですが、16回からは、まだ予算がどうなるか見えないので書かれていません。子どもフェスティバルはけっこう大きなイベントですから、市の方も力を入れています。今年は100万ですか、応援はけっこうしていただいています。鶴ヶ島は、今財政上すごく厳しいので、100万というと市の予算としては相当大きな額です。ほんとに当初のことを考えたら、補助金は随分減っているんです。今年はもっと減るだろうというところなんです。それでも、市の大きな祭りの中でも2大事業の1つに位置づけていただいています。市としては、このフェスティバルはやっぱ大事だと考え、予算が全部切られるご時世の中でも、どうにかつけていこうということで配慮してくれています」。行政の支援が如何に大きな役割を果たしているかがわかる。

いろいろな批判はあるという。「大人が子どものために手を尽くしてやってあげる。よく『子どもがゲートを通ったらあめ玉の一個もポケットマネーであげたいんだけどね』と、子どもをなんとか喜ばせたいという人もいます。片方の人からすると、『子どもをお客様扱いするから、本来それじゃいけないよ』といっている部分もあるんです」。子どもフェスティバルに賛同する人ばかりではないということだ。「異なる意見を持つ市民を切り捨てて、一気に変えるということは、それは違うんじゃないか。研修会を通してそれぞれの意見や考えがだんだんだんだん変わっていくということが大切だと思う」。今市民会議では、話し合いをする中で意見の一致を見いだしていくことを大切にし、そのために研修を位置づけて、必ず実施していますね。研修と議論を通して、フェスティバルの意義と目的を吟味し確認し合い、みんなの総意をもってフェスティバルを開催していこうということだ。フェスティバルに大人がどの程度関与すればよいのか。「バランスが難しいですね。子ども不在の子どもフェスティバルになってはいけないし、大人排除も主旨とちがう」。子どもが主人公ではあるが、大人と一緒に楽しめるお祭り、これが子どもフェスティバルだ。

参加する子どもの学年を広げることも課題の一つであり、小学校高学年になると参加する子どもが少なくなるという。学年があがるにつれて参加者は少なくなる。最初の頃から高学年は参加しない子が多かったであろうか。「いろんな手作りにしても、大きくなってくると興味を引く中身がちょっとないということもある。内容的にやはり中学年・低学年向きが多い。1つには、子どもたちに何かやってあげようと、大人の視点から企画するコーナーが多いからかもしれません。それでも、子ども実行委員会広がりゃ、子ども自身が主催者側にまわることになり、自分たちが面白いと思う企画が出てくるのではないのでしょうか。子どもが発案・企画する手作りのフェスティバルにすることで、子どもにとって楽しいお祭りになると期待しているのだ。

子どもの出番 子どもが企画するコーナーは、どのように運営されるのだろうか。「ちょうど富士見公民館で『子どもの出番だ』というのを12月にやっているんです。『出番だ』というのはローマ字で書いてますよね。でも意味はそこなんですよね。今年で12回です。これはもう完全に子どもフェスティバルのミニ版なんです。コーナーを子どもが今全部まわしているんです。子ども委員

会が切り盛りしているようなものです。見たらわかりますが、全部子どもが書いた絵です。『子どもの出番だ』の始まりはこうだったという。『初めは冬に不用品のリサイクルマーケットやりたいね』って話しがあって、そこから、『じゃ、子どもが来たら、子ども向けのコーナーがないとかわいそうだね』ってことで、コーナーをつくったんです。そのコーナーがだんだんだんだんだん広がって、『子どもの出番だ』になったんです。子どもをいかにして中心に据えるか、子どもにとってのフェスティバルの意味が真剣に追求されてきたことは鶴ヶ島の特徴として特筆に値しよう。

子どもが、次代の子どもを育てる新たな循環が生まれてきているという。「話はどんどん発展し、『子どもの祭りがあるのっていいよね』と子ども祭りにつながっていった。『子ども祭り』の話はだんだん進展し、開催は現実味を帯びてきた。『子どもの祭りをやるんだったら、子どもの声を聞くべきだ』ということで、子ども会等地域にある子ども関係団体から実行委員を募集することになりました。学校にも実行委員募集を行いました。最初のうちは子ども会推薦の子が実行委員になることが多かったんですけれども、毎年やっていくうちに子どもは自分でやるのが楽しくなってきた。自分がほかの子どもたちの先生になって」。経験のある子どもが、初めて参加する子どもにやり方を教え、『先生』の役割をとるのである。

実行委員になることができる子どもの年齢には、制限があるという。「今、実行委員になれるのが5年生以上です。5年生になれば実行委員になれるって、期待というか、憧れというか、そんなものが子どもにはあるんですね」。この年齢制限にも賛否両論があったそうだ。「そういうところで差をつけるのはどうかって話もあったんだけど、子ども会の役員さんが、こんなふうにいわれたんです。『子ども会で、何でもかんでも平等にするのはとってもいいように見えて、ほんとうはそうではない』って。『自分が責任持つ立場に立つとはどういうものか経験できることと、将来こうなると自分はああいうことができるようになるんだという希望を持たせることができるので、年齢制限は設けた方がいい』と。そういう中で実行委員の条件は作られてきたんです」。年上の子どもにリーダーを経験させることで、責任感を持たせ、自分の積極的・肯定的な将来像を持たせることができるのだ。

会を発足させた当初は、いろいろ苦労も多かった。「ほんとうに最初のうちは、子ども実行委員会やったって出ないんですよ、何も意見が。『どうする』、『どういうことやりたい』、『何があると楽しいかな』って、こちらから水を向けるんです。『だいたいこんなことできるよ』、『こんなもん手作りできる』などと、子どもができる細工、手芸、工作、遊びなどをこちらから提案することもあります。手探り状態の中で、とにかく最初の年に1回やってみたんです。そしたら次の年になると、いろいろ案が出てくるんです。『去年やったあのビーズのブレスレットが楽しかったから、私はそれをやります』って子もいれば、『スライムがよかった』って子もいるんです。そのうちだんだんいろいろな意見が出るようになるんです。ミニ四駆がはやったときなんか、ミニ四駆の競争をやるんだって、ミニ四駆のコースを作ったんです。ガーッとすごいのを作ったりします。そんなことをやっていくうちに、しだいに自分たちで『こういうものをやりたい』っていつて来る子が出てくるんです。実行委員会に慣れるにつれて子どもたちは、自発的に活動するようになる。子どもの力が発揮されるようになるまでは、大人が手をさしのべ手やる必要があるということでもある。

小学校で実行委員を経験した子が中学生・高校生になったときに、小学生をリードするようになるという。「中学生・高校生で実行委員になりたいと、実行委員会に参加してくる子どもが育つわけです。『何やる』と聞くと、『集会室でお化け屋敷をつくる』って。これが高校生なんですよ、今は。いいじゃないですか。高校生も参加しているなんて」。子どもの関わりを工夫することで、フェスティバルは中学生、高校生にとっても魅力のある催しになることを示している。

生き生きとした地域を創る いろいろな行事やイベントは、それぞれの館が特徴を生かしてやっているものであり、このまま独自開催を続けることになるのだろうか。それとも、地域全体で共同開催する方向性はないのだろうか。

「今それも検討している。ミニコース最後に共同してどんと大きな催しものをやる。それとも、今

やっているものをもう少し広げる形で、各公民館ごとにやっていくのか、今市民会議で検討しているんです。職員だけで決めるのではなく、市民の人たちと一緒にこういった形がいいのか話し合っ方向を出していこうとしています。今年はまだ2回しか準備委員会を開いていない。3回目の準備会が来月開かれる。というのも少しずつしか進まないんですよ。職員が決めちゃって、これにしましょうねっていうと、一回で決まりますね。ただ、一緒に協同しながら少しずつ歩調を合わせて進んでいくもんですから、なかなか決まらない。3回、場合によっては4回ということになります」。みんなで意見を出し合い、総意を持って催しものを作り出すには、時間と努力が必要だ。

活動のエネルギーを維持し続けることも大きな課題かもしれない。「役員さんなんか、市民会議の中では、『こうなるといいね』って盛り上がるんです。でも、準備会になりますと、いろんな参加者の意見を聞くと、いろいろな方向が出てきます。自分たちでかつてに進めるんじゃないって、参加している人たちの多様な意見を織り交ぜながら、どこに着地点を見つけるのか、難しいところです。暗礁に乗り上げると、原点に戻ってもう一度検討してやっていくという形ですから、どうしても何回も話し合っ、積み重ねていくことが大事になります」。話し合いを通じて、共通認識、コンセンサスを得ていくことが一番大切であり、市民意識高めていく重要な点である。それが社会教育、公民館活動としての一番のねらいでもある。すぐには形は見えないが、長い年月の蓄積で見えてくるのが市民の共通意識だという。子どもフェスティバルも親子3代にわたり、小学生のときに関わった人たちが、今は大人になって地域の子どものを支えている。

子どもの実行委員会を進めていくには、難しい点もある。地域で子どもの催しものやる場合、どの子も参加しやすいという条件がなければならない。会場まで歩いて行ける距離に住む子は容易に参加できるが、徒歩圏内に居住していない子は親に連れて行ってもらわないと催しものを楽しむことができない。開催時期も問題だ。開催日を決めても、その日が特定の地域の行事と重なると、その住民の多くは参加することができない。地域が広がることのメリットとデメリットがあり、ことは単純ではない。

鶴ヶ島には、人形劇、合唱などの文化・芸能活動を行っている高校生や市民の団体などはあるのだろうか。市民の文化活動、芸術活動についてお聞きした。いくつか活動はあるという。「人形劇があるんだよね。M公民館で、子どもフェスティバルに向けて、発表の機会をつくっています。M公民館は、事業として子どもフェスティバルに参加するための取り組みをしています。人形劇サークルさんが子どもたちを指導してくれ、その成果を舞台発表するわけです。それこそ前年の春休みから子どもフェスティバル本番を目標としてずっと練習しています。フェスティバルが終わると、こんどは地域の幼稚園、保育所、公民館祭り、図書館祭りとか、あっちこっちで人形劇を披露するんですね。1年間かけて練習したものをどんどん披露していく。育っていくね、5年生だった子が、6年生になってもう1年やる子もいます。中学生になると忙しくてみんなだめになっちゃうんですけど。でも、そこで学校を越えた仲間作り、学年を越えた仲間作りができるんです。それもその子が『学校で見せるの顔とサークルに出てくるときの顔が違うんです。おもしろいねっ』と、導しているサークルの方が話すんです。子どもたちにとってもいろんな面でおもしろいつながりができてますね。子どもが参加できるメニューはたくさんあった方がいい。どこでその子のほんとうの顔が出せるか、自分を開放できるか、私たちの取り組みにも関わってきますね」。偽りのない子どものありのままの思いが出せる場、そんな場所が少なくなっている。

【聞き取り調査3】

どんど焼き

鶴ヶ島に新しい伝統行事を 鶴ヶ島のどんど焼きは、地域の新しい伝統行事である。この地域に

昔からどんど焼きがあったわけではないという。鶴ヶ島に生まれ育ったIさんは、どんど焼きを始めた当時を振り返って次のように話してくれた。「どこの家でも正月飾りを処分します。田舎の方ではまだどんど焼きが続けているところもあります。鶴ヶ島でどんど焼きを始めた当時は、(公民館)利用者団体の一点というだけでまとまりました。初代利用者の会の会長さんにはIさんがなりました。私が3代目。利用者の会の会長は、今3代目です。それからがこのどんど焼きと私の関わりということになります。57年以前には、どんど焼きはありませんでした。どんど祭りが行われるようになったのは、公民館、コミュニティセンターという箱ものができてからです(図6、図7)。それ以前にはそういう行事はなかったんですよ。センターは、昭和56年4月オープンしました」。住民活動の拠点としてコミュニティセンターができたことが、どんど焼きの始まりの一つのきっかけだった。

お正月のしめ縄や松飾りを燃やして処分するどんど焼きは全国各地で行われてきた。地元鶴ヶ島の中にどんど焼きはなかったのであろうか。Iさんは、なかったという。「この地域、鶴ヶ島にはなかったと思いますよ。私は初めて『どんどん焼』とか『どんど焼き』とか聞いたんですが、最近こういうことに関わってから、全国的にはあったのかなっていう話聞いたんですが。鶴ヶ島では聞いたことがありませんでしたね」。鶴ヶ島では、どんど焼きが行われてこなかったのではないかという。

Iさんは、この地に生まれ、この地に育った「鶴ヶ島っ子」である。「ここで生まれ育って、今68歳で、この地に住んで68年になるんです」。どんど焼きについてこの聞き取り調査をしたのは、鶴ヶ島の五味ヶ谷という地域であった。「五味ヶ谷は、昔からこの地で暮らしてきたいわゆる地元のみなさんが多い地域ですよ。全体見ますとね」。鶴ヶ島の地域的な特長、特色を強く残すところともいえよう。Iさんもうなずく。「鶴ヶ島市内は全体的に旧の方が1割くらいでしょうか。私どもの住んでいるところは新興住宅地ですが、まだ五味ヶ谷は在住の方が多く方だと思います。今はどうなんでしょう。町の方からすると旧の人が多く感じがしますね。詳しく調べたら2割くらいですかね」。町全体としては、新たに鶴ヶ島に移り住み、住民になった人々が大半を占める新興都市でもある。

「データ見ますとね、55年のとき人口が35,842人なんですよ。ずっと以前の人口を調べていくと、昭和22年の人口が6,384人です。どんど焼きをやったのが57年ですからね。人口が増えてきた頃かな」。2008年6月現在の市の人口は約69,000人であり、人口の増加が年を追うごとに加速してきた地域である。

これがどんど焼きだ どんど焼きはどういうようにして行われているのだろうか。どんど焼きを始めて25年が経ち、記念すべき年でもあるという。鶴ヶ島独自の手作りのどんど焼きについて、写真を見ながらみなさんに語っていただいた。竹を組む土台作りからどんど焼きは始まるとIさんはいう。「これは24回、となりの写真は今年の春ですからね、今度来年は25回。まず、櫓(やぐら)といいましょうか、それを組みます。近所の孟宗竹(もうそうだけ)をいただいてきて、その孟宗竹(もうそうだけ)で櫓(やぐら)を組むんです。孟宗竹(もうそうだけ)を切り出すことが最初の仕事だ。「だいたいね、15本くらいね、土地の方々が分けてくれるんです。ここらは竹林が多いですから。無償でね、『使ってくださいよ』ってことで、いただいてきます。それを切ってきてまして、所定の寸法に



図6 東公民館



図7 「どんど焼き」を語る

そろえて、四本柱を作って櫓（やぐら）を組む。その資料は公民館にあります」。身近に自然の材料があるから成り立つ伝統行事である。

I さん曰く。「まあ4本柱ですけど三角状に組みまして、その中に稲藁や松飾りを入れ込むんです」。さらにTさんが詳しく説明してくれた。「この竹を切りにいくわけですね。15本くらい切って、皆さんでそれを担いで公民館の前庭まで運んできます。地面にあらかじめ四角を作っというて、杭を打ち込んで4本柱を立てるわけです。立てたものを上部で結んで、竹の葉っぱだけを上の方で出します。こういう形になるわけですね」。孟宗竹を組んで作る櫓は、鶴ヶ島の皆さんが考えた独創的などんと焼きの形だそう。「鶴ヶ島独自の発案ですか」と尋ねると、Tさんから「そうだと思いますね」という返事が返ってきた。「これね、例えば、ほかでもやっているところがありますけどね、高麗神社だとか、ああいうところ見に行きますとね、櫓（やぐら）じゃなくてね、あらかじめ石でもってできているんですよ。みんなそこへ入れてやってますからね。それから東京に行きますとね、どんと焼きやっている神社がありますよね。そこもおそらく、櫓（やぐら）は組んでいないと思いますよ。湘南地区の場合なんかはね、やっぱり櫓を組んでいるみたいですね」と、Iさんが補ってくれた。「あれはサギ祭りというのかな」（Iさん）。櫓（やぐら）を組んで行うどんと焼きは珍しいという。今のような櫓を作るために、設計図は用意されている（資料として設計図を見せる）。ところが、櫓の高さは、その年によって違うのだそう。「そのときの（職員・実行委員の）気分で高さが違うんですよ。元気のいい役員るときは高くなるし、ちょっと風がくると慎重派が低くする」。臨機応変にやり方が変化するところが、手作り行事のおもしろさなのかもしれない。

自然に依存するどんと焼き 農山村で行われる行事は、もともと自然の素材を利用して行われてきた。どんと焼きも豊かな自然の材料を用いて行われてきたものだ。自然が豊かな地とはいえ、都市化が進む鶴ヶ島でも手つかずの自然は少なく、農業も縮小の一途にあるようだ。自然の材料に依存するどんと祭りは、それだけ準備に苦労することが多くなっている。「それで藁もですね、土地のお方にね、譲っていただくわけです。この辺の農家は、全部百姓やられていますから、刈った稲をね、これはムギですか稲ですか、無償でね提供してくれているんですよ。今では稲藁（いなわら）を手に入れることも容易ではなく、貴重なものである。鶴ヶ島で稲作をやっている家はほとんどないとIさんはいう。「この辺で稲を作っているのは一軒だけです。予約で（稲藁を）確保しておくって形で、どんと焼きに備えています」。Tさんも農家の善意・好意に感謝しているという。「毎年快く提供してくださる、そういう方がありますんでね、できるんですよ。竹もそうですね。竹林が多いですからね、この辺では」。五穀豊穡を祈願し、自然の恵みに感謝するいろいろな祭りや行事が各地に受け継がれてきた。どんと焼きは、人間の生活が如何に自然に依存し、その恵みを利用する中で営まれてきたかを教えてくれる。

今では、焚き火をすることもままならない。焚き火は有害なガスを発生させ、公害の発生源になるからだ。鶴ヶ島でもどんと焼きをするときには細心の注意を払ってきた。「市内に住んでいる者として、お飾りのビニール類を外して、こちらに参加させてもらっています」、どんと焼きで燃やすためにお飾りのビニールやプラスチック類はすべて取り外すと原田さんはいう。Iさんのことばは、主催者側の苦労をよく表している。「そうです。そのビニール類を外して（燃やす）ってのが、鶴ヶ島のどんと焼きです。所沢のダイオキシン問題、ほうれん草から出た事件がありましたね。あの年にここでは燃やして有害な物質が出るもの、そういうものを取り外してやりました。燃やすお飾りを選別してどんと焼きをやっているということでNHKが来たんですよ。燃やすものから人工物を排除し、自然の素材のみに徹底したことが、鶴ヶ島のどんと焼きを存続させる力になった。NHKでテレビ放映されたところから鶴ヶ島のどんと焼きも広く市民に受け入れられ、一般的な行事になってきたのではないかと。それ以前は東公民館の行事という感じで受けとめられ、参加していたのは地域の人だけだったようだ。今では、地域を越えた行事として広く市の外にも知られるようになった。

どんと焼きは、勢いよく火を燃やす行事でもある。煙が流れ、火の粉が飛び、灰が舞う。近隣に

民家が密集していると、どんど焼きのような行事は催行が難しくなるのではないだろうか。「場所なんです。まだここには民家がまばらにしかないでしょう。ここでもしその辺が分譲住宅にでもなると（どんど焼きは）できないかな、と思う。歴代の館長で、一回、強風で震えながらやったってことがありました。一回は確かに強行実施したことはありました。2代目？3代目？初代かもしれない。Mさんのときかな？Mさんの2回目くらいかな？7、8年くらいの間会長はMさんだったでしょう。でも、今まで中止になったことはないんですよ」。どんど焼きは鶴ヶ島の自然に支えられ、町の新しい伝統行事として定着してきたのである。

町民みんなが楽しめる文化・行事を どうしてどんど焼きをやろうと思ったのか、始められた当時考えられた主旨を聞いてみた。Tさんのことばは、どんど焼きの歴史の長さを表している。「最初の頃のことはね、Mさんが一番よく知っているんだ。初代の職員だったそうなんです。5年くらいこの公民館にいた」。Mさんによれば、コミュニティセンターの完成が大きなきっかけになっているようだ。「最初は、昭和56年に初めてコミュニティセンターができて開館して、このセンターを知ってもらおうという思いがありました。それまで文化施設も何もなくて、地域の人がみんなが集まって何か文化行事をやることはなかったんです。公民館で話をして、地域とのつながりを生かして何かを創り出し、みんなで楽しめて継続できるような行事をやろうということだったんです。子どもも、大人も、みんなが一緒にできて、それを継承できる形で、何かできないかということで探しました。伝統行事のようなものがないんじゃないかと。開館が5月だったんですが、お正月くらいに何かできるものはないかと探しました。当時は、小正月の行事で何かないかと、町史編集室などいろいろ調べました。この辺にも『まゆ玉』などはあるんです。地方によっては『おたきあげ』もあります。鶴ヶ島でも昔は何か小正月の行事が何点かあったんですけども、どんど焼きという形ではそんなにはやっていなかったんです。昔稲を作っていた頃は、そういうことをやっていたかもしれない程度だったんです。行事で地域のみなさんとお祝いできるし、施設のアピールにもなります。地域のみなさんとのつながりができる行事ということで探しました。調べてみると、東北や埼玉県北部ではどんど焼きをやっているんですが、この辺では例がなかった」。どんど焼きが生まれるまでには、みんなで楽しめる行事を探す苦労があった。



図8 櫓（やぐら）を立てる
(東公民館写真集より)



図9 「どんど焼き」で餅を焼く
(東公民館写真集より)

「うちの方ではどんど焼きのやり方はわからなかったのですが、知っている方を何人が訪ねて教わり、こういう形でやろうということになりました。当時は、今みたいにインターネットがないので、どんど焼きの写真も手に入らず、すぐにわからなかった。話を聞いたら、小正月にやる行事で、竹を組んで藁なんかを入れて、松飾りやいろいろな飾り物をそこに入れて燃やす。燃やしたもので子どもたちが餅を焼いて食べると元気になるというんです。もう一つは、書き初めを火に入れると今度は字がうまくなるという。これは、小正月の子どもさんの行事にいいんじゃないか、というので準備を始めました。当時もう1人職員がおり、その職員といちいち研究しました」。当時は、正月

第1週、第2週の土曜日などに行うことも考えていたようだ。

何をやるにも地域の人たちの協力がなければ実現は難しい。力を貸してもらえそうな人たちへの声かけから始まった。「Iさんとか、近所の方に声をかけて、こういうのをやりたいんだけどどうだろうかと話したら、『おもしろいね』ということで快く引き受けてくれたんです。この辺だったら竹もあるし、当時はまだ家には藁などもあり、何とかなる時代でした。『じゃ藁もあるよ』『ほかに何が必要なんだい』というんで、ひとまずどんど焼きには竹と藁さえあれば大丈夫だという話になりました(図8、図9)。今はこういう形になってんですけど、最初はもうわからなかったんですね」。はじめは試行錯誤の連続だった。

試行錯誤を繰り返して 手探り状態で始めたどんど焼き、思わぬハプニングもあった。「当時はね、竹を切り出してきて、そのまま櫓(やぐら)にしちゃったんですよ。切らないで、だからもう高さが15mぐらいで、竹の先に葉っぱをつけたまま焼いちちゃったんですよ。1月にやっている方に聞いたら、東北などでは1月は一番風もない時期だからよっぽどじゃないと大丈夫だというものでしたから」。最初の年はひとまずそんな状態でどんど焼きを行った。百聞は一見にしかず、実際のどんど焼きの迫力は満点だった。「やったら、やっぱりすごいですよ火力が、竹の丈が(普通のどんど焼きの)倍なんですからね。下から見るともうものすごく上まで火が昇って、火事状態になっちゃってるんです。音も聞いたら、音もすごいで、騒然としました。竹をそのまま切って(火の)中に入れておくと、それがはねるっていうんですよ。子どもたちボンッというとその音も楽しいし、火の粉が飛んくるのでおもしろいんです。だから、それも入れておけといわれたことがあって、それも入れたりしました。入れすぎて当時はもうえらい騒ぎでした」。竹を火で焼くとパンツ、パンツと勢いよくはじける。たくさんの爆竹を一時に鳴らしたようににぎやかだったのであろう。

これが第1回で、ひとまず無事に終えることができた。「このときはどんど焼きだけだったのかな。当時チラシなど作って、声をかけた近所の人何人かとIさんが手伝ってくれて、第一回はその程度でやりました。これはちょっと下手をすると火事になっちゃうといつて、3年くらいは試行錯誤をやりました」。回を重ねるごとに少しずつ改善もしていった。「2年目くらいからは、昼間からやっていますと、寒いなどという話が出てきました。子どももせっかく来るんだから、餅つきをやろう、甘酒をやろうと、いろいろな催しを加えました。2年目ぐらいからですね。1年目は終わってから打ち上げをし、大人たちで一杯やっちゃいました。それぐらいだと思うんです」。子ども向けの楽しみを加えて、どんど焼きはだんだん形を整えてきた。

2年目ぐらいから今のようなどんど焼きの形になってきたという。「最初の年は準備というものがなくて、すぐにどんど焼きにとりかかりました。次の年の2年目は、前年に懲りて、他のいろんな所のどんど焼きを探して写真を見ると、鶴ヶ島みたいにそんなに大きいのはないんです。どんど焼きが櫓(やぐら)型、ピラミッド型だというのがわかって、2年目頃から今の形になっているのかもかもしれませんね。2年目頃からは、餅つきをやったり、お汁粉を作ったり、それも地域の方に呼びかけてもらって、杵や臼を借りてきて始めました。餅米なども『じゃ、私が持ってくるよ』などと、材料を提供してもらって始まっているんです」。地域の人々の結びつきが強かったことをうかがい知ることができる。

干支の子どもの火入れ お正月の飾りを燃やすどんど焼き行事の再現から、手作りの料理が振る舞われ、住民同士の和やかなふれあいの場へと行事・祭りは変化してきた。「最初はあるこは各家庭で煮てきたんですよ、Fさんの話は女性の関わりが大きかったことをよく表している。料理を持ち寄ったのは、公民館に「調理室がなかったから」なのだそうです。どんど焼きの行事を作り出してきた彼女自身の楽しい体験談でもあった。「家で煮てきたんです。それぞれ家庭のお鍋に煮てきて持ち寄ったんです。お鍋だから形もいろいろ、味もいろいろで」。ここには、地域のありのままの素朴なふれあいがあった。Mさんはそう思う。「そう、ふれあいだったんですよ。どんど焼きが始まるまで、この辺では公民館でも地域住民のふれあう場は何もなかった。そういう団体もなかったんです。最初は、地域の公民館は、団体を中心にした活動の拠点ということだったんです。でも、それ

だけでなく、地域とのつながりも持って、コミュニティセンターを地域の施設にしてもらおうと思いました。今も同じ思いなんです。大人だけでなく、子どもたちと一緒に公民館で活動できる行事を、という形でたぶん始まったんだって思います」。子どもから大人まで関われる地域の広場としてセンターを機能させたい、そんな願いが職員にも住民にも強かった。

どんど焼きは、子どもの火入れで始まるとFさんは語る。「毎年、その年の干支の生まれの子どもたちが、火入れという形でね点火し、どんど焼きが始まるんです」。火入れ役は、最初から干支の生まれの子だったわけではないとIさんはいう。「最初は、子どもが集まってきたんで、火入れどうしようかって話になったんです」。Mさんの記憶ではこうだ。「一番最初は、年齢指定はなかったでしょう。2回目か3回目でしょうね。何年目かに、生まれ年の子、小学校6年なんです。その子どもを火付けの役に当てたということです」。Iさんもそうだという。「集まってきた子どもの中から手をあげさせて、火入れをさせたり、何か適当に点火役の子を決めていました」。形を変えながら、ともかく子どもが参加できて楽しめる行事へと形を整えていったのだ。

火入れにも工夫が凝らされている。Mさんが会長のときに松明を用いるようになった。「松明を作りまして、その本数だけ用意する」。M実行委員長用とその年が生まれ年の子ども用と最低でも4本、全部で5本です。松明は、最初は実行委員長のところから火をつけて、点火後に子どもたちに火を分けていきます。終わりの方は五味ヶ谷太鼓連の太鼓になってますけど、どんど焼きへの火入れは私の太鼓の合図で点火しました」。松明を手にした子どもの姿が目につく。

餅焼きと無病息災・御利益祈願 Fさんは、かなりの数の子どもが参加するという。「けっこう来ますよ」。Mさんは、お餅が食べられる魅力も手伝っているという。「たぶんお餅もあるんですよ。お餅食べられるということもあるんで、参加する子はすごい数ですね」。松飾りを燃やした火で餅を焼き、それを子どもたちが食べるのだ。お餅は各自が家から持ってくる、とIさんはいう。「お餅は全部持ってきてもらってね。竿はね、全部公民館で用意します」。餅は竹の先に刺して火にあぶって焼くのが一般的だ。最初は、餅焼き用の竹竿もなかった、とMさんは当時を回想する。「竿もなかったもんで。だから最初は、竹の先に刺してたんですけど、落ちちゃったりするので、だいぶ改良されてこういうものに落ち着いていると思うんです」。一本の竹を釣り竿のように使って餅を焼くのだ。釣り糸の代わりに針金を竹の先に結わえる。針金の先にお餅を落ちないようにつける。用意するこの餅焼きの竿は、だいたい180本から200本くらいになる。「全部はけちゃうんです。足りないくらいです」、とはIさんのことばである。

焼いた餅はその場で食べる、とIさんが教えてくれた。「その場でみんな食べていますね。家に持って帰ると固くなっちゃうから」。「おすそ分けする子もいる」とFさん。「持って帰るってのはないけど、子どもさんがね、焼いた餅を焼いていない人に少し分けてあげるってのはありますよ」。みんなが、その場で喜んで食べる。からみ餅を作ったり、あんころ餅を作ったりして配ることもあったそうだ。O157事件がきっかけで、野外での飲食は制限されるようになった、とIさんはいう。「だけれどね、O157がやかましくいったでしょ、生ものをやるとまずいってんでね。やらないんですよ、からみ餅もね。お汁粉はちゃとやるんですよ。O157がないころは、何でもありだったんですが」。みんなで楽しく食べる喜びが一つ減ってしまった。「からみ餅、きなこ餅、お汁粉、いろいろありましたね。ほんとに一番おいしいんだけどね」。Fさんも残念そうだ。

地域を越えた広がり どんど焼きは、地域の人たちが中心になって参加している行事だ。Mさんは、近隣の協力があってこそそのどんど焼きだという。「職員だって2人か3人しかいませんので、どうすることもできませんのでね。だから自治会の方が、もうそのたびに20人、30人とね、みなさん来てくれるんですよ。それで櫓(やぐら)を組む作業を全部するわけですからね。普段はね、公民館というと老人が多いんですよ。若い人はあまり来ないんですよ。だけど、この場合は、Iさんが自治会長のときからずっと続いていてね、毎年20人から30人くらい自治会の方が来てくれるんです」。どんど焼きを維持し盛りあげるには、自治会の力が大きいという。

Iさんによればどんど焼きを契機に自治会の活動も活発になったという。「あれから五味ヶ谷自治

会も自治会役員が出るようになったんですよ。知人を動員して手伝ってもらったものが、それはもうみなさん自治会役員がやるものと思って。「自治会の行事みたいだね、みなさんお手伝いしてくださり、サポーターなんです」、というのはFさんだ。準備中に、子どもがおもしろがって見に来たりしないのか、Mさんに聞いてみた。「準備段階ではそんなに来てませんね。午前中にだいたい組んじょうですよ。点火するのは夕方ですからね。それまで餅つきをやったり、子どもが遊ぶようないろんな行事をその都度考えて、今年はこういうのをやろうと企画するわけです」。子どもが参加するのは、行事が本番になる夕方になってからだ

利用者懇談会が発足したのが昭和60年(1985年)からだ。Iさんは当時をこう振り返る。「地域のみなさんと協力して、行事など作りました。サークルに入っていなくても、公民館を使っている人ならだれでもということで、利用者懇談会を組織したわけなんですよ。」「Iさんが第3代の会長さんですね」と語るのはMさんだ。「私(Mさん)が昭和61年くらいまでここにいたのかな、赴任期間は5年ですからね。地域のみなさんと一緒に何かをしたいというので、サークルに属していない方にも声をかけました。行事などいろんなことを協力してやっていこうと、最初利用者懇談会を立ち上げました。Iさんをはじめ、みなさんに手伝ってもらうために、サークルさんなど周辺の方に声をかけて、オーナ組織として発足しました。公民館の運営について意見を言ってもらいますし、行事も一緒にやっていただく、そんな間口の広い組織として、最初昭和59年か60年頃できました」。Iさんの記憶では、懇談会の話は59年頃から出されていて、60年に発足したのだという。

Mさんの話で初代会長に話題が移った。「Tさんという近所の方が、初代の会長さんで、この人がいろんな方に声をかけてくれてました。今でも続いている関わりが一番長い地域の方も一緒になって、いろんな行事を盛り上げました」。地域に支えられてみんなに親しまれる正月行事になったどんと焼きは、一つの地域を越えて鶴ヶ島市全体の行事になりつつある。Fさんは、参加者の広がりには驚く。「今地域を越えています。ほかの地域からもどんと焼きに来ますもの、ほんと」。Mさんも同じ思いだ。「私なんか駅の方から来る人から聞かれるんですよ。この辺でどんと焼きする会場はどこですか。東公民館の場所すら知らない人も、ここでどんと焼きがあることを知っているんですね。ということは、どんと焼きはかなり鶴ヶ島全域に広がっているということですね」。最初公民館で計画し作り出したものだが、今では市民みんなのどんと焼きになっている。公民館の職員は、異動で入れ替わっても、どんと焼きは鶴ヶ島の伝統行事として地域に根付き継承されている。住民主体の行事になっていることが、それを可能にしている。

年輪を重ねるどんと焼き 再び異動で赴任してきたIさんは、どんと焼きの発展を目の前にして感慨もひとしおだという。「私なんか、この間20年ぶりにここに帰ってきて、どんと焼きがここに発展した形で根づいているってのはすごいと思いますよね」。Mさんの次のことばは、どんと焼きの伝統を物語っている。「たまたま取材(本調査)が今年だったからいいけど。そういういきさつを知っているIさんのような方がいるからいいけど、そうでなかったらどんと焼きが生まれてきた今みたいな話は聞けなかったですね」。Iさんもどんと焼きとともに年輪を重ねてきたのだ。

どんと焼きは、子どもも大人の人もみんなが楽しみにしている。ただ、火入れは夜になるため、子どもは必ず父母同伴で参加することになる。真冬の夜に野外で火を燃やこと、燃え上がる炎を囲んで老若男女が集い交流することは、子どもにとっても大人にとっても、日常とは異なる特別な感動を与えてくれる。今ではこうした機会が地域の生活そのものから姿を消してしまった。Mさんはこう話す。「普通、今ではできないことでしょう。公だからできることですね。今ね、ダイオキシンとか、公害問題になります。伝統行事ってのはやってもよいことになっている。規制から除外されてんですよ。農耕のためだとか、公共のためで、野焼きじゃないということで。この頃は松飾りなどいろいろな飾り物にビニールやプラスチックが使用されているので、それだけは外して選別してやっていると思うんですけど。さっきIさんがいったように、一時ダイオキシンの問題がすごくはやっていましたよね。狭山ですか、あの辺のどんと焼きはみんなやめちゃったんですよ。あの時分にね。ここ鶴ヶ島だけは、やろうということにしてね。選別すればいいじゃないかってことでね。

飾りの中にいろんなやつがあるので、金属などは全部除外して、それでやったんですよね。NHK テレビやテレビ埼玉が取材に来て、放送するんです。今年も何かあるんです。テプコ、あれは毎年来ますね。1月12日朝10時40分からNHKの地元の番組でPRすることになっているんですよ。FMは、テレビの取材とは別に毎年取材に来ているみたいですね。マスコミでも取り上げられるほど鶴ヶ島のどんど焼きは有名になった。と同時に、どこでも行われてきた庶民の伝統行事どんど焼きそのものがめっきり少なくなってしまったということでもあろう。

どんど焼きの魅力 いろいろな世代の人たちが関わることができる、これはどんど焼きのよい点の一つであろう。どんど焼きを初めてよかったところを伺ってみた。Mさんは世代を越えた交流をあげる。「世代を越えて1つの行事を盛り上げられるというのは、私としてはすごくよかったんだと思いますね。老若男女集まって、1つのものに対して集中できる、燃え上がるときってのは『うわ〜』ってことで、あれはやり遂げたって感じがあるから、それがいいんじゃないですかね。一部じゃなくて、全体で盛り上げるところが」。みんなで心躍らせ、感動を共有するのが、どんど焼きの真髓なのだ。

年配の人たちは若い子小さい子と、子どもたちは地域の大人・年輩者と接し、交流する機会になる。Mさんは、世代を越えた交流もどんど焼きの貴重な点だと思う。「逆にじいちゃん、ばあちゃん、『竿持ってこうやると目を突く』とか何とかいってますけど、その辺もまた言える楽しみもあります。また、いわれた人もいいんじゃないですかね。『これは危ない』とか、いって教えてもらえるんですから。先ほど出ましたが、子どもに関する事件というのはいっぱいありますからね。それを子どもも知らなかった部分もあるし、親も注意できないところもあるから。まあ、年に1回でも老いも若きも1つになれて、叱られてもいいんじゃないですか」。世代間交流の良さということであろう。Fさんも地域の交流が大切だと思っている。「おじいちゃん、おばあちゃんがいらない子もいますよね。そういう子は、よそのおばあちゃんでも、そのときは仲よくお話しできるし、楽しいと思いますよ。そういう交流ができて、また1つの子どものためにもなるというものですよね」。どんど焼きは地域交流の中心である。

Iさんは、消えゆく日本の文化を継承し、子どもたちに伝えていくことが必要な時代だと指摘する。「テレビゲームや文明的な遊びに子どもがどっぷりつかる中で、今またどんど焼きのような昔からの伝統行事を、この辺の子はみんなが体験できる。これは、いいことです。日本の正月を伝えられる。子どもたちが大人になっても記憶に残れば、新しい鶴ヶ谷の文化になるでしょうね」。平成12年11月20日、東公民館は、埼玉県文化ともしび賞を受賞している。土屋知事の時、知事が鶴ヶ島と関わりがあったことから、市は招請状を出し、知事をどんど焼きに招こうとしたことがあった。知事も応諾していたが、当日所用ができ残念ながら実現はしなかった。知事から「ダイオキシンはどうやっている」と尋ねられ、「選別してやっている」と返答したこともあったという。

市の伝統行事として、公民館前でこういう形でどんど焼きをやっているところは少ない。畑でやる場所はあるが、市の中心、公民館に近いところでやるのは鶴ヶ島市の特徴である。地方都市は予算がなくなり、行事の催行も厳しくなっている。鶴ヶ島でも予算が減らされ、今年もどんど焼きは厳しい状況にある。関係者は、やり方を工夫して存続させていきたいと願っている。まったく別な面での課題もある。農業を営む農家がほとんどなくなり、藁や稲が手に入らなくなっている。農業をやる家は、今かろうじて一軒だけこの地区にある。そこからどんど焼き用の藁を提供してもらっている。もし、稲作農業をやる農家がなくなったら、どんど焼きもできなくなる。脚折雨乞い行事も同じ事情を抱えていた。龍蛇を作成するには大量の藁が必要だからである。農家がなくなり、龍蛇を製作するための藁を他で工面しなければならなくなったのだ。今では実行委員会と保存会の人が農地を借りて、自分たちの手で田を作り、藁を確保しているという。どんど焼きも同じ事態にあり、新たな対応を迫られている。

私たちの身の回りに自然がなくなっているだけではない。かつては、日本の里山では落ち葉を燃やしたり、木の枝を集めて燃やしたりすることはどこでも行われていた。稲刈りが終わった田んぼ

では、米を取り出した粃殻を焼き、たなびく煙は農村の風物詩ともいえるものであった。幕末から明治にかけて、海外から多くの人々が日本を訪れたが、きれいに手入れされた里山の美しさに驚嘆し、世界にも類を見ない美しい光景と絶賛し感嘆した。今やその美観も失われ、焚き火すら害毒をまき散らす有害行為として禁じられている。人間の営みを自然の一部として再考すべき時期である。

【聞き取り調査 4】

脚折雨乞い行事

「脚折」のいわれ 脚折（すねおり）雨乞い行事の保存会の会長で、市の議員もされているMさんに脚折雨乞い行事についてお話を伺った。まず、脚折（すねおり）という名前の由来についてMさんに説明していただいた。「脚折というのは地名なんですよね。由来としては3つくらいあるんですけどね。昔から脚折というところに坂がありましてね。このわきの道なんかは坂になってるんですね。そこに坂があったために、膝を折ってあがるということもあります。そこに坂があって馬や牛で荷物を運搬するのに骨が折れるということで脚折といわれるようになった。これが一番のいわれかなと思うんですが。あとは砂が入ると書いて、それが訛って脚折になった。羽折って所もあるんですが、そこは羽が折れるので、それが訛って脚折になったかなって説もあります。あとは、八幡山というところがあり、そこに修験者がいまして、そこに人が入ると『脛を折るぞ』と脅すということで脚折になった。いわれとしては、この3つがあるんです。私が一番もっともらしいと思うのは、最初の言い伝えですね。確かに坂があったんですね。今は区画整理で平らになっていますけど。坂道で骨が折れて脚折になったんじゃないかと思いますけど」。いろいろないわれがあるものだと、感心しながらお話を伺った。地名にはその土地その地域の歴史と呼称の由来が込められており、人々の生活と文化を反映する意味深いものである。

この雨乞い行事は、降雨祈願に登場する龍にちなんで、全市的あるいは全国的に『龍サミット』を開くくらい有名になっている。なぜ、『脚折雨乞い』といわれるのか、そのいわれをMさんに聞いてみた。「一番のことは、『脚折かんだちが池』というところはですね、大変広くて大蛇が住んでいて、そこに祈ると必ず雨が降ったということです。ですが、江戸時代の寛永の頃に池を狭めて新田にしてしまったために、そこに住んでいた大蛇が群馬県の板倉町の雷電神社の池に移ってしまったんです。それからというもののいくら祈っても雨が降らなくなった。干ばつで困った農民がですね、作物が枯れそうになって困って、雨乞いをしたんです。群馬県の板倉町の池までお水をもらいに行って、大きな蛇、昔は大蛇といったんですけど、大蛇を作って池の中で雨乞いをやったんですね。そしたら恵みの雨が降ったということで、それからというものは干ばつのときに雨乞いをやってきたというわけなんです。都市化が進みまして、昭和39年に行った雨乞い行事を最後に中断したままになってしまいました。ちょうどその頃はじゃんじゃん開発が進んでいるときで、いろんな文化、伝統文化が薄れている時代だったんですね。一旦とぎれてしまったんですけど、昭和50年に保存会ができました。翌年の51年から今度は4年に一度定期的に雨乞い行事をやるようになったんです。脚折雨乞い行事は、農民の必死の思いが込められた雨乞いの儀式だったのである。

雨乞い行事の復活 都市化の波に押されて姿を消した雨乞い行事であるが、地域の有志のみなさんが立ち上げ直して現在に至っている。伝統行事の復活には苦労も伴ったとMさんはいふ（図。「そうですね。老人たちに内容を聞いたりなんかしてですね、若者たちが一生懸命頑張っ、それを復元したんです。これが資料です。いつ頃から雨乞いをやっていたのかははっきりしなかったのです。たまたま平成16年ですか、雨乞い行事をやったときに、市の方で古文書を見直していたら「雨乞い入用通」というのが出てきたんですね。まあ会計簿みたいなものの中に入っていたんですね。それが弘化5年ということで、明治になる20年前ですね。それまでいろいろ説があったわけですが、

はっきり雨乞いをやったというのがわかったわけですね。脚折の雨乞いは、江戸時代から行われてきた行事だったのである。

Kさん(女性)のお父さんも行事の復活に深く関わっていた。「その頃、父さんたちがよく集まって相談してましたね。」「父さんなんか作り上げたんだね」、Mさんがことばを添えた。

鶴ヶ島には、昔から畑作とともに、水田も盛んであったのだろうか。水田はそれほど多くなかったとMさんが話してくれた。「水田は少なく、まあ、あったことはあったんですけど、畑作で稲を



図10 「脚折雨乞い行事」を語るMさん



図11 龍蛇・ミニ龍蛇の置物

作っていたんですよね。陸稲ですね。そのために日照りをくいやすかったんですね。陸稲はどうしてもすぐ乾いちゃいますからね。ちょうど穂が出る頃が大事なときなんです。その頃に水がないと、穂が実らないので、雨乞いもちょうどその頃やるんですね。昔は、埼玉県でも150人ぐらいで雨乞いをやってたんですね。雨乞い行事があったらしいんですよ。一つがこの脚折で、あと入間の新久(あらく)というところに一つ雨乞いがあった。たまに新聞に載ることがありますが、そこで小さい龍ですが作ってやるんですね。もうせいぜい1つか2つになっちゃったんですね。雨乞いというのは、畑と水田につながる中間地帯が多いんですね。水田地帯になると豊穰祈願とか厄除けとかいうんで龍はあるんですけど、雨乞い用ではないんです。雨乞いは畑地帯が多いんですね。雨乞いは、地理的な条件と密接に関係していることがわかる。

Mさんは、雨乞いそのものは、日本に限られたものではなく、国際性のあるものだとも考えている。「雨乞いという、吉田町の『りゅうせい(龍勢)花火』もね、あれも雨乞いの一種じゃないかと思うんです。タイとかラオスへ行ったら龍勢花火で雨乞いをやっているんですよ。花火は雨乞いの儀式で雨期になる前にやってんですね。だから、きっと吉田の町のも昔は10月じゃなくて6月とか、その頃にやってたんじゃないですか。長崎の『くんち』も11月ですか。その頃やってますが、最初はやっぱり雨乞いらしいですね。東南アジアの雨乞いと鶴ヶ島の雨乞いは、共通の起源を持つものかもしれない。夢のふくらむMさんの仮説である。

龍神の入水 Mさんのお話から、雨乞いの行事は、埼玉県内でかなり一般的に行われていたことがわかる。雨乞いは、いわゆるお祭りではない。雨乞い祭りといわれるときもあるが、自然と関わる人間の暮らし・営みの中で、『どうぞ雨を降らせてください』と、天に向かって捧げる祈りだった。今ではイベントとしての性格も出てきている。雨乞いは、お寺も神社も両方で一緒に祈願する。Mさんの話はこうだった。「官司さんとお坊さんが一緒に祈願するんです。神社とお寺の両方でお払いをするんです。『かんだちが池』に行きまして、二人のお坊さんが歌ったりうなったりして、両方が祈祷する。神仏総出でやるってことですよ。板倉の雷電社からいただいてきた水を竹筒に入れてくるんですけどね。その水を池に注いでから、龍神(龍蛇)が入ってくる。そこが一番のクライマ

ックスなんです。鳥肌が立つともいわれています」。大蛇の入水が雨乞い祈願の頂点になる。

龍は、まず白髭神社出発し、善能寺へ行く。そこでお祓いをして『龍神』に化身したあと市内をぐるっと回って、国道407号を渡る。龍が国道を横切る時間帯の交通は、通行止めにする。『あれたまげんですよ』とMさんが驚くほど大がかりに練り歩く。途中4カ所ほど子どもたちと担ぎ手を休ませる旅所が用意されている。お水や御神酒が振る舞われるが、最近は担ぎ手は飲まなくなったという。こうして龍はみんなに担がれて雷電池にやって来る。真夏のかんかん照りの最中に重さ3t、体長36mもある大蛇を2kmもの距離を担いで歩くのは大変なものだ。Mさんは、雨乞い行事は、忍耐の行事だという。「まいっちゃうから。真夏なんで、ほんと暑い盛りですよ。一番暑い盛り、一時頃出発するんですから暑いわけだ。大阪のだんじり、諏訪の御柱とかね、ほかの有名な祭りがあるけれど、脚折の雨乞いはね、暑さと重さにじっと耐える祭り。危険性は結構少ないんです。危険性は売りものじゃないんですけど、じっと耐えるのが特徴かなと思います。私が調べたのでは、一番大きい雨乞い行事です。雨乞いでは、龍では世界一じゃないかな」。世界一の規模、それが脚折雨乞い行事だ。

雨乞いの年には、子どもたちもミニ龍蛇を担いで市内を練り歩くと、Mさんが紹介してくれた。

「ほんものの巨大な龍の前に、子どもたちの龍が3体が行くんですね、鶴子連（鶴ヶ島全体の子ども会をまとめる鶴ヶ島子ども連絡協議会）の方たちに担がれて、最初に練り歩くわけなんですけど」。龍が池に到着すると、雰囲気盛り上げる演出がこらされているという。「子どもたちはどのくらい参加してたかね」。Mさんがつぶやいた。女性と男性に別れて、池の中に入るのは男性である。男性に担がれてやってきた龍蛇は、雷電池近くの自治会館で女性の担ぎ手と交代する。Mさんの話の続きを聞こう。「自治会館から池までは女性が龍を担いでこう行くんですよ。池の手前でまた男性の担ぎ手に交替するわけなんです。昔から龍神の入水は男がやるってことになってますから。とりあえずそういうことでやっているんですけどね」。子どもたちもまた雨乞いのクライマックスを演出する。Mさんの話は続く。「いいんですよ。その子どもたちがね、女の子は階段のところですね、龍が降りてくる階段のところで、雨降って合唱するですよ。男たちは担いでね、あれもいいもんだね」。青いハッピーを着た子どもたちの歌声とともに龍神を池に迎え入れる。感動の瞬間だ。ハッピーはMさんの好意により、寄付されたものだ。伝統行事にかけるMさんの熱意が伝わってくる。

観客数はどのくらいになるのだろうか。Mさんに聞いた。「2,000人くらい来るんですけど、狭い場所ですから大変なんですよ。ちょっとした花火以上ですね。問題は会場が狭いということです。空閑地の確保が難しい。見る場所というのは限られているから」。池があって、大人数を収容できる場所は、それほど多くはないと思われる。「どんどん有名になればなるほど、会場の確保が困難になってくる」という。現代において伝統行事を維持し発展させることの難しさを示している。

行事が終わると、町民の総力を挙げて作られた龍蛇は、その場で解体されるという。Mさんの話を伺うと、解体そのものが龍神の御利益に預かる重要な儀式になっている。「その日に、この中で解体するんです。龍神の身体の一部をみんな床の間へ飾って置くんですよ。そうですね牙とかね、目玉とか。解体された龍神は、『昇天されました』と、会場みなさんに告げるんです。この宝冠をとった方は家宝になるというか、ありがたいものとして床の間に飾っておくんですよ」。伝統文化が、行事を通じて現代に息づいているのである。

みんなで作る龍蛇 雨乞い行事は、お祭りではない。とはいえ、その間お供えや祈願のために料理やごちそうは作られないのだろうか。そんな余裕はないとMさんはいう。「いえ、麦飯、おにぎりで、昔も今もおにぎり使ってます。もうごちそうどころでなくて、雨乞い一本にかけてやっています。家をすっかり空にして」。行事を執り行うことに全精力を注ぎ込むという。それほど大がかりな行事だということだ。原田さん曰く。「どんどこ焼き以上にもっと大々的なのが雨乞い行事です。あとで写真を見せていただくとわかりますが、竹を組み立てて、体長36メートル、重量3トンの龍蛇を作るんです。私は、覚えてます。もう覚えてしまいました。ですからものすごいんですよ。池の主にふさわしい巨大な龍を作るのだ。

原田さんが龍蛇作りをわかりやすく説明してくれた。「龍蛇を組み立てる人が、朝総出でクマザサを採りに行ってきます。そのクマザサを飾りつけに使うわけですよ。龍の鱗に見た立てて作ったりするんです」。自然の材料を使って龍蛇を制作するところにも苦労があるという。伝統の龍を作る前に準備が必要だ。「龍を作るための藁を育てる。そのためにまず麦まきから始まるんです。ほんとに麦まきから始めたことがまずすごいですよね。子どもたちの関わり合いってところは、麦踏みから入ってくんですよ。麦踏みは、子どもはみんな声かけられています。子ども会では、行ける子は行こうねって、誘い合って行ってますね」。麦とか藁を作る人がいなくなると、龍を作ること自体が難しくなる。行事そのものが自然に依存している点では、どんど焼きと同じである。

Mさんがさらに説明を加えてくれた。「麦や藁作っている方がほんとに少ないんですよ。自分たちで畑を借りて種を播きます。広さは、だいたい5,000平米なんです。おおよそ小学校のグラウンドぐらいの広さなんです。11月の下旬に麦を播いて、2月から二月ぐらいの間だに3回麦踏みをします。この3回の麦踏みは、脚折の自治会の方と一緒にやるんですね。9自治会あるんですけど、3自治会ずつに分けてやります。まず、子どもとの関わりはそこから始まって、本番の年まで続きます。行事の前、当日になりますと、龍を作ったり、龍を担いで練り歩いたりします。行事の1週間前にはもう龍の形は作っておくんですけど。龍作りの最後にクマザサを刺すわけなんですよ。クマザサだけは萎れちゃいますので、当日の朝6時に採って来るんですね。高倉にOさんという方がいらっしゃるんです。獅子舞の保存会長さんですね。同窓の高倉獅子舞のBさんが、この町の元収入役さんなんです。土地を持っていられっしゃるんです。クマザサをそこにいただきに上がって、もらってくるんです。みなさんそういう名士と交流し、新旧一体となって一緒に協力して楽しもうといっているんです。これは鶴ヶ島の文化、風土だと思っていますよ。その笹をですね、大人も刺しますけれど、子ども会の方をお願いして、一緒に刺してもらっているんですね。子どもが刺しに来れば、大人も興味ありますからね、参加するんです。いいことなんですね、いろんな面で」。準備を通じて、大人と子どもの自然な関わりが生まれている。

ミニ龍蛇の登場 子ども御興よろしく、子ども用の小型の龍蛇も用意されると原田さんが語ってくれた。「子どもたちもミニの龍蛇を作るんですね。全体の大きさは五分の一だったかな七分の一だったかな、そのぐらいの大きさのミニ龍蛇を作るんです。5メートルくらいあります。参加する子どもを、子ども会や健全育成会に公募したりして募ります。そのミニ龍蛇を子ども会の子どもたちが、同じハッピを着て担いで池まで行くわけですよ。まずミニ龍蛇の登場ですって、紹介します。龍は3体あるんですが、子どもの龍がまず池に姿を見せて、その後でほんとの龍が、大蛇がやってくるんです。そういう伝統行事に子どもたちを巻き込んでやってきたご苦労は大きかったと思います。ちょうど2000年のときに子ども用の龍も一緒に参加してもらったんですよ。池に到着するのは3時頃になったんですね。そんなんで待っている人たちの楽しみや継承活動を含めて、ミニ龍蛇を参加させて盛り上げていこうということになったんです」。原田さんの生き生きとしたことばに、行事の活気がよく表れている。

群馬県の板倉神社と鶴ヶ島市は何か交流はあるのだろうか。Mさんによるとかなり古くからお水もらいは行われていた。「明治7年の頃にはもう記録は残っているんですね。その頃からお水をもらいに行っているんです」。行事のときには板倉神社から水をもらって来る。そのときは、市長さんも行くのだと原田さんが話してくれた。「40人くらいバスに乗って行くんですよ。お水をもらってくる。くるだけではないんです。ちゃんとお祓いをして、お水を竹筒に入れてもらってきます。鶴ヶ島市で行事をやるときには、『板倉から届いたお水が入水です』って、ちゃんと池に撒くんです」。行事が以前とは少し変わったところもある、とMさんはいう。「昔は竹筒に1本だけだったんですけど、市の無事、龍蛇の無事と子どもの龍の無事ということで3本いただくんです」。ミニ龍蛇のための御神水が一つ増えたのだ。

昔から雨乞いの効果はあったとMさんは語る。「板倉から水が届いたら雨が急に降ってきたというので、雨乞いをすると御利益があったんですよ。昔のいわれですね、記録にあるんです。昔は水

がなかったから大変だったでしょうけど。今だと民話的な世界ですが、夢があつていいですね。群馬県の板倉町は逆に水が多すぎるくらいで、『カエルがションベンすると洪水になる』とか、そんないわれがあるくらいでね。板倉の雷電神社から、館林公園がありますよね、あそこまで舟で行けたといわれています。昔はねそういう湿地帯だったんでしょうね」。埼玉県と群馬県の県境を越えた協力・友好関係があったことは興味深い。

龍の住む雷電池 群馬県の『らいでんじんじゃ』の故事来歴を原田さんに伺った。「群馬には『らいでんじんじゃ（雷電神社）』、かみなりのらい（雷）、電気の電、雷電神社、それに池と書いて「かんだちがいけ」っていうんですよ。その「かんだちがいけ」に龍が入水するんですね。Mさんも読み方が難しいという。「これは絶対読めないね。板倉の雷電神社というのは、大もとなんですよね、雷電神社の。この辺の雷電神社の大もとなんです。雷電神社の傍らにその池があつたということで、『かんだちがいけ』と呼んだんでしょう。ほんとに「神立ちの池」って書くのが正しかったんでしょうけどね。それで「かんだち」と読ましたんでしょうけど、雷電神社のわきにあるからって言うんで『雷電池』って書いて『かんだちがいけ』って読ましたんでしょうね。『かんだちがいけ』は、『神立が池』であり、神（龍神）が姿を現す神聖なところだった。深刻な干ばつに襲われ、鶴ヶ島の「神立が池」は、板倉の雷電神社のご加護を得たことにちなんで『雷電池』と表記されるようになったという。

雨乞い行事は、4年に一度行われている。参加者は、回を追うごとにふくらみ、今では3,000人規模になるという。子どもたちを雨乞い行事にどのようにして関わらせるのだろうか。白髭神社を起点に巨大な龍蛇を雷電池まで運ぶには、元気のよい大勢の若者の力が必要だ。脚折の地区だけでは担ぎ手が足りないという。若い力の確保も一苦勞である。Mさんの話からその苦勞が伝わってくる。「次の行事開催が平成20年です。担ぎ手が300人。次のことを考えながら雨乞いをしていますよね。何ヶ月も前から準備しないと間に合わない。作り方を伝承していく人たちも高齢になりつつあるんで、そちらも考えなければなりません。龍蛇の製作法もそうですが、雨乞い行事全体を伝えていくという重要な仕事があります。ほんとに保存会がなかったら無理ですね。正直いって市ではできませんでした」。脚折雨乞（すねおりあまごい）行事は、現在、国選択無形民俗文化財・鶴ヶ島市指定無形文化財に指定されている。伝統芸能・行事を継承することは、出し物の大道具の製作から式次第、行事進行の手順、行事を執り行う場所の確保に至るまで、行事のすべてを含む。雨乞い行事は、技術の伝承、担い手の育成と共に、自然を保護する活動なくしては成り立たない、幅広い取り組みであり、並大抵のことでは維持できない。

雨乞い行事を見たときに「ああ、いいな」と感動する人が多いという。「あの龍蛇を仲間で担ぎたい」という男性もいる。最初の頃は、脚折の伝統行事、地元の行事であり、「龍を担ぐのは脚折の人たち」によって行われていました。最近は担ぎ手の不足もあり、参加者を募っている。そのことが、雨乞い行事が地域を越えて、広く親しまれることにつながり、多くの市民に歓迎されている。それでも、地元の伝統行事・文化であることは大切に守られている、とMさんはいう。「いちおう広報で募集しましてね、参加を募ります。かといってある程度脚折が主流を占めなくてはいけないということで30人くらいですかね、地元の人を集めています。外国人の方も参加するようになってきました」。行事は、国際的色彩も持ち、鶴ヶ島市の観光の一つにもなりつつある。

後継者の育成 神聖な龍は、お宮の中で作られるのだろうか。龍は全長36mもあり、神社の境内で作るには大きいすぎるとMさんはいう。「神社（白髭神社）のすぐ前に道路があるんです。その道路を借り切りまして、作業場にするんです。警察にも届けておきます。髭ってのは簡単な方じゃなくて須永の須のような難しい字です」。白髭神社の前の道路に、36mの龍を組み立てる長い台を作るのたそう。竹で組んだ台座の上に乗せて龍を組み立てていく。その工程をMさんが説明してくれた。「龍蛇は1週間前に作り始めますから、道路の真ん中に置いておくわけにはいかない。ですからちょっと端によけて置いておくんです。道路は、若干通れるようにはなっているんです。一応警察で絶えず警備してくれまして、「きょうは異常ありませんでした」と、ポストへメモを入れてく

れましてね。夜ね、見回りに来るんで有難いですよね。竹を組む技術や、熟練を要する細かな作業などがあるんです。担当の方同士で教わり合っているようですよね」。伝統工芸の継承者のように年季のいった技が必要とされるという。目や耳、口の中、龍の身体の各部位を分けて製作するのだそうだ。

技術を伝承するために普段から継続的な講習会が開かれている。Mさんに伺った。「毎年ですね、龍蛇製作の技術講習会をやっているんです。8月にですね。7月末か8月頃、頭の部分だけね。後ろの方はどうでもいいんだから。難しいのは頭なんです。頭の組み立てと竹細工が一番難しいですよ。竹細工の技術の習得がもっとも難しいので、今1年に一回の講習会と、その他に奇数月に一回日曜日にやっているんです。メンバー揃えて、この人はできそうだという人を揃えてですね、二月に一度やっています。でもなかなかうまくいかないですよ。まず（竹を）だいたい1センチくらいの幅に割るんですけど、均等に割るのが大変です。それをまた今度は3枚くらいに割くんですよ。それが割けない。切れちゃうんですね。まあ、竹が割けましたら、それを組み上げる技術を習ったりするんです」。日常生活から消えた技術は、講習会を開くなど意識的な取り組みがなければ保存できないということである。

Fさんは、雨乞い行事がこんなに発展するとは思わなかったという。「こんなに大きな祭りになるとは想像もしなかったですね。私は、その頃小学生だったので、父たちが何か再現しようと取り組み始めたことは感じていました。復活させた雨乞いがだんだん広まって、それがこんなに町を代表するような行事になるとは、とうてい思わなかったですね。自分がこの年になって、これほど大きな行事に発展したことに改めて驚いています。新しく引っ越してきた方が、どんどん行事に入ってこられたのがやっぱりよかったんだと思いますね。もし、もとからのお知らせでやっていたらとてもできなかったと思いますね。担ぎ手もそうですし、作る人も」。新旧の住民が宥和し協力し合うところに、雨乞い行事がここまで大きく成長した理由があるという。

Mさんが、地域の協力を語ってくれた。「脚折自体が、2,000戸くらいあるんですけどね。ほとんど80%の方が新しい方なんです。よそから縁があってこられた方なんで、そんなこといつてられないんですね。もう古いも新しいもなくね、一生懸命やってくれる人がいい人だということだね。役づけなんかも古い人だからというんじゃないくてね、新しくても一生懸命やってくれる人が役づけになっています」。住民に新旧の違いはない、地域をよくしようとの思いこそ最も大切だということだ。

ジュニアリーダーの育成 未来を担う子どもたちの育成と行事の継承はどのように工夫されているのであろうか。雨乞い行事だけでなく、それぞれのサークル、子ども会活動の中からジュニアリーダーを育てているという。いろいろな行事に参加しながら、子どもたちが育つ環境作りが計画的に行われている。雨乞い行事にしても、4年に1回の開催であり、どの子どももみな一時に龍蛇を担ぐことができるわけではない。機会があるごとに、子どもたちにミニ龍蛇を担いでもらい、一人でも多くの子に龍に親しんでもらうように腐心している、とMさんは語る。毎年開かれる子どもフェスティバルもその一つだ。「子どもフェスティバルのときに保存会が参加しまして、子どもさんたちに担いでもらったり、ホラ貝を吹いてもらったり、体験学習をやってもらうんですね。子どもフェスティバルは毎年ありますから、ミニ龍蛇を体験する子どもたちが増えてくるんですね」。「中学生でもかまわない」が、主に小学生を対象にしているという。子どものハッピー姿は「さまになる」と、Mさんは笑顔でいう。

地区の運動会にも子どもの龍蛇が登場する、とMさんが語ってくれた。「ふれあい運動会にもね、ミニ龍蛇は参加するんです。地区別に、中学校区くらいに分かれているんですけど（5地区）、地区別ふれあい運動会というのがあるんです。大きな運動会で、そのときも私共の地区では、昼休みの時間に子どもさんたちに担いでもらってミニ龍蛇をやります」。さらに、脚折の納涼大会でもミニ龍蛇は活躍するという。「脚折の連合の納涼大会のときにミニ龍蛇を出して、踊りの合間にだいたい4回くらい回りますかね。参加賞とかなんかいっぱいあげたりして、結構人気がありましてね。参加

賞に人気があるんだかなんたかわかりませんが」。おひねりが出るかどうかわからないというが、地元の会社や篤志家からの寄付や好意が寄せられるという。「おひねりはどうなんでしょうかね。ある会社の方でね、スケッチノートやアイスクリームをくれたり、そうしたご厚意はあります」。納涼大会に子どもの参加がきちんと位置づけられているのは、今どき珍しいことではないだろうか。

鶴ヶ島 鶴ヶ島は、近隣市町村と合併しないで「生き残ってきた」町でもある。それだけ裕福な地域だったのであろうか。Mさんはこう語る。「川越には合併しないで鶴ヶ島はずとやってきた。鶴ヶ島でもこの地区は何かあっても一番なんですね。公の建物ができるのも一番だし、いろんな面で一番だったんです。昔の史跡なども一番多いんですね。板碑が多いとか、郵便局も警察も一番にできていますね。市役所もあつたし、元の町役場が今の福祉協議会、今は福祉協議会と教育センターになっています。何でも一番なんですね。鶴ヶ島という地名自体も脚折の小字名なんですね。今もあります。407号沿いの車屋さんのところに」。鶴ヶ島の町の中心地が、昔から「脚折」地区だった。

鶴ヶ島は街道筋にあたる、とMさんが話してくれた。「ここは日光街道、参勤交代のたびに馳せ参じたという。桜がずっと並んでいて、桜並木になります。桜祭りはここが会場ですね。並木も排気ガスでやられましたけど」。中山道に通じる主要な街道だ。昔から交易は盛んな土地だったとMさんが説明してくれた。「八王子の方へ抜ける道ですからね。川越とのつながりもありました。うちの方の地名は鷹野屋敷と書いてあるんですけど、鷹野屋敷というのは鷹狩りの鷹を飼育していた地名なんです。高沢というのがたぶん川越の殿様の鷹を飼育していたんじゃないかなと思うんですけどね。それで鷹野屋敷という地名になったのでしょうか。小字名なんですよ。脚折は川越城主との関わりが強かったことから、今でも高沢さんという方が多いのではないかという。「(高沢の姓は)一番多いですね。鷹を飼育していた屋敷があつたんでしょうね。字名がまだ残っていますね。橋の名前とか私の住んでいるところで『天狗』というところで、天狗がいたんですよきっと」。今でもゆかりの地名が残っているところが多いとFさんはいう。

鶴ヶ島は、人口7万人ぐらいの町にしては行事が多いという。市の全景が市民に見えるところに魅力があり、合併せずにやってきた理由の一つかもしれないともいわれる。子どもを大切にすることも鶴ヶ島の地域文化といえるだろう。「ミニ龍蛇を作ったいきさつ」も、「子どもの出番」を作ることが大きな目的だったとMさんはいう。「あれはつくってよかったでしょ。5体作ったのかな。1体は墨田区の水の博物館、水資源の博物館に寄贈していつも飾ってあるわけなんですね。水を、雨水なんかをためて、活用しているところです。それ以外は寄贈してないんです。あとの4体は、市の方に寄贈しまして、自由に貸し出しできるようにしてあるんです。それぞれ名があるんです。公募して、子どもたちにつけてもらいました」。龍の命名を子どもがするのも鶴ヶ島ならではである。「公募したの。『その中で選ばれた〇〇小学校何年生のだれだれちゃんのお名前です』、なんて子どもを紹介したあと龍の名前を紹介しました」と、原田さんは当時を振り返る。

鶴ヶ島には、アート・フェスティバルがあることをMさんが教えてくれた。「龍の町アート・フェスティバルってのがあるんですよ」。町を代表する絵が生まれたのがこのフェスティバルだった、とMさんが教えてくれた。「志方さんが市長だったときの龍のアート・フェスティバルだったんです。4年生だったと思いますが、その子の描いた龍の絵がよかったんですよ。『空飛ぶ龍』という絵でした。ちょうどその頃、図書館の壁画を、絵をこういう絵にするんだということで、市の方から予定されていた絵を見せてもらったんです。真面目な龍でしてね。〇〇の文化会館に描いた人なんだけど、活気がないんですよ。絵に。そのときこの子の絵を思い出したんです。それがあんまり良かったんで『こういう絵があるんだけど』って、Y先生やH先生、そして市長さんに話したら、それが了解れたんですね。今その絵が壁画になっているんです」。子どもの活動が町に生かされていることをよく表している。

原田さんは、アートフェスティバルをこう語る。「東公民館でやるんですね。1年に1度。応募作品は、世界からやってきます。無審査です。子どもも大人も有名著名、無名であろうと、龍に関す

るものならなんでも、だれでも参加していいんですから。ラーメン皿だって龍がついているって。龍のハンカチ出す子、龍の絵を描いた子、工作する子、粘土で作る子、みんないろいろですね。龍を描いたものを二階から垂らすほどすごく大きな作品、蜂の巣保育園とか学校ぐるみで作る大きな作品もありますね」。「青森の方のねぶたみたいに大きい作品です」、とMさんはいう。

鶴ヶ島では龍が至る所で活用されていることがよくわかる。龍の絵がついたバスも市内を循環していると原田さんが話してくれた。「循環バスが町を走ってるんですよ。バスに描かれている絵も子どもたちが描いたものです。子どもがペインティングした『ふれあい号』っていうんです。この町は、いろんなところでチャンスを生かしているんです」。鶴ヶ島の未来を切り開く子どもが、町に活気を与えている。

Mさんは、学校の教材にも龍が使われているという。「小学校の副読本にね、雨乞いとか、高倉の獅子舞とかが使われているんです。授業として雨乞いの話をしてくれという依頼も、この辺ではけっこうあるんですね。こちらが学校へ出かけたり、池（雷電池）に集合して話したり、子どもたちが池を見学したり、いろいろやります。わざわざ遠くから5、6人で自転車で（Mさんの）家まで話を聞きに来ることもあります」。雨乞いのほかに3月には「おれらの龍蛇祭」が行われ、雨乞い行事の龍を演目に、子どもたちを中心にミュージカルが行われるという。龍蛇が鶴ヶ島を潤いのある町にしているのだ。

【聞き取り調査5】

高倉獅子舞

鶴ヶ島には古くから伝わる獅子舞がある。「高倉獅子舞」である。獅子舞の起源は江戸時代か、さらにはそれ以前にまで遡るという。農業交流センターを訪れ、YさんとSさんに高倉獅子舞のお話を伺った（図12、図13）。

初めに、高倉獅子舞の紹介文（鶴ヶ島市教育委員会、2008）をもとに、高倉獅子舞の概略を理解しておこう。「獅子舞はササラジともいわれ、獅子が舞うことをクルウといいます。この舞は、遠い国から訪れた強力な神が、ムラ人を守るために、悪霊・悪疫を退散させてくれる芸能ですが、ムラ人にとってはこれは五穀豊穡感謝の行事でもあります。この行事は現在11月2、3日の二日間行われますが、最近まで毎年11月8、9、10の三日間日枝神社祭典に行われていました。8日は揃いの



図12 鶴ヶ島農業交流センター



図13 高倉獅子舞を語るSさんとYさん

日で、総仕上げとして予行の演習を行い、9日は祭典当日で、10日はムラ廻りをしていました。獅子は県内に二つの系統があります。一つは秩父を源流とする山岳系統のもの、他の一つは川越を中

心とする平野系統のもので、高倉の獅子舞はこの二つを折衷した山麓系統のものだといわれています。宮参りのときに、社殿を三廻りしてから、神社の前庭で本番をクルウなどが特色です。その構成は、万灯・貝吹（ホラ貝を吹く）・天狗・花笠・はいおい（軍配を持って案内する）・前獅子（黒獅子）・中獅子（女獅子）・後獅子（男獅子）・笛吹・歌うたいなどです。時にはひょっこ・おかめの道化も加わります。獅子舞は、男子が女装して舞うという。獅子にも何種類があり、伴奏される曲目はかなりの数に上り、継承することがなかなか難しいという。紹介によれば以下の通りだ。

高倉獅子舞

花笠：「ささらっ子」ともいう。4人の童子が女装する。振り袖の着物に黒足袋、紅白の鼻緒の草履をはき、手にササラを持って、花笠をかぶる。花笠は黒塗りの筒形のもので、まわりに赤いちりめんの布が巻いてあり、四方に垂れ下がっている。筒形の上には、竹につけた花がささり、花の中央には、お月さま二つ、お日さま二つを交互にさしてある。

はいおい：「弊負」ともいう。陣羽織とたつつけを着て、赤いたすきをかけ、鉢巻きをし、黒足袋にわらじをはく。右手に軍配、左手に采配を持つ。

獅子：獅子頭は竜頭獅子である。

大獅子：頭は朱塗りで、眉毛と歯の一部が金色に塗られている。前髪に黒の鳥羽が付き、前頭部には黒漆塗りの宝珠がある。角は茶と赤の螺旋形棒角。

中獅子：頭は朱塗りで角がなく、女性をあらわしている。眉毛に雲形の巻き毛が付き、前髪に茶の鳥羽が付いている。

後獅子：頭は黒塗りで、眉毛と歯が金色に塗られている。大獅子同様に黒の鳥羽や宝珠が付く。

曲目：宮参り、池端、岡崎、送笛、吹上げ、聖天ばやし、女獅子かくし、どじょう猫、竿がかり、吹上げくずしなど

舞い：舞踊だけの儀礼的なものと、演技的なテーマを持つものがあります。後者は「竿がかり」「女獅子かくし」など。

県下で200を数えた獅子舞は、戦後ほとんど中断され、市内でも数カ所あったが、現在残っているのは高倉の獅子舞だけだ。地元では1939年に保存会が結成され、伝統の継承・伝承を図っている。舞が奉納されるのは、埼玉県鶴ヶ島市大字高倉高倉にある日枝神社である。この舞いは1974年(昭和49年11月1日)に市指定無形文化財になっている。鶴ヶ島の日枝神社について、神社の案内(昭和56年3月)に以下の紹介がある。「日枝神社の祭神は、大山咋神であり、古くは山王権現といった。日吉神社とも書くが、当社は日枝である。滋賀県大津市にある日吉大社は、全国の日吉山王社三千八百余社の総本社で、いずれの日吉(枝)神社も日吉大社からの勧請神といわれる。昔、高倉朝臣が近江国に住んで、同国の日吉の神を信仰していたが当村に勧請し、産土神、守護神としたといわれる。例祭日は、毎年11月2、3日で、当日は豊作感謝、疫病退散祈願のため獅子舞が奉納される。この獅子舞は江戸中期から始まり、外秩父地方の流れをくむもので、曲目は15曲が残っている」。かつては広く行われていた獅子舞であるが、埼玉県内で現存するの鶴ヶ島の高倉だけになった。

YさんとSさんによれば、昭和57、58年頃まで獅子舞は行われていたという。高倉日枝神社の氏子(氏神の子孫、氏神が守っている土地に生まれてそこに住んでいる人、同じ氏神をまつる人々)、は、今70軒くらいだという。昔は、80軒ほど氏子がいたというから、その数が減ってきているということだ。若い人は、日数をとられることを嫌って氏子にならない人もいるという。「日数をとられる」とは、獅子舞の奉納行事だけでなく、神社に関わるその他の諸事全般を指しているのであろう。とはいっても、奉納の舞である獅子舞には相当の準備が必要である。「10日は出っぱなしです。

中心になる人は、10 日ではすまない。もっと多くの日数を用意する」と、Yさんは語る。「脚折雨乞い」の復活と継承が、地域の人々の大きな努力と無償の奉仕に依存していることと同様に、地元の人々の支えがなければ高倉獅子舞も保存は難しい。現在、保存会の会員は 30 人だ、と Sさんが話してくれた。

高倉獅子舞は、伝統的には氏子の長男全員が行うのが慣例だった。今では、氏子以外の子どもも関わらないと獅子舞そのものが成立しないという。獅子になる子どもは、衣装を着けササラといわれる楽器を手に舞う。獅子舞の舞子は、小学5年生を中心に男子4人を選ぶ。「小学5年生になると獅子になるんです。前獅子、中獅子、後獅子に」。子どもの舞う獅子には、地域の人々から温かい心付けがあった。「遠いところの人には（農家など）、大変だということで、おひねりをくれたり、袂にお菓子などを入れてくれたりしたものです。最初に休憩する家では、餅つきをして、お持ちを出してくれたりしました」。氏神を中心にした地域住民の結びつきが、奉納の行事を村をあげて行う中で確認されてきたのである。

伝統芸能の保存は、無償の自発的活動を基盤にしており、誰もが時間に追われる今日、厳しいという。「今が一番嫌われる時期じゃないないかと思う。一番は親ですよ。塾があったりするので、夜も家に帰るのは遅いのです」と Sさんは話す。子どもが多忙になり、獅子舞の練習をする時間を確保できなくなっている。Yさんも昔を振り返りながらこう話してくれた。「昔は、獅子舞を舞う子は、授業を短縮し、学校を早く引け、帰宅できた」。学校の教育は、地域の生活、事情を考慮し、柔軟に営まれてきたことがわかる。地域社会、住民の生活があってこそその学校教育であり、伝統行事への参加は、子どもの日常活動の一つだったのである。

伝統芸能を子どもに伝えるには、現代社会ならではの難しさがあり、氏子・保存会の人々の気遣いも大きい。「昔ながらの踊り方を崩して欲しくない、とベテランの方は思っている。でもそれだけ



図 14 高倉獅子舞

(鶴ヶ島市教育委員会ホームページ (2008) より)

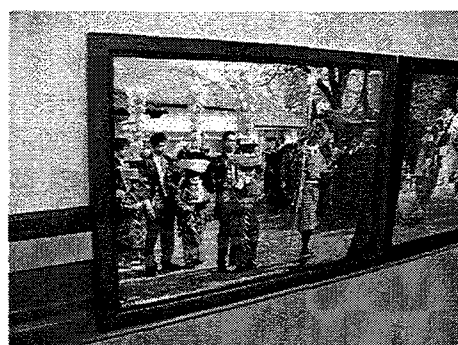


図 15 高倉獅子舞

(農村交流センター展示品より)

では難しい。強くいいすぎると子どもは練習がいやになってしまいます」。Sさんの話から、社会環境が変化している中で、子どもを後継者に育てる一方ならぬ苦勞を知ることができた。子どもに飽きさせず、しかも伝統的な舞を習得させる、現代の氏子の苦勞は大変なものである。「獅子舞そのものも高度で、伴奏される曲目は何十種類もある。曲を覚えることも容易ではない。獅子舞の時には獅子笛を吹き、始まりと曲が変わるときにはホラ貝を吹く」と、Yさんはいう。

獅子舞を覚えるのには熟練を要し、舞い方を一通り身につけるには5年から10年かかるという。伝統文化の重みを感じさせる。「獅子舞が終わると、20歳代から30歳代の青年が、子どもたちを食事などに連れて行く」と、Sさんは語る。青年と子どもの交流は、世代間をつなぐ重要な役割を果たしている。獅子舞を行うには、1回につき100万円近くかかり、市からの補助が11万4000円出ている。子どもたちは、自治会館で獅子舞の練習をしている。

Yさんは、子どもの頃を思い出しながら、当時の高倉獅子舞を話してくれた。「鶴ヶ島は、養

蚕、陸稻、麦などの農作物を作る農村地域であった。昔、子どもの頃は、獅子舞をする子どもをうらやましがった。よく獅子のまねをして、風呂敷をかぶって、くわの木で楽器のまねをした。その頃は、神社のあたりには、ずっと露店が並んだものだ。茂呂のみかんが量り売りされたり、いろいろな物が露店に並べられていた。農家の窓（戸板）はみんな露店商に貸しました」。神社の境内に人がひしめき、門前には露店・出店が出そろい、子どもでにぎわっている、そんな光景が目につく。「高倉獅子舞の日には、赤飯、芋の煮ころがしを用意し、赤飯は、親戚に配ったものだ。夜は、家の入り口に灯籠を灯し飾った」。「村の鎮守の神様の京はめでたいお祭り日」、高倉獅子舞は地元をあげてのお祭りであり、縁日であった。家と家が接近してつながっていたので、獅子舞は次々と隣家へ移動していったものだという。

高倉地区では獅子舞の他に、全世帯が参加している「菜の花まつり」がある。今年の開催で第7回を数えるという。この農業交流センターが完成したのが平成10年である。前年の10月頃に菜の花の種をまき、翌年の4月に祭りが開かれる。第1回から第3回までは補助金が出ていた。「ふるさとづくりの会」を中心に祭りの準備が進められる。菜の花が一面に咲く会場には、寄付による100匹以上鯉のぼりが一ヶ月泳ぐ。菜の花は、毎年同じ種類の種子を播いているため病気が出やすくなっているのだそうだ。「若い人も頼むと気軽に手伝ってくれる。地域には昔からの幼なじみが多く、日頃からつき合いがあるので集まりやすい。いろいろなサークルもあるからね」、ねと語るのはYさんだ。菜の花祭りは、地元の人たちの交流を促す一つのよい機会になっているようだ。

高倉獅子舞が、日枝神社の氏子を中心に維持されているとはいえ、地域全体の支えがなくてはそれも難しい。地域住民の結びつきを保ち続けることは、都市部・農村部にかかわらず、これからの大きな課題である。「子どもの頃は、農作業を手伝いながら、いろいろな遊びをしたよ。麦刈り、魚釣り、ポン菓子も食べた。チャンバラ、メンコ、ビー玉、ベーゴマ、いっぱいあったね」、SさんとYさんが口を揃えていった。「今の子は横のつながりを持っていないから、これからどうなるのか」と、これからを少し心配するかのようにつづいてSさんがいった。

考 察

第一部では、鶴ヶ島市で活動するサークル、地域の伝統行事、伝統芸能について聞き取り調査を行い、その概要を整理した。取りあげた聞き取り調査は、「本の読み聞かせ」、「子どもフェスティバル」、「どんど焼き」、「脚折雨乞い行事」、「高倉獅子舞」の5つであった。いずれも、住民の取り組みによって地域全体の行事、催しものとして定着している。今回の聞き取り調査の中心は、数量的な面ではなく、地域における住民の生活と地域の文化の相互の関わりであり、子どもと大人の関係に関する質的な面の解明であった。伝統行事や催しものが、どのように行われ、そこで果たす大人の役割はどのようなものなのか、さらに行事、お祭り、サークル活動等を通じて、子どもを地域に根づかせるための大人の働きかけの実相を明らかにすることを主要な目的とした。結論からいえば、ここで取りあげた5つの事例は、それぞれに性質の異なるものであるが、地域住民の連携と相互の協力が基盤にあることをはっきりと示している。しかも、どの事例を見ても、大人だけで行事や芸能等の運営をすることは困難で、子どもから青年、壮年、年配者まで、地域の人々全体の関わりがなければ成り立たないことが明らかである。以下に、事例から示唆される点を、5つの観点から簡潔に考察することにする。

一つは、今回の聞き取り調査を通して、鶴ヶ島では人と人のつながり、生活の交流があり、地域としてのまとまりがあることを強く感じた。もちろん都市化する中で、住民相互の関わりを深くするには多くの努力が伴うことは推察できる。伝統的な行事を復活させ、新たなフェスティバルを創り出すことなどは、そうした自治的な力の強さを示すものであろう。

第二に、聞き取り調査全体を通して感じたことは、子どもの生活を地域社会に結びつけ、地域社

会の一員として位置づけるためには、大人集団の組織的な取り組みと働きかけが必要であるということである。子どもモフェスティバルの開催にしても、子どもをお祭りの主人公にするにはどうしたらよいのかを、子どもを交えながら地道な話し合いの中から実現しようと地元の有志・住民が知恵を絞っている。脚折雨乞い行事にしても然りである。子ども用のミニ龍蛇を作り、子どもたちを行事に深く関わらせ、なくてはならない存在にしている。しかも、雨乞い行事だけでなく、機会があるごとに龍蛇を登場させ、できるだけ多くの子どもに龍蛇にふれさせ、親しませる工夫が施されている。子どもに対する大人の配慮があるからこそ、子どもや青年を結集させ、若い力を吸収して行事を生き生きとさせるとともに、それが広範囲に人々を魅了し、引きつける求心力になるのであるろう。

注目すべき3点目は、伝統行事・芸能、新たに創出したお祭り、等は、地域の文化を生み、住民相互の関わりを生み出す大きな役割を果たしていることだ。昔から、お祭りや伝統的な行事は、それぞれの地域にとっては「晴れ」の日であり、地域の平和、家内安全・無病息災や農作物の豊作を祈願し祝う場でもあった。私たちの労働と生活が、素朴な自然への依存をやめるにつれて、自然に対する感謝や畏敬の念を表すお祭りや行事は姿を消してきた。伝統行事やお祭りを、今改めて人々を結びつける地域の文化として再考してみることは有意義であろう。

この調査を通じて、人間の生活と自然との関わりの問題を考えさせられた。これが第四の点である。伝統行事・芸能の保存・継承は、人間と自然との関わりが強さを自覚させ、地域社会そのものが自然環境と運命共同体としての性格をもつことを教えてくれる。どんど焼きにしても脚折雨乞い行事にしても、行事を成り立たせる中心的な素材である「櫓」や「龍蛇」を作るには自然が産み出す孟宗竹、稲藁、麦藁、クマザサがなければならない。一見便利に思える人工的な品物・製品は、自然の循環のサイクルには乗らず、有害物質に変化したり、廃品・危険物として私たちに対して障害物として現れ、日常の生活を制限している面も大きいことを、伝統行事は知らしめているのではないだろうか。

最後に、都市化する社会の地域のあり方を真剣に考えなければならない。すべてが金銭に換算され、私たちの生活すべてが市場に支配され、それ以外は存在しないかのように語られる。果たしてそうだろうか、今回行った聞き取り調査では、私たちの住む世界、そしてその営みは、金銭的な価値だけが支配する世界、市場原理しか通用しない生活のみではないことをはっきりと示している。お互いに見えない仕事をし、集う人々が共に喜びを分かち合い、精神の高揚を経験する心地よさこそ、脚折雨乞い行事、高倉獅子舞、子どもフェスティバル、どんど焼き、本の読み聞かせ、それぞれに共通しているものではないだろうか。世の中すべての営みを、私たちが行うあらゆる行為を、交換価値という経済的な視点からのみ捉えることは、文化ひいては人間の生活には損得勘定を抜きにした協同があることを無視し、否定することに繋がる。聞き取り調査は、私たちが生活する地域社会が、どのようなものであるべきなのか、現代的な課題として問いかける貴重な機会となった。伝統的な文化を存続させることは、人間が自然の一部であることを認め、自然環境との調和的関係を取り戻し、循環可能な社会に少しでも近づけることでもあろう。いわゆる「経済原理」を越えた人間的な「無駄」を排除するのではなく、生活の重要な要素に据えることこそ 21 世紀の人類委に求められていることであろう。

(坂西友秀)

第二部

子どもが見た地域社会・ 地域の文化と人間関係

—質問紙調査を通じて—

問題と目的

第2部では、第1部の聞き取り調査を基礎に、範囲を広げて、青少年の問題（非行含む）の背景にある地域と子どもの関わりを、質問紙調査を通じて明らかにすることを目的にする。研究の内容について簡単に記述しておこう。

本研究では、地域における文化と子どもの関係、子どもと大人の人間関係、地域の安全に関わる問題、社会的弱者に対する子どもの態度等を、質問紙調査を実施することにより検討する。子どもをめぐる地域の問題は深刻化している。一つは子どもの安全、生命が脅かされる事態が発生し、環境の悪化が進行していることである。大阪の「池田小学校事件」は記憶に新しい。「大阪教育大学教育学部附属池田小学校に出刃包丁を持った男1名（宅間守被告人）が、平成13年6月8日（金）の2時間目の授業が終わりに近づいた午前10時過ぎごろ、自動車専用門から校内に侵入し、校舎1階にある第2学年と第1学年の教室等において、児童や教員23名を殺傷した。平成13年9月14日大阪地方検察庁は、被告人を殺人、殺人未遂、建造物侵入及び銃刀法違反で、大阪地方裁判所に起訴した。犠牲者は、死者8名（1年男子児童1名、2年女子児童7名）、負傷者15名（児童13名（男子5名 女子8名）、教員2名）であった」（大阪教育大学・附属池田小学校 2003年6月8日）。同じ年（2003年7月1日）には、中学による幼児殺害事件が起きている。長崎市の幼稚園児、種元駿ちゃん（4）誘拐・殺人事件で補導された市内の中学1年の男子生徒（12）であった。7階建て立体駐車場の屋上（高さ約20メートル）から駿ちゃんを突き落として殺害したとされる事件だ。青少年による凶悪犯罪（殺人事件を初めとし）が多発しているといわれる。刑法犯少年（14歳以上）の凶悪犯の罪種別状況の推移を見ると、殺人の件数は1980年45件（2.3%）、1990年71件（6.6%）、2000年105件（5.0%）、2005年67件（4.6%）、2006年69件（5.9%）である。カッコ内の数値は、殺人、強盗、放火、強姦を合わせた総件数に占める割合である。殺人件数そのものは増えているわけではない。

青少年が犯罪を犯すには、そこに至るまでの背景があるはずである。家庭環境、友人関係、学校環境、地域の環境、等々である。上述のように、本研究では、主に地域の環境に焦点を当てて検討することにする。とりわけ子どもの視点から、地域における子どもの安全について吟味することを目的とする。たとえば、登下校時に見知らぬ人に声をかけられたり、後をつけられたりした子どもはいないのか。公園で脅迫されるなど怖い思いをした子どもはいないのか。公園や家の周辺、学校への通学路は、子どもたちにとって、安心して遊び、通学できる場になっているのか。交通手段が発達し、不特定の人が地域には行き交う時代になった。これら地域における子どもの安全に関わる問題を、子どもの視線で明らかにすることは有意義なことである。「治安の悪化」を背景に、学校の防犯への取り組みも積極的に行われるようになってきている。防犯マニュアルの活用、子どもの防犯訓練、等が実施されている（文部科学省スポーツ・青少年局、2007）。小学校の通学路の安全確保状況（文部科学省スポーツ・青少年局、2007）の調査によれば、通学路の安全点検は99.7%、通学路安全マップ委の作成は91.2%、防犯ブザーの配布82.9%、集団下校は79.7%の学校で実施されている。地域全体の安全が問われているのである。

方法

調査期日 調査は2006年12月に実施した。

調査対象者 小学校6年生161名（男子86名、女子75名）と中学校2年生209名（男子111名、女子95名、不明3名）であった。

質問紙作成 質問紙は、主に5つの内容から構成されている。一つは、地域のお祭りや行事に子どもたちがどれだけ参加し、どのように受けとめているかたずねる質問項目群で

ある（「地域のお祭りと子ども」）。「地域のお祭り・夏祭りに参加したことがありますか」「地域のお祭り・夏祭りにいくときはだれといきますか」「地域のお祭り・夏祭りは楽しいですか」「『どんど焼き』に参加したことがありますか」、などである。

第二は、古くから伝承されている地域の伝統行事と子どもの関わりをたずねる項目群からなる質問である。（「地域の伝統行事と子ども」）。『すねおり雨乞い』行事は楽しいですか』『高倉獅子舞』を見たことがありますか、の2項目である。

第三は、子どもたちは、日常近隣の大人とどの程度話したりあいさつをしたりしているのかをたずねた質問項目群である（「子どもと地域の人間関係」）。「近所の大人のひとと話をしますか」「朝や夕方近所の人に会ったらあいさつをしますか」「運動会や文化祭で近所の人が声をかけてくれることはありますか」「近所の家族といっしょにでかけたり、ご飯を食べたりすることがありますか」、等である。

第四は、子どもにとって地域は安全に保たれているのか、子どもは危険な目にあったりしていないのか、こうした事柄をたずねる項目群である（「地域の安全と子ども」）。日頃子どもたちはどれだけ自然と関わる生活をしているのか。「家の近くで知らない人から声をかけられることがありますか」「あなたは学校からひとりで帰ることがありますか」「あなたが家に帰るとき、知らない人がうしろからついてきたことがありますか」「あなたが、留守番をしているとき、宅急便や郵便がきたらどうしますか」、等である。

第五は、子どもたちの自然体験についてたずねる項目群である（「地域の自然と子ども」）。「あなたはのらネコをだいたり、なでたりしたことがありますか」「あなたはバッタの足とったり、トンボの羽を切ったりしたことがありますか」「あなたはアリを足でふみつけたことはありますか」、等である。

第六は、「ホームレスの人」等の社会的弱者に対する子どもたちの態度と、弱者に暴力を振るう少年に対する態度を問う質問項目群である。「あなたは、ホームレスの人に出会ったことがありますか」「ホームレスの人をけったり、なぐったりする少年について、どのように思いますか」「公園や駅の近くで生活する「ホームレス」の人を怖いと思ったことはありますか」、等である。

各質問に対する回答は、2件法（ある・ない）、3件法（よくある・たまにある・ぜんぜんない等）、4件法（毎年参加する・ときどき参加する・ほとんど参加しない・参加したことがない、等）のいずれかで行うよう依頼した。

調査の実施 調査の実施は、各学校の先生にお願いした。調査の趣旨・内容に関して次の教示を質問紙の表紙に掲載した。「みなさんが住んでいる鶴ヶ島には、古くから伝わる「すねおり雨乞い」行事や「高倉獅子舞」があります。また、「子どもフェスティバル」や「菜の花祭り」「どんど焼き」などの行事もあります。このアンケートでは、みなさんがいろいろな行事にどのくらい参加し、どのように感じているのか、さらに、みなさんが住む地域の人たちと、ふだんのくらい話しをし、あいさつをしあっているのか、などについておききするものです。地域の行事に参加し、子どもどうし、子どもと大人が、お互いにふれあい親しみを深めることで、安全で住みやすい町をつくることができますと思います。調査は、みなさんにアンケートにご協力していただくことで、だれもが安心して暮らせる町にするためには、何が大切なことなのかを調べることを目的にしています。みなさんにごめいわくをおかけすることはありませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます」。なお、調査内容、実施に関する質問、意見等がある場合には、問い合わせができるよう、責任者（坂西）の電話番号とメールアドレスを記載した。

以下に主な結果について記述する。記述に当たって便宜的に調査内容を5つのカテゴリーに分けた。①地域のお祭りと子ども、②記述の根拠になる集計結果は付属資料として別に掲載した。詳細はそちらを参照していただきたい。

結果

地域のお祭りと子ども 地域で行われる各種のお祭りに、子どもたちはどのくらい参加しているのか。実態を見てみよう。「菜の花祭り」に参加したことのない子どもが、どの地域でも大きな割合を占めている。ほぼ8割以上の子どもが、お祭りに不参加である。1割程度の子が、ときどき参加している。「菜の花祭り」を楽しいと思うかをたずねた。祭りに参加していない、と回答した子もこの項目に回答しているため、参加したことのある子

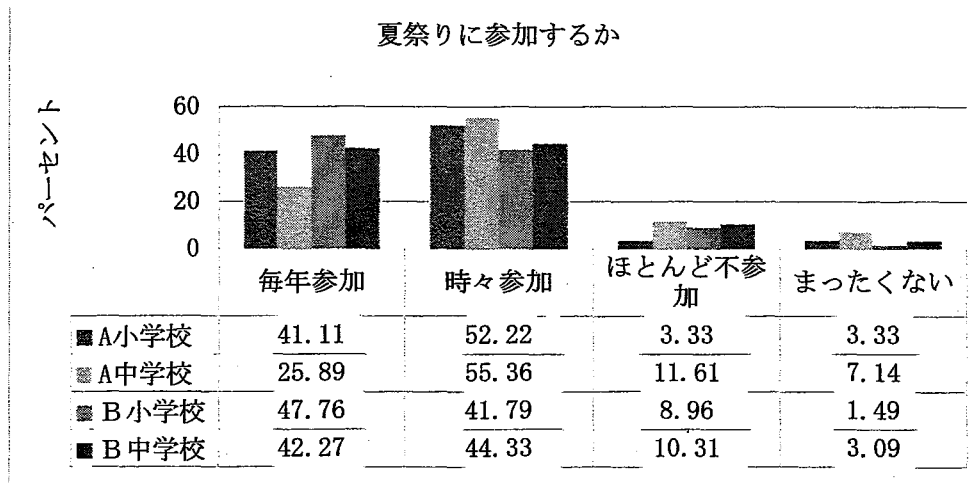


図1 夏祭りへの参加

どもの人数よりも回答者数が多くなっている。参加していなくても「菜の花祭り」をのぞく程度に知っている子もいるものと思われる。「菜の花祭り」を楽しいと思う子は、全体の1割程度いる。大半の子は「あまり楽しくない」か「つまらない」と思っている。

「夏祭り」への参加は、参加する子どもの比率が大きく、「ときどき」参加する子どもを含めると、全体では参加率は8割弱に達する。地元の「夏祭り」は子どもにとって身近な催しものになっていることがわかる(図1)。中学生に比べ小学生の参加が若干多いが、大きな違いではない。

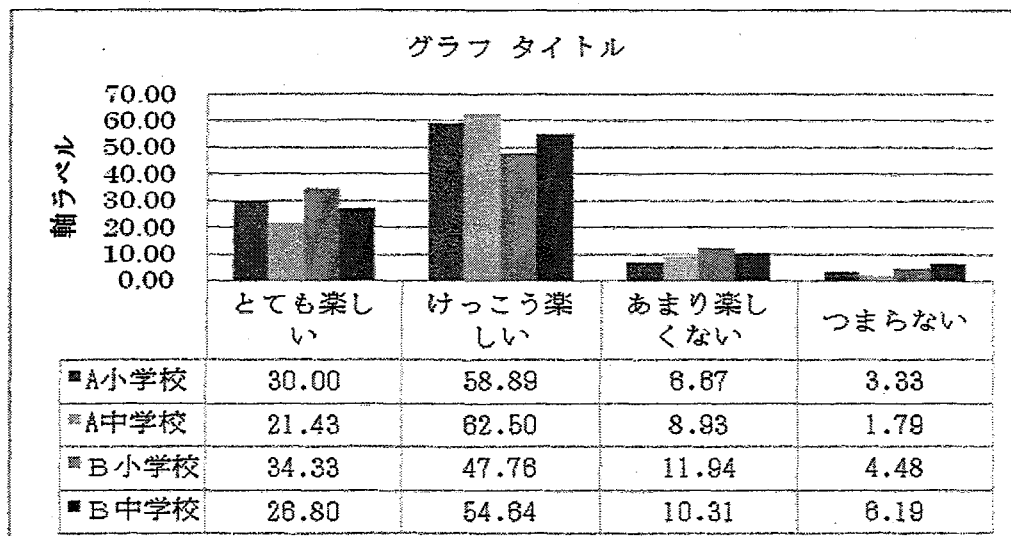


図2 夏祭りは楽しいか

「夏祭り」は楽しいかとたずねると、全体の8割以上の子どもが「とても楽しい」、または「けっこう楽しい」と回答している。小学生も中学生も「夏祭り」をはじめとする地元のお祭りを楽しいものと受けとめている(図2)。さらに、子どもにだれと一緒に「夏祭り」に行くかを聞くと、一位は「友だち」(69.4%)で、7割に達する。いかに友だちが子どもにとって大きな位置を占めているかを示す結果である。二位は「家族」(25.96%)である。「きょうだい」と行く子はごく少数(1.09%)である(図3)。4人に一人くらいは、地域の「祭り」を家族で楽しむ行事として見ていることを示すものであろう。

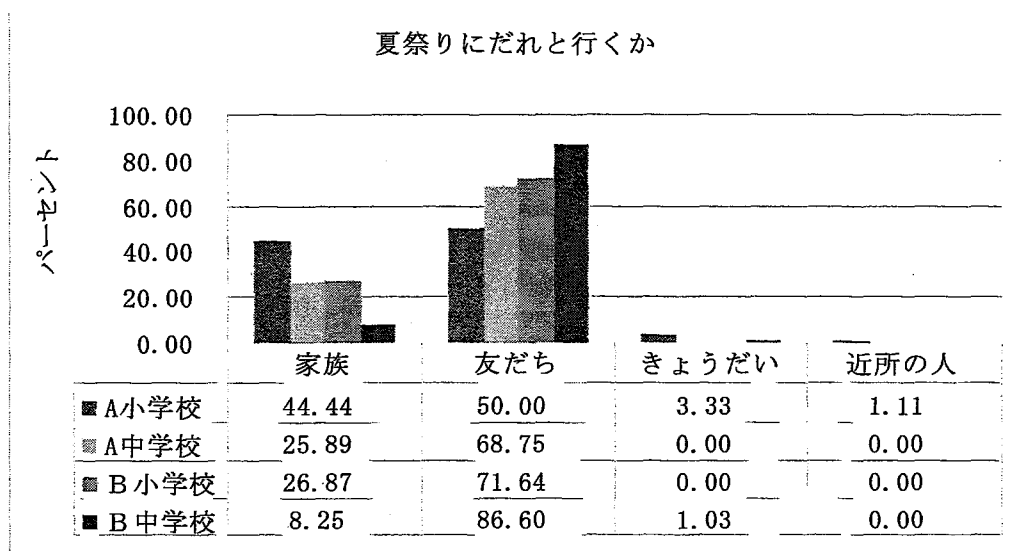


図3 お祭りにはだれと行くか

公民館を中心に地域に新しく創り出された「伝統行事」への参加を見てみよう。「どんど焼き」に参加する子どもは、小学生、中学生共にきわめて少ない。「ときどき参加する」と「毎年参加する」子どもを含めてもわずか2%にすぎない。9割以上の子どもは参加した経験がない(図4)。参加者が少ないことから推測できることであるが、「どんど焼き」を楽しいと思う子どもも少ない(4.65%)。「どんど焼き」は、地域に広く知れ渡った行事にはなっていないようである。

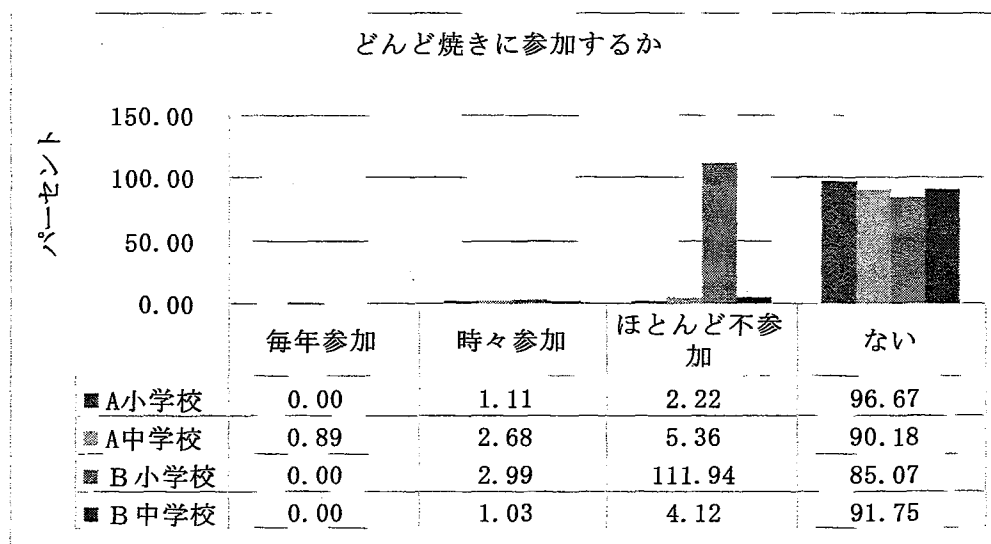


図4 「どんど焼き」に参加するか

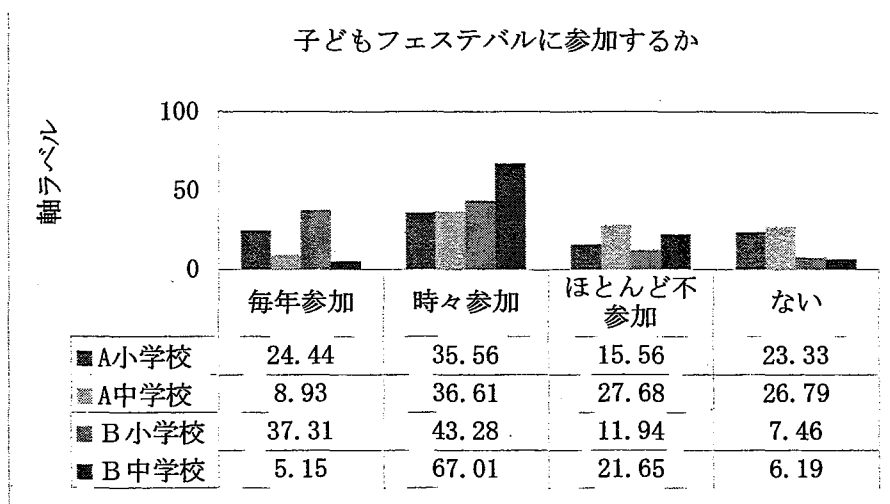


図5 「子どもフェスティバル」に参加するか

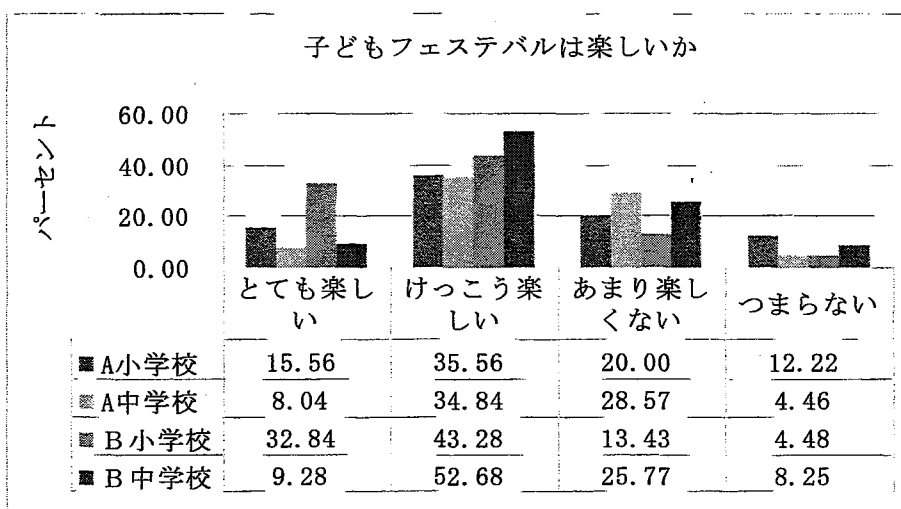


図6 「子どもフェスティバル」は楽しいか

「子どもフェスティバル」は、かなりの割合の子どもが参加している。6割から7割の子どもが参加したことがあると回答している(図5)。どの地域でも似たような傾向を示しており、小学生も中学生も同じような割合で参加している。「子どもフェスティバル」は子どもに肯定的に受けとめられ、子どもの祭りとして受容されているといえよう。子ども向けに新しく創られた祭りが、子どもに歓迎され地域の文化として定着しているといえよう。

「子どもフェスティバル」が、「けっこう楽しい」もしくは「とても楽しい」と回答する子の割合は、合計で7割弱(64.87%)になる。しかも、小学生も中学生も同じ傾向を示し、共にフェスティバルを楽しんでいることがわかる。ただし、地域差があり、新興住宅地の子どもの方がフェスティバルに対する反応は肯定的である(図6)。歴史の新しい子ども向けの行事、町に創り出される「地元」の文化として受け入れられている。

昔から地域で行われてきたお祭りには、子どもから大人まで老若男女を問わずだれもが集った。地域の人々が一堂に会する場がほとんどなくなった現在、お祭りは子どもたちが近隣の「おじいちゃん」や「おばあちゃん」とふれ合う貴重な場になっているのかもしれない。

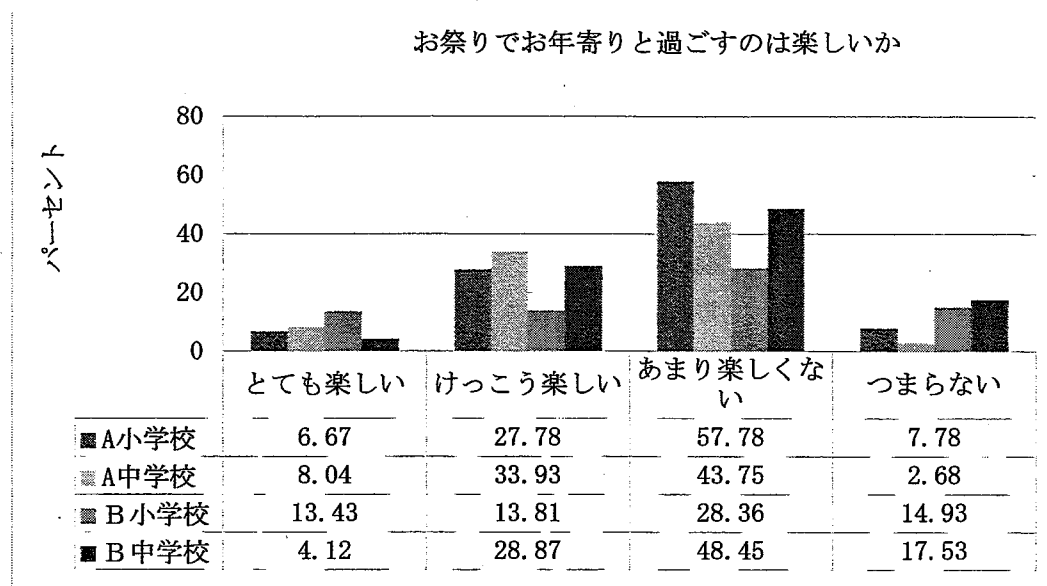


図7 お祭りでお年寄りとお過ごしのは楽しいか

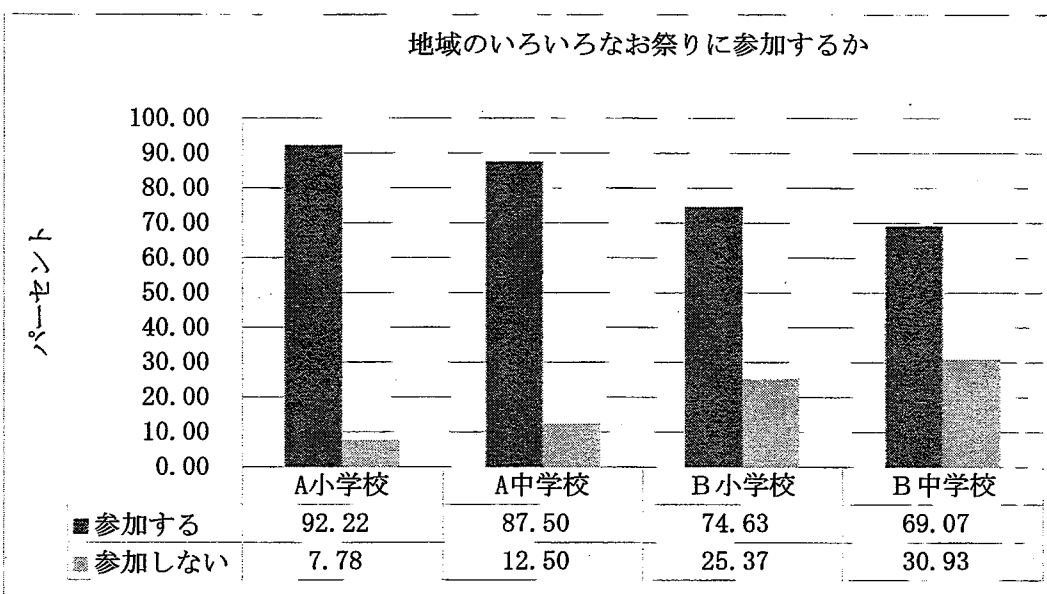


図8 地域のいろいろなお祭りに参加するか

れない。子どもたちはこうしたお祭りの場などでの年配の人とのふれ合いをどのように受けとめているのだろうか。お祭りなどの行事で「おじいちゃん」「おばあちゃん」と過ごすのが楽しい、と回答する子の割合は約4割(39.62%)であった(図7)。過半数には至らないが、少なくない子どもが、お祭りなどで地域のお年寄りとお接することを肯定的に見ていることは興味深い。

地域には昔から行われてきた地元のお祭りもあれば、「公民館祭り」や「産業祭り」など現代的な要請から新たに創り出されてきたお祭りもある。子どもたちは、今地域にある各種のお祭りにどの程度参加しているのだろうか。図8を見ると、実に多くの子どもが地域の祭りに参加している。住んでいる地域の違いが参加率の違いに若干反映しているのかも

しれないが、7割以上の子どもが何らかの祭りに参加している(図8)。B地区(新興住宅)に比べA地区(旧村地域)の子どもの祭りへの参加率が大きくなっている。祭りは、小学生、中学生の違いなく、子どもにとって魅力的なものであることを示す結果である。

では、子どもは、地域にあるいろいろなお祭りをどのくらい知っているのだろうか。「桜祭り」を知っているか否かたずねた。「桜祭り」は地域によって知っている子どもの割合が異なる。旧村地域Aの子どもでは、知っている割合が小学生も中学生も共に大きく(88.89%, 75.89%)、ほとんどの子どもが知っている。対照的に新興住宅地の子どもは、小学生も中学生も知っている割合が小さく(20.09%, 15.40%)、ほとんどの子は「桜祭り」があることを知らない。

「産業祭り」について問うと、半数以上の子が知っていると回答している(56.28%)。桜祭り以上に産業祭りの既知度には地域による開きがある。旧村地域Aでは小学生も中学生もほとんどの子どもが知っている(85.56%, 85.71%)。それ対して、新興住宅地Bに住む子どもは、小学生も中学生も「産業祭り」を知らないと回答している(26.87%, 16.49%)。

次いで「公民館祭り」を知っているか否かをたずねた。全体としてはほぼ半数の子どもが知っていると回答している(52.4%)。ここでも地域差がはっきりと表れている。ただし、上記の「桜祭り」と「産業祭り」とは逆の傾向が認められ、新興住宅地居住Bの子どもの方が(小学生 76.12, 中学生 69.07)、旧村地域Aに住む子ども(小学生 34.44, 中学生 38.39)よりも「公民館祭り」を知っている子どもの割合が大きい。地域によって、子どもが親近感と魅力を感じる祭りが大きく異なっている。それぞれのお祭りが開催される場所が、子どもの住む場所から近いかな否か、企画される内容が子どもの要求、地域に要求の合致しているかな否か、などが影響した結果であろうか。

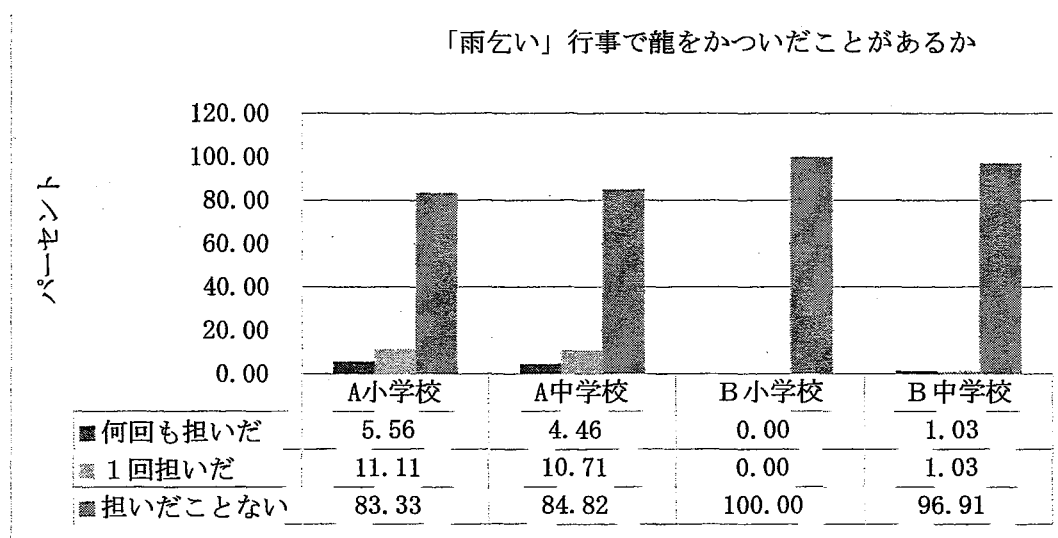


図9 「すね折り雨乞い」行事で龍を担いだ経験

地域の伝統行事と子ども それぞれの地域には祈願や神事などいろいろな行事や伝統芸能が継承されている。地域で行われている伝統的な行事を子どもたちがどれだけ知っているのかを聞いてみた。「脚折(すねおり)雨乞い」行事では、巨大な龍が作成される。龍は小学生の子どもたちが担ぎ、龍が住む池まで運ぶ、雨乞いの行事である。この龍を担いだ経験のある子どもは全体の1割程度(9.29%)にすぎない(図9)。4年に一度の伝統行事であることから当然ともいえるが、小学生、中学生共に新興の地域に比べて(2.00%, 0.00%)、旧来の地縁血縁が残る地域(16.67%, 15.17%)で経験率が高くなっている。

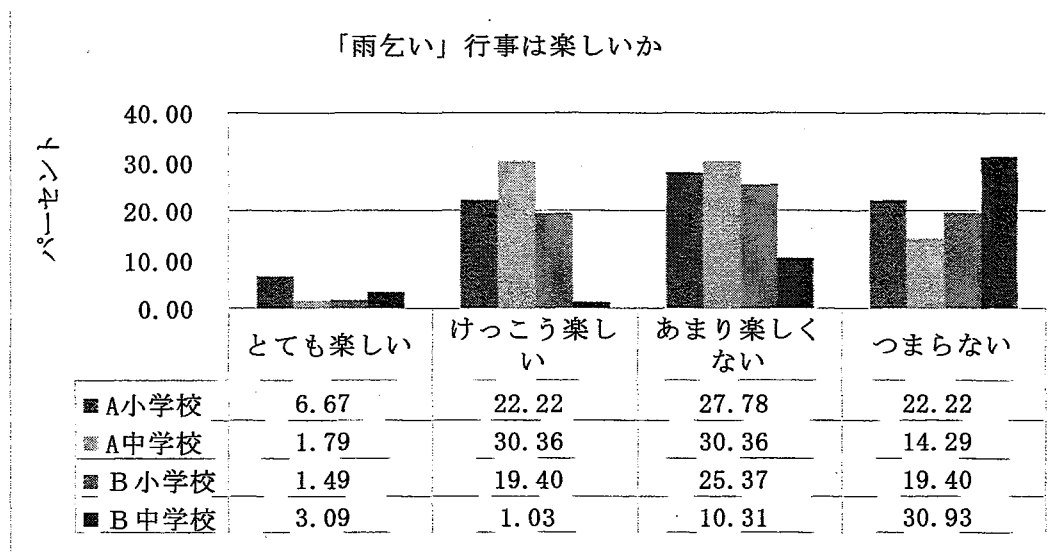


図10 「すね折り雨乞い」行事は楽しいか

龍を担いだことはないにしても、雨乞いの行事そのものを楽しんでいると思う子どもは、全体で21.86%いる(図10)。地域差が大きく、旧村地域Aに住む子どもは楽しいと回答する割合が高く(小学生28.89%、中学生32.15%)、新興住宅地の子どもでは低い(20.89%、4.12%)。地位によっては、伝統行事を楽しんでいると思う子どもも少なくないといえよう。

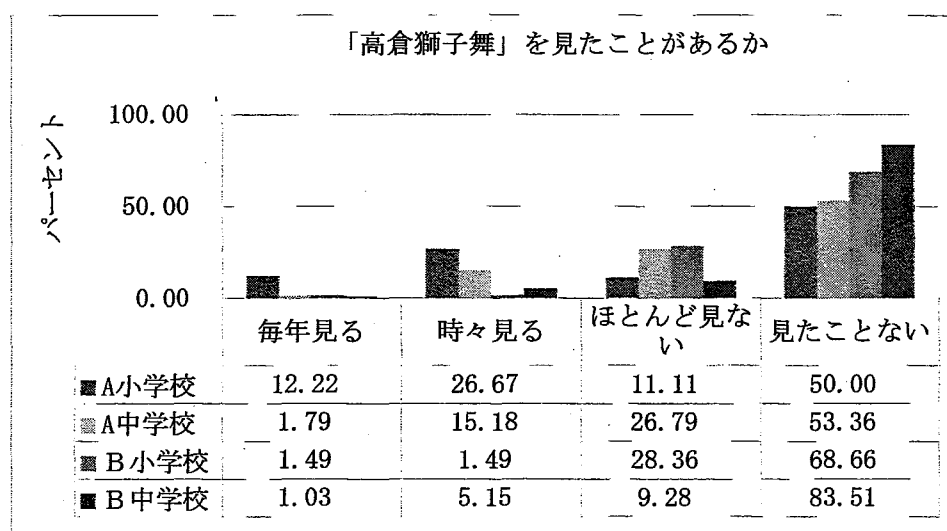


図11 「高倉獅子舞」を見たことがあるか

では、もう一つの伝統行事であり芸能でもある「高倉獅子舞」についての回答を見てみよう。獅子舞を見たことのある子どもの割合は、全体で2割弱である(16.94%)。学校差、地域差が大きく、小学生、中学生共に旧村地域Aの方が(16.97%、38.89%)、新興住宅地(2.98%、6.18%)に比べ、見た子どもの割合が大きくなっている(図11)。この地域差は、獅子舞が舞われるのが特定の地域に限定されていることによるのであろう。同じ旧村地域Aであっても、中学生に比べ小学生で獅子舞を見たことのある子どもの割合が大きくなっている。この年齢差が生じる理由ははっきりしない。

どの行事やお祭りを知っているかには差があったが、子どもは地域にいろいろな行事と

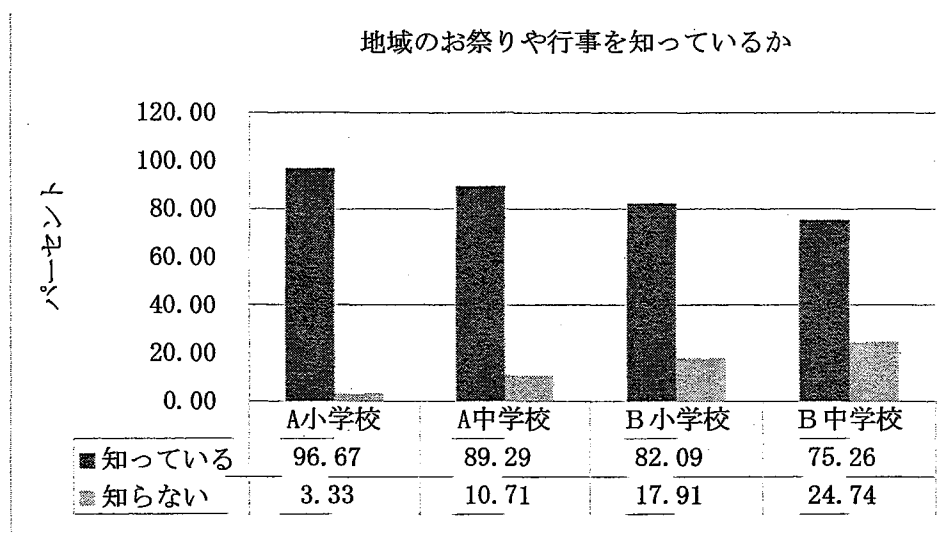


図 12 地域のお祭りや行事を知っているか

お祭りがあることはよく知っている (図 12)。ほとんどの子どもは小学生も中学生も地域に行事やお祭りがあることを意識している(86.07%)。

子どもと地域の人間関係 子どもと地域の人間関係を整理した。人間関係と呼ぶのは必ずしも適切ではないかもしれないが、各地の小学校で行われている母親による「本の読み聞かせ」をとりあげてみよう。「本の読み聞かせ」は、いろいろな著作や文学作品等に接する中

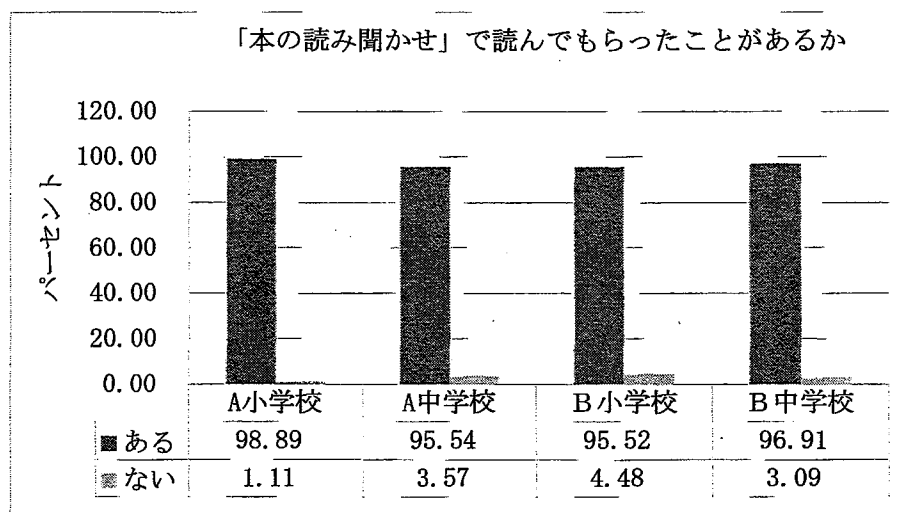


図 13 「本の読み聞かせ」で読んでもらった経験

で子どもたちが知識を増やし、情感や想像力を豊かにしていく有意義な経験の場である。それと同時に、地域の「おかあさん」と幅広く交流する機会であり、顔をつき合わせた大人と子どもの人間関係形成の重要な場でもある。その意味で「本の読み聞かせ」は、子どもと地域の大人、わけても「おかあさん」との関わりを表す一つの指標としてとらえることができる。

図 13 を見るとわかるように、小学生も中学生も地域の違いなく、ほぼ全員といってもよいほど高率で「読み聞かせ」を経験している。地域の「お母さん」中心のボランティアに

よる子どもとの関わりが、実に広くどの学校にも浸透していることを示す結果である。

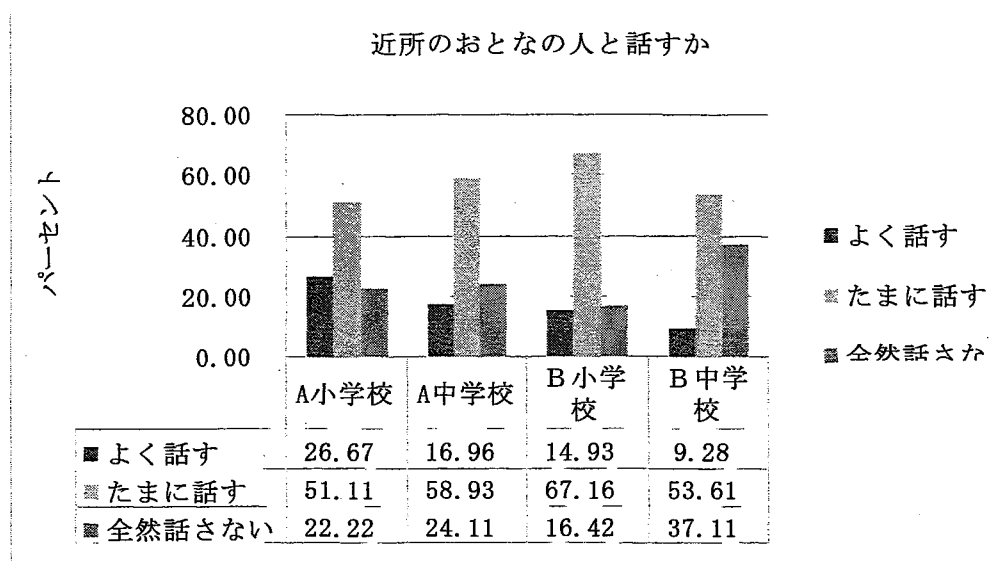


図 14 近所の大人の人と話すか

子どもたちは、近所の大人とどのくらい話をしているのだろうか。図 14 に示すように、ほぼ 7 割から 8 割の子どもは、近所の大人と「たまに」または「よく」話をしている。この割合を大きいと見るか小さいと見るかは難しいところである。近所の人と全然話さない子が 4 人に一人くらいはいるからだ。特に B 中学校では、近所の大人と全然話さないと回答する子どもの割合が 4 割に達する勢いである。地域が都市化することで、近所との関わりが少なくなることを表す結果であろうか。

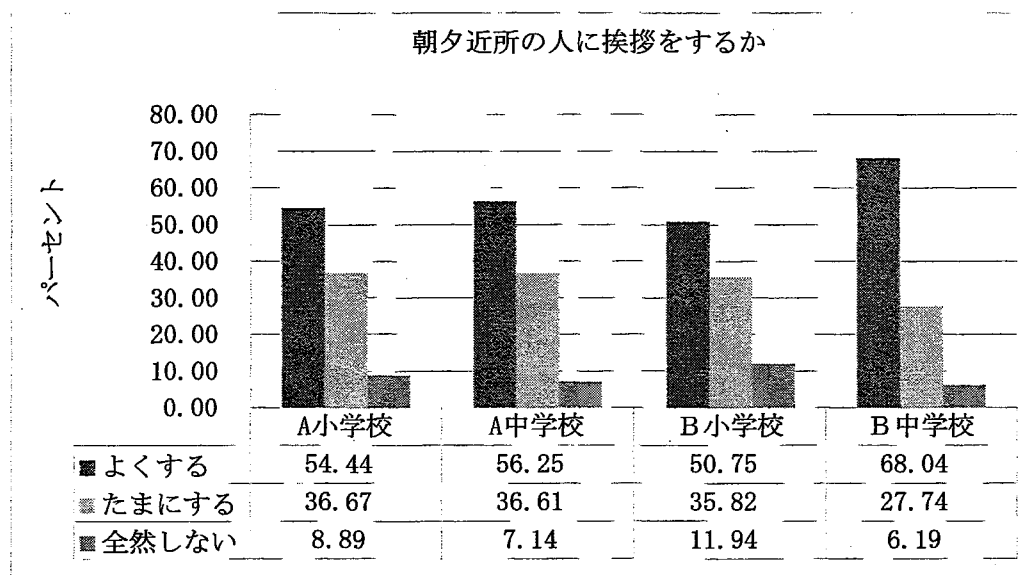


図 15 朝夕近所の人に挨拶するか

近所の人への子どもたちの朝夕の挨拶の有無を見たものが図 15 である。9 割以上の子どもが、「たまに」または「よく」近所の人に挨拶をしている。B 中学校の結果を見ると、全然挨拶しない子は 6.19%と 4 校中もっとも小さい値を示している。近所の人と話す子ど

もの割合は小さかったが、近所の大人との人間関係がないわけではないことを、この挨拶に関する結果は示す。同じことが、図 16 の近所の家に遊びに行く子どもの割合を見るとよりはっきりする。中学生でも 5 割近くの子どものが近所の家に遊びに行っている。決して小さい割合とはいえない。小学生の場合は、この傾向が特に顕著で、7 割の子どものが近所の家に遊びに行き、交流しているということだ。

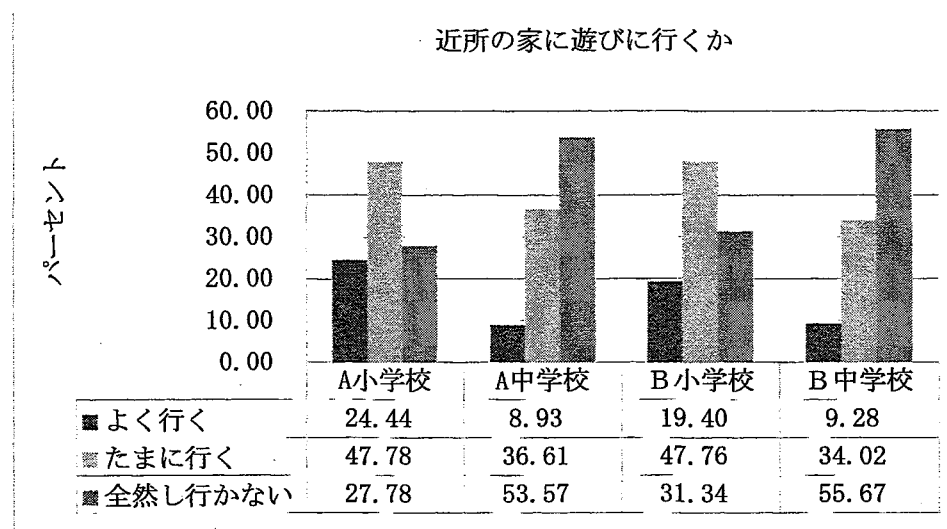


図 16 近所の家に遊びに行くか

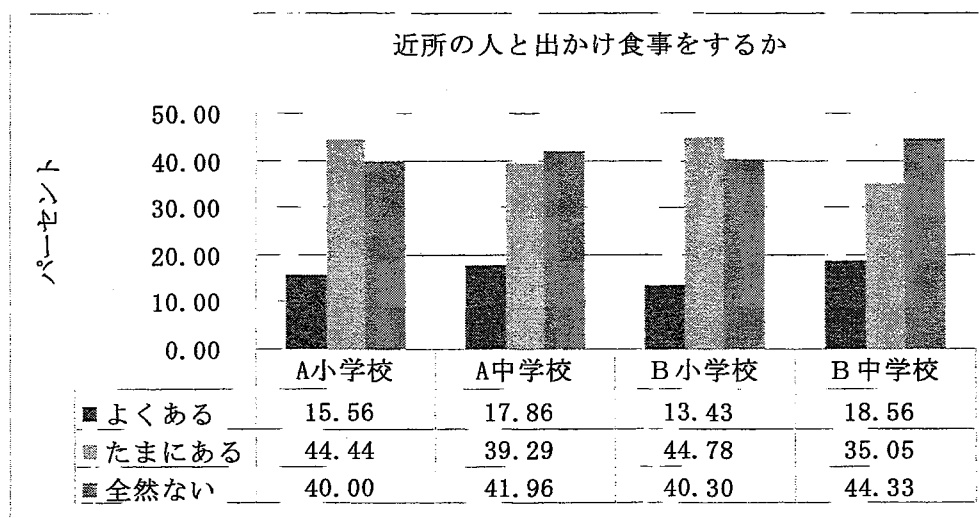


図 17 近所の人と出かけて食事をするか

近所づきあいが盛んであることは、近所の人と食事に行く子どもの割合が高いことにも表れている（図 17）。小学生の 7 割、中学生の 5 割弱は、近所同士で食事に行くと回答している。ただし、この結果からだけでは、家族が連れ立って会食を楽しんでいるのか、子ども同士・友だち同士で食事を楽しんでいるのかわからない。小学生の場合は、子どもだけで食事に行くことは少ないと考えられることから、親同士が仲の良い近所の特定の家族と食事をすることが多いのかもしれない。各種のサークルやサッカー、野球などの「スポーツ少年団」を介したつき合いも近所の家族との交流に含まれているのであろう。

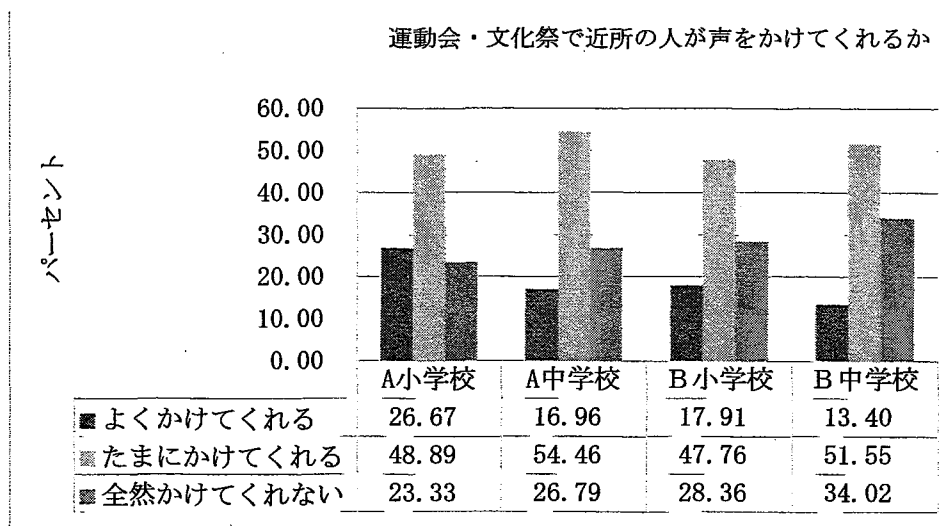


図 18 運動会・文化祭で近所の人が声をかけてくれるか

運動会や文化祭は、大きな学校行事の一つではあるが、地域に開かれた主要な行事の一つでもある。家族が、学校行事を楽しめる数少ない場でもある。学校に在籍する子をもつ親は、都合のつく限り行事に参加したいと思う。学校行事が地域に開放されるこうした場面では、地域の人々と子どもの関係が親密であるか疎遠であるかがよく表れる場面でもある。運動会や文化祭で、子どもが近所の人から声をかけられた経験をまとめたものが図 18 である。ほぼ 7 割の子どもが、近所の大人から「たまに」または「よく」声をかけられていると、感じている。ともすれば人間関係が寸断される現代社会にあって、これらの結果は、この地域の子どもと大人の人間関係がかなりの程度に維持されてることを表していると理解できよう。

地域の安全と子ども 子どもを巻き込んだ事件・犯罪が多発し、学校の安全、地域社会の安全が厳しく問われる時代になった。子どもたちが、犯罪につながる恐れのある経験を日

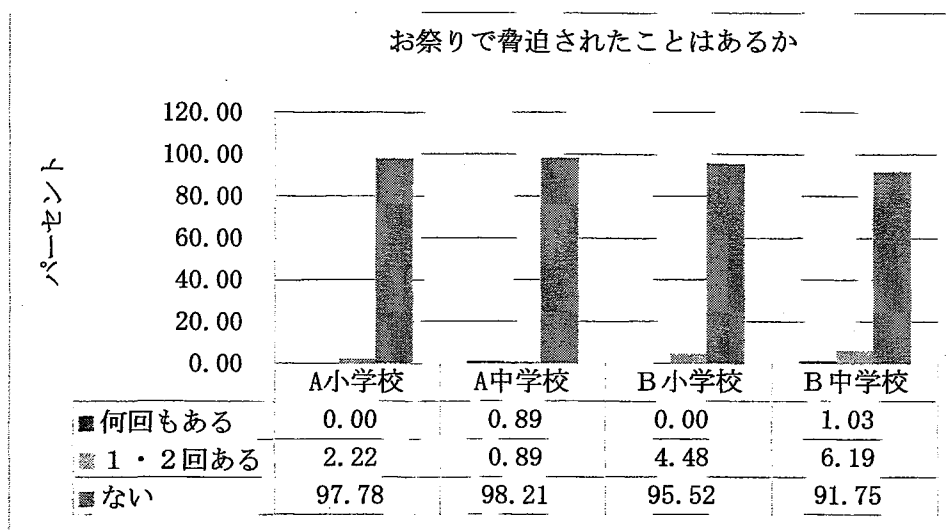


図 19 お祭りで脅迫されたことがあるか

常的にどのくらい経験しているのか。また、子どもは、犯罪被害にあわないよう、どの程

度意識して日常を過ごし、危険に対応しているのか。この種の研究はきわめて少ない。子どもの視点から地域の安全性を吟味してみた。

地域のお祭りで脅されたり、お金を取られそうになったり、怖い思いをしたことのある子どもの割合は4%であった(図19)。全体的に小学生、中学生共に旧村地域Aに比べ(1.78%, 2.22%)、新興地域B(4.48%, 7.22%)で経験率が高くなっている。都市化が青少年の意識と行動に影響していることを示す結果かもしれない。

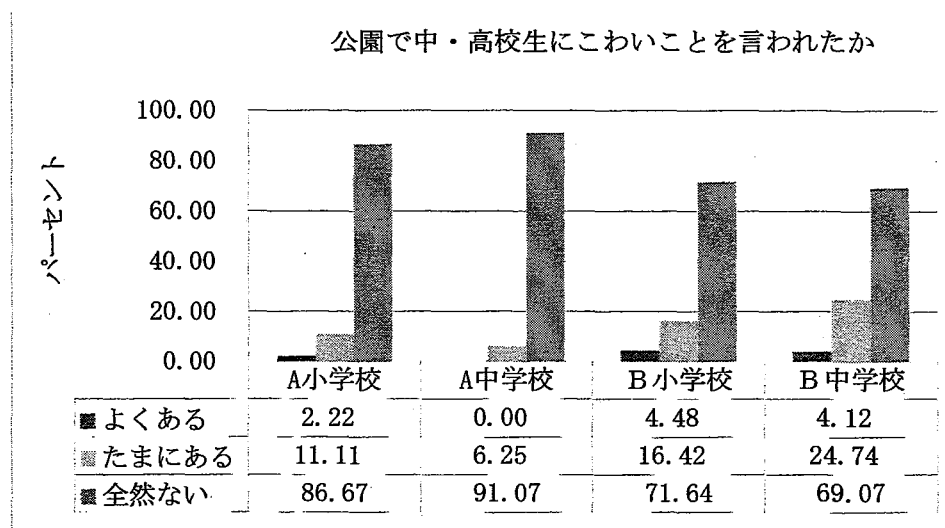


図20 公園で中・高校生に怖い(こわい)ことを言われた経験

公園で中学生や高校生にいやなこと・怖いことを言われた経験のある子どもの割合は、全体では16.67%である(図20)。地域による違いがあり、小学生・中学生共に旧村地域A(13.33%, 6.25%)よりも新興地域B(20.90%, 28.86%)の経験率が高くなっている。特に中学生では新興地域Bの経験率は旧村地区に比べ5倍近くになっており、ほぼ4人に一人が公園で怖い思いをしたと回答している。

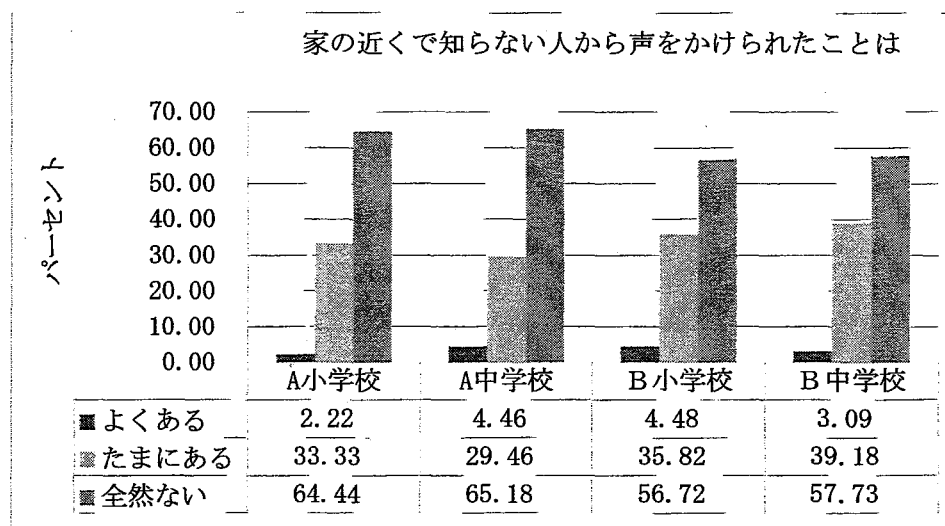


図21 家の近くで知らない人から声をかけられたことがあるか

家の近くで知らない人から声をかけられた子どもの割合は、全体では37.70%であり、

4割弱の子どもは未知の人から声をかけられた経験を持つ(図21)。お祭りや公園での経験率と同様に地域差が認められ、小学生・中学生共に旧村地域A(35.55%,33.92%)よりも新興地域B(40.30%,42.27%)の経験率が高くなっている。半数近くの子どもが、家の近くで見知らぬ人から声をかけられているのだ。見知らぬ人がすべて「怪しい人」・「不審者」というわけではないが、生活圏である地域の中で不特定の人と子どもが接する機会が増えていることを示唆する結果である。

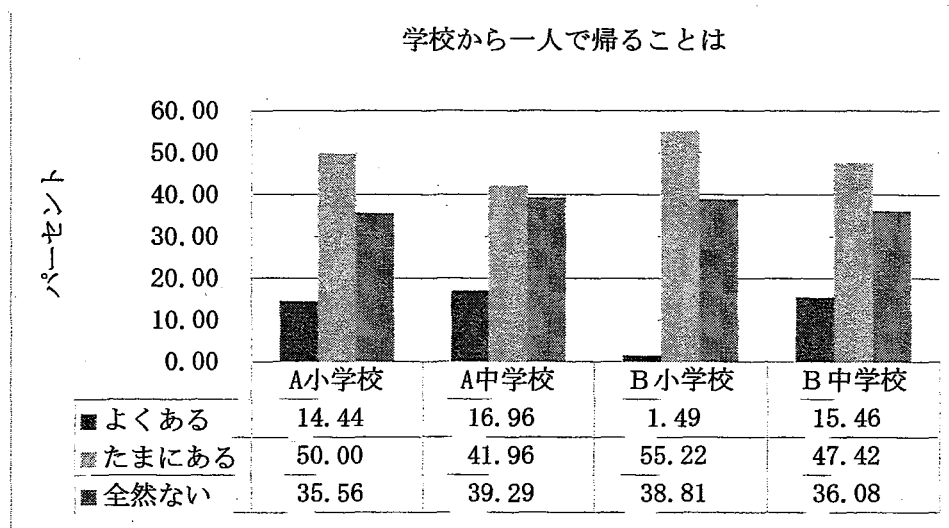


図22 学校から一人で帰宅することがあるか

子どもたちは、日々学校から一人で帰宅することがあるのだろうか。図22を見ると、一人で帰宅することが「よくある」、「たまにある」と回答した子どもの合計は、全体では60.92%と高率である。「よくある」と回答した子どもの割合も1割を越えており、いつも一人で帰宅する子どもがいる可能性を示している。地域差、学年差は顕著ではない。

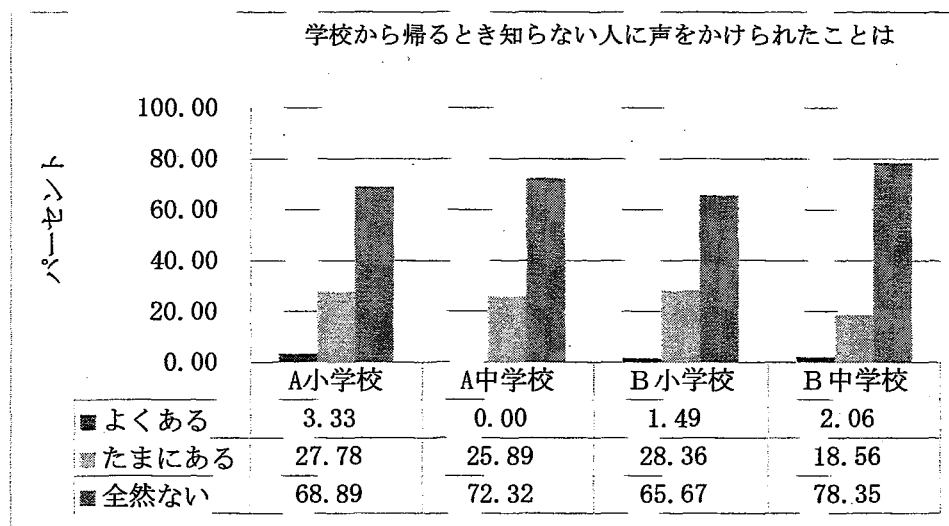


図23 学校からの帰宅時に知らない人から声をかけられたことがあるか

では、学校から帰宅するときに、知らない人に声をかけられた経験のある子は、どのくらいの割合いるのだろうか。「よくある」と「たまにある」の回答を合わせると全体で

26.50%であり、4人に一人の割合で経験している（図23）。A地域、B地域共に、中学生（25.89%、20.12%）に比べ、小学生（31.11%、29.85%）の方が、見知らぬ人に声をかけられた子どもの割合が大きい。3人に一人は見知らぬ人から声をかけられている。

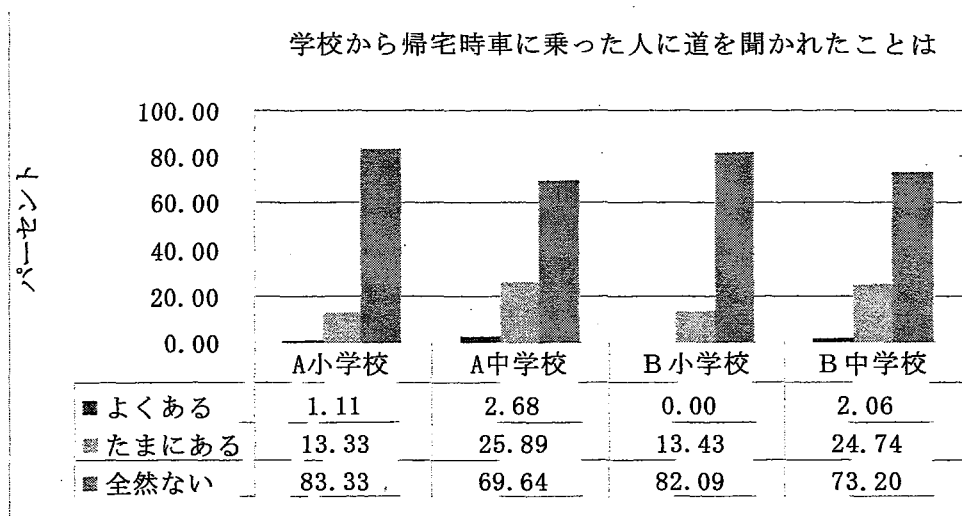


図24 学校から帰宅するとき車に乗った人に道を聞かれたことがあるか

学校からの帰り道、車に乗った人から道をたずねられた経験のある子どもの割合は、全体で 21.86%である。地域差は認められないが、学年差が大きい。A地域、B地域共に、小学生（14.44%、13.43%）よりも中学生（28.57%、26.80%）の方が経験率が高い（図24）。

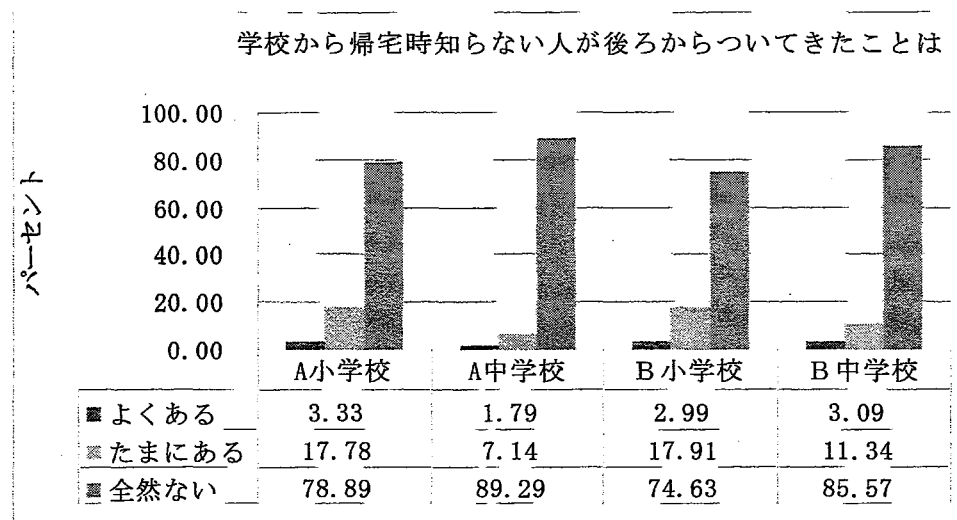


図25 学校から帰宅するとき知らない人がついてきたことがあるか

学校から帰るとき、見知らぬ人が後ろからついてきた経験のある子どもの割合は、全体で 15.57%である。A地域B地域共に学年差が大きく、小学生（21.11%、20.90%）の方が中学生（8.93%、14.43%）よりもその割合が大きくなっている（図25）。見知らぬ人から声をかけられた子どもの割合が小学生で大きかったのと同様の結果であり、注意すべき点である。

子どもの安全に関わる未知の人との接触は、今日の地域においてまれなことではないことを再確認する結果である。交通事故もまた子どもの安全に関わる問題である。交通事故にあいそうになった子どもの割合は、全体では「たまにある」と「よくある」を合わせて

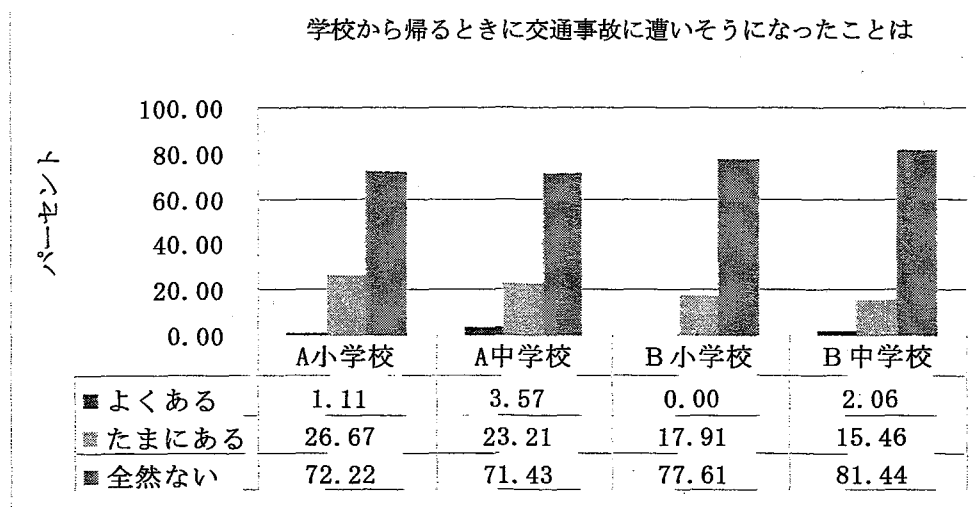


図 26 学校から帰宅するとき交通事故にあいそうになったことがあるか

22.95%である。小学生・中学生共に新興住宅地(17.91%, 17.52%) に比べ、旧村地域A (27.78%, 26.78%)において交通事故にあう危険がほぼ 10%高くなっている (図 26)。新興住宅地の方が旧村地域Aに比べ、車道と歩道の分離、信号機の設置等の道路整備が進んでいることを反映した結果であろうか。

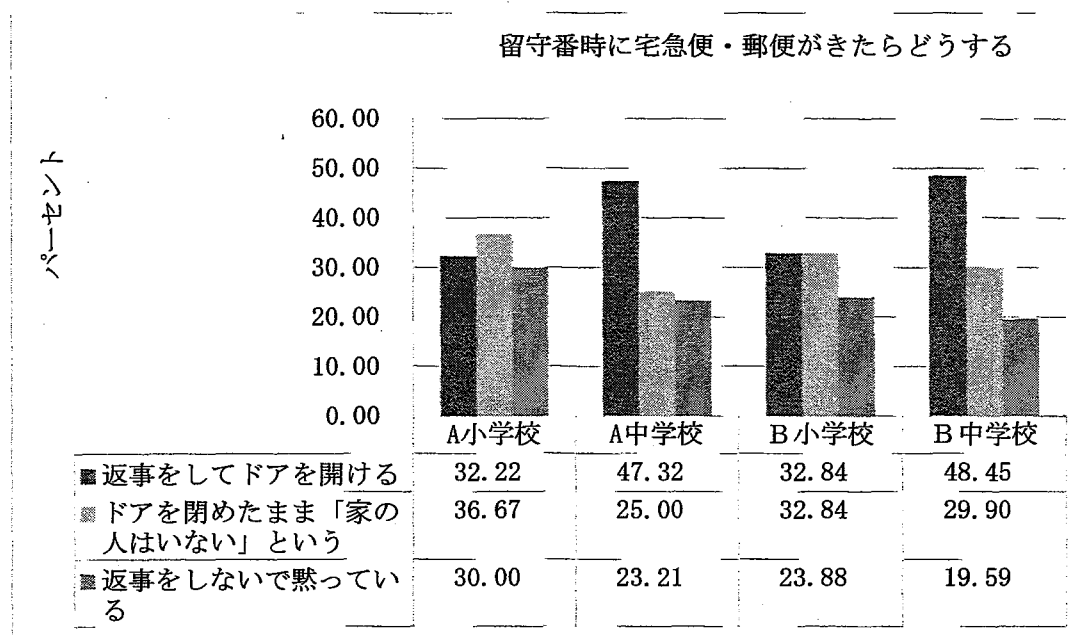


図 27 留守番の時宅急便・郵便がきたらどうするか

自宅で一人で留守番をしているときに、宅急便もしくは郵便が届けられたらどう対応するのか。小学生・中学生全体で見ると、「返事をしてドアを開ける」子どもの割合がもっとも大きく 41.26%である。「ドアを閉めたまま『家の人はいない』という」子どもの割合が 30.60%、「返事をしないで黙っている」子どもの割合がもっとも小さく 24.04%である。小学生の対応は3分される (図 27)。A 地域、B 地域共に「返事をしてドアを開ける」小学生の割合が全体の三分の一(32.22%, 32.84%)いる。中学生ではその比率はさらに大きく

なり A 地域、B 地域共に 5 割に迫る(47.32%, 48.45%)。子どもに声をかけたり、後ろからついてきたりする不特定多数の未知の人が地域にいる現状で、5 割近くの中学生在が、さらに 3 割の小学生が、届け物をする人や配達員に対してドアを開けることは、警戒心の欠如を示すものであり、「無防備」と言わざるを得ない。来訪者が、正規の配達員あるかどうか確認することも難しい時代であるにもかかわらず、ドアを開けることは危険であるといわざるを得ない。

地域の自然と子ども 地域で自然や動物に触れる機会はどのくらいあるのだろうか。かつてはどこにでもいた昆虫や小動物に対する「いたずら」を今子どもはどの程度経験しているのであろうか。野良ネコは比較的目にする事の多い動物であろう。野良ネコ(飼いネコが出歩いている場合が多いかもしれない)を抱いたりなでたりしたことのある子どもの割合は、「よくある」と「たまにある」を合わせると 62.03%である(図 28)。ネコは小学生と中学生の違いなく身近な親しみやすい動物になっていることが伺える。

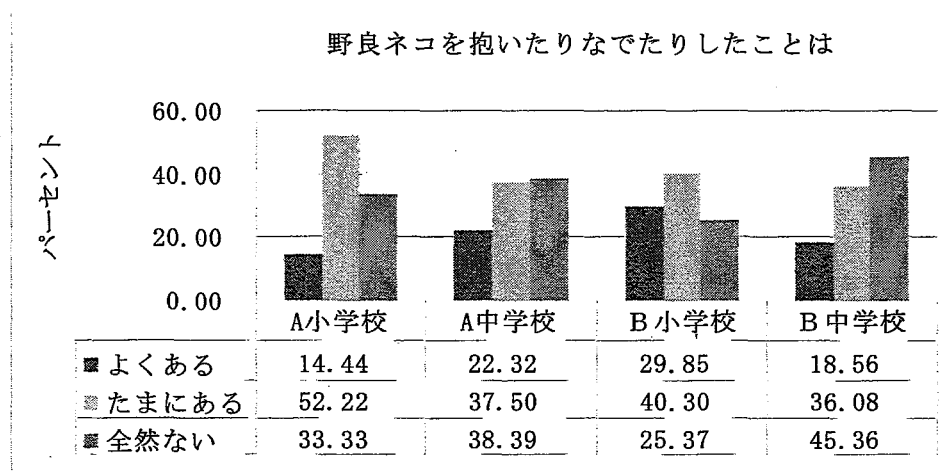


図 28 野良ネコを抱いたりなでたりしたことは

多くの地域で身の回りに草原や林を見つけるとが難しくなりつつある。ささやかな自然さえ残されていないのが、多くの子どもたちが住んでいる生活環境の現実かもしれない。

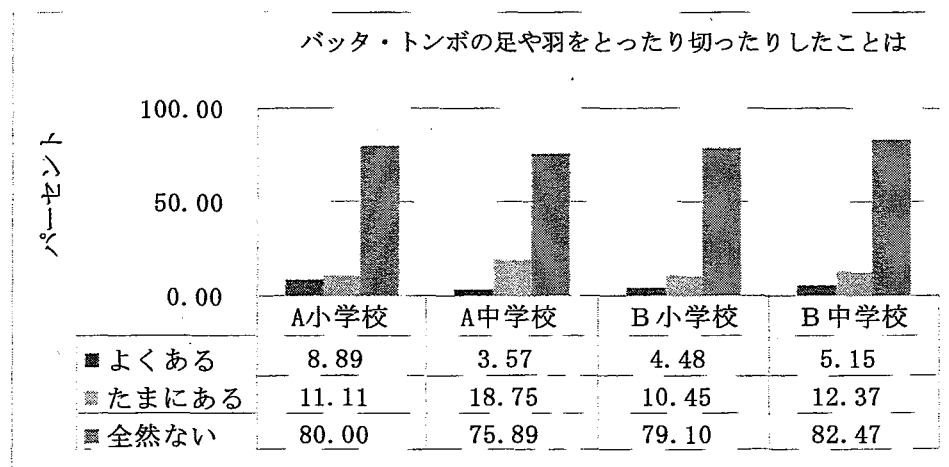


図 29 バッタやトンボの足や羽をとったり切ったりした経験

い。バッタやトンボを捕まえ、虫かごに入れる経験は自然経験の代表的なものの一つだったといえよう。バッタやトンボの足をとったり、羽を切ったりしたことのある子どもの割合は、全体では「たまにある」と「よくある」を合わせて 19.12%である（図 29）。8割の子どもはその経験がない。子どもの周囲に自然が少なく、ありふれたものであった昆虫などの生き物も稀少になっていることを示す結果である。

さらに、小さい頃から子どもが目にし、特に気にもとめない小さな昆虫がアリである。野原や雑木林がなくてもアリは、家の周辺にすることが多く、今でも多くの子どもが触れた経験を持つと予想される。アリの踏みつけた経験のある子どもの割合は 74.04%であり、今でも「生き物」への接触経験を与える代表的な昆虫である（図 30）。

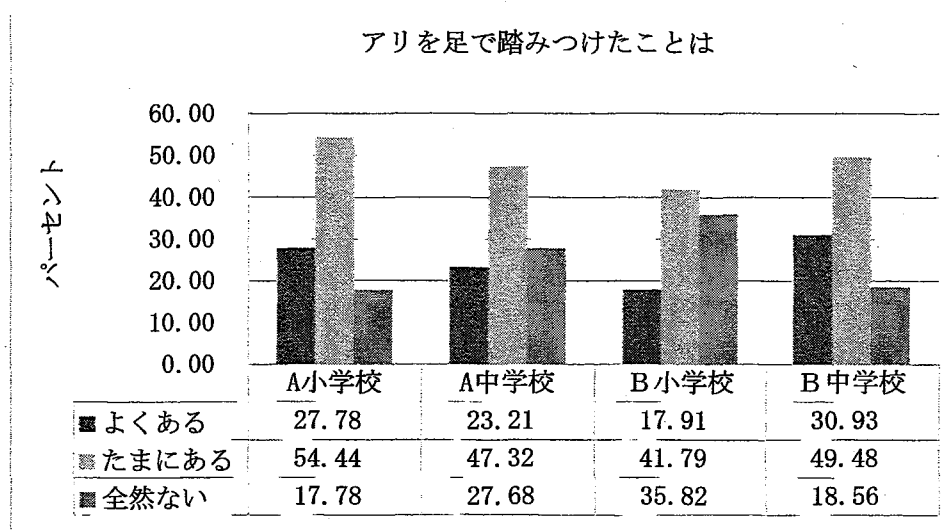


図 30 バッタやトンボの足や羽をとったり切ったりした経験

そのほかにも日常目にすることの多いハトに手でえさをあげた経験のある子どもの割合は、全体で 29.78%であり、3割程度にとどまっている。

子どものいたずら経験についてみるために、野良ネコに石をぶついたり、けったりした

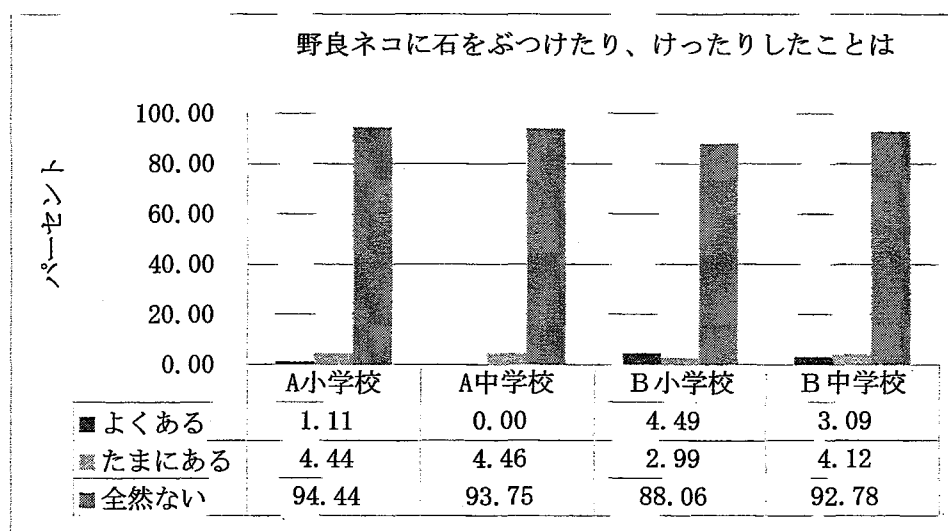


図 31 野良ネコに石をぶついたりけったりした経験

ことがあるか否かをたずねた。こうした「いらすら」をした経験のある子どもは、全体で6.01%とわずかであった(図31)。道路はほとんど舗装され、砂利道などは珍しくなった今、「いたすら」をする石を見つけることさえ子どもには難しいことなのかもしれない。

社会的弱者と子ども 「格差社会」ということばが一般に定着した感がある。路上生活者や駅前、公園、川縁に寝泊まりするホームレスがだれの目にもとまるような社会になった。青少年が、こうしたホームレスに暴力をふるい、虐待する犯罪も起こるようになった。子どもたちは、こうした社会的に弱い立場に置かれる人々、社会的弱者をどのように見ているのであろうか。また、彼らに乱暴を働く少年たちをどうとらえているのであろうか。

ホームレスの人に出あった経験のある子どもの割合は、全体では52.19%である(図32)。

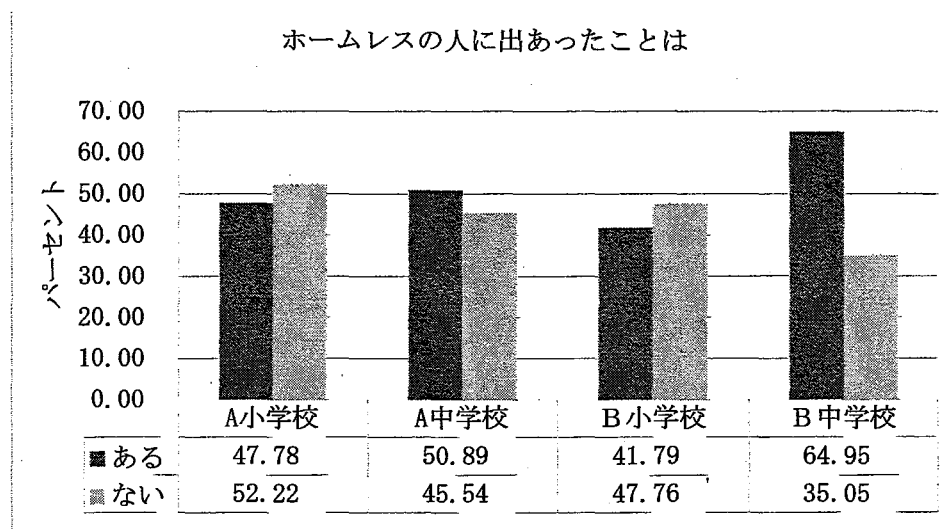


図32 ホームレスの人に出あった経験

駅前周辺や公園に住まう生活者の姿が常態化する中で、半数近くの子どものがホームレスの人に出あったことがないと回答している。子どもが河川の周辺や公園内で夜間行動することは少ないし、昼間は人目につかないよう路上生活が規制されていることも、経験者の割合が比較的小さい背景にあるのかもしれない。

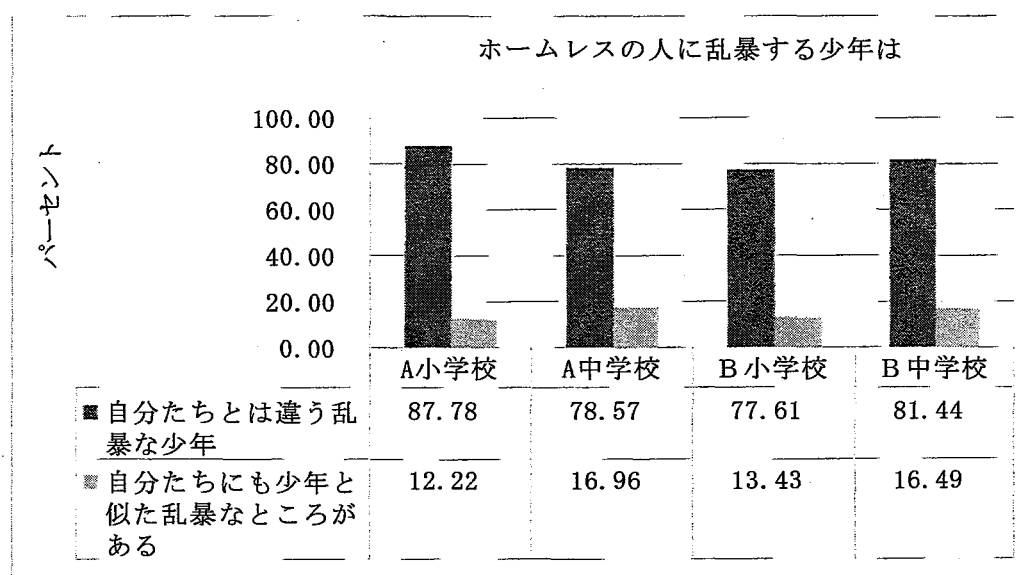


図 33 ホームレスの人に乱暴する少年と自分は似ているか

ホームレスの人に乱暴する中学生や高校生に対して、同世代の子どもたちはどのように見ているのだろうか。ホームレスの人たちを殴ったりけったりする少年は、「自分たちとは違う乱暴な少年」だと見ている子どもの割合は、全体で 81.42%に達する（図 33）。大半の子どもは、ホームレスの人に暴力を振るう少年は自分とは異なると見ている。自分にも事件を起こす少年と似た乱暴なところがある、と回答する子どもの割合は1割から2割弱である。

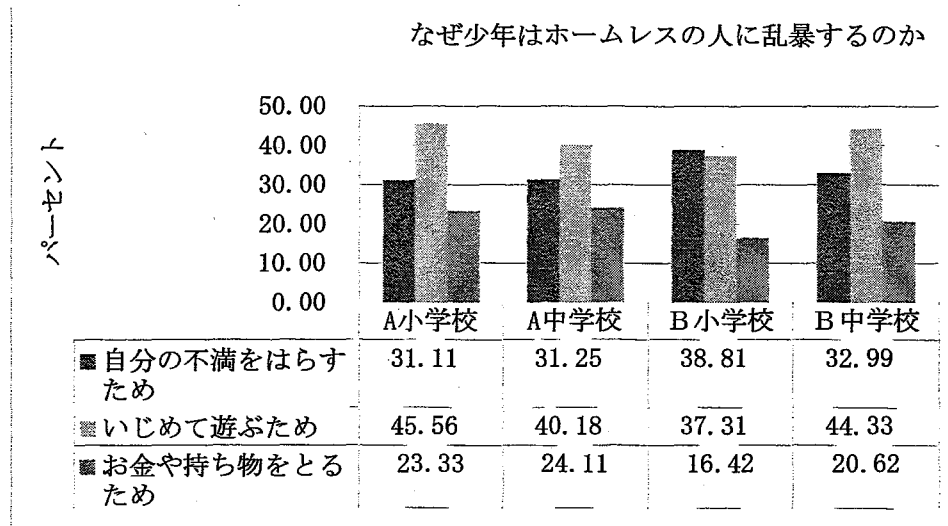


図 34 なぜ少年はホームレスの人に乱暴するのか

では、大半の子どもが、「自分とは違う」と見る事件を起こした少年たちは、なぜ弱者に対して乱暴をするのか、その理由を子どもたちにたずねた。全体では、もっとも多くの子どもの選択したのは「いじめて遊ぶため」(42.08%)であった（図 34）。続いて「自分の不満をはらすため」(33.06%)、「お金や持ち物をとるため」(21.58%)になっている。小学生も中学生もホームレスの人に対する乱暴は、少年たちの遊び半分の行為だと見なしている。

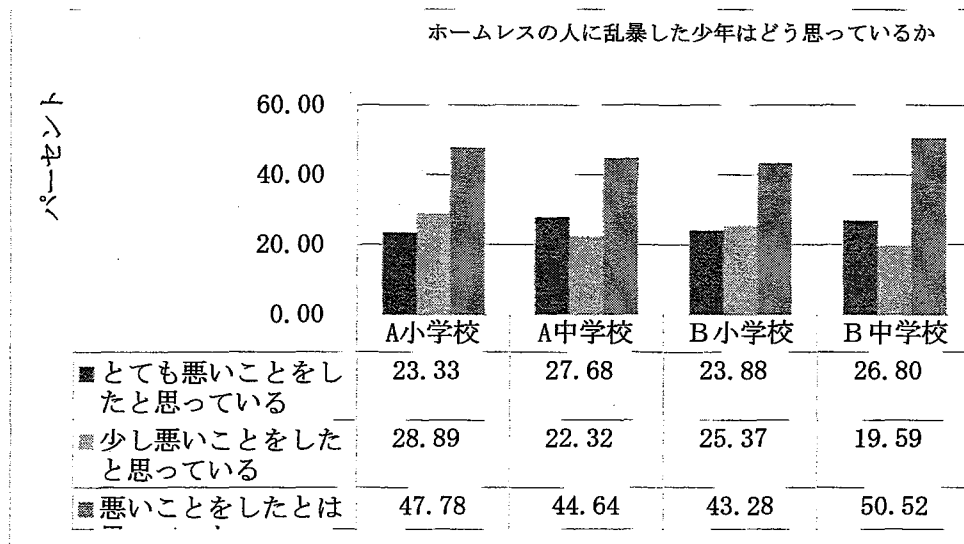


図 35 ホームレスの人に乱暴した少年はどう思っているか

子どもたちは、事件を起こした少年たちは、自分が加害者であり、人に危害を加えたことを反省している、と思っているのであろうか。全体の半数近くの子どものは(46.72%)、少年たちは「悪いことをしたとは思っていない」と回答している(図35)。少年たちが「とても悪いことをした」と反省していると、推定する子どもの割合は25.68%に過ぎない。

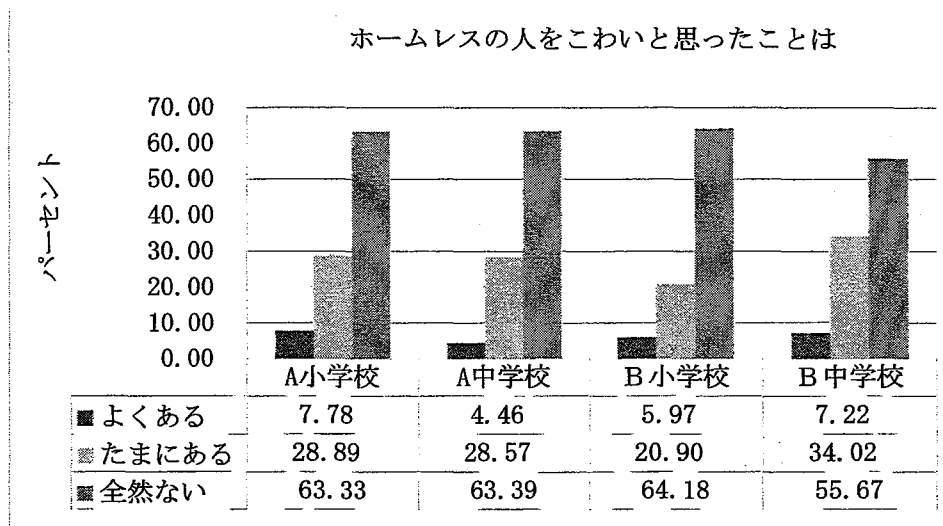


図36 ホームレスの人を恐いと思ったことがあるか

少年たちが、ホームレスの人に対して明確な意図を持たず、遊び半分で事件を起こしていることが、事件を起こしたことへ彼らの反省を弱くしていると、一般の子どもたちに判断させるのかもしれない。

小学生や中学生自身は、ホームレスの人たちをどのように見ているのであろうか。ホームレスの人を「恐い」と思ったことのある子どもの割合は、「たまにある」が28.69%であり、「よくある」(6.28%)を合わせても34.97%である(図36)。恐いと思ったことは「ぜんぜんない」と回答する子どもの割合は61.48%で、半数以上の子どもは「恐い」とは思っていない。ホームレスの人と出あったことのある子どもが約半数だったにもかかわらず、この質問には97%の子どもが回答している。マスコミ等何らかの媒体を通じて子どもたちは、ホームレスの人に対するイメージ、態度を形成していることを表す結果であろう。

考察

楽しい夏祭り 夏祭りは、子どもにとって楽しい地域の行事になっていることが明らかになった。祭りは、地域の人ばかりでなく、他の学区からも大勢の子どもが参加することもある。ときは、祭りは子どもの非行の温床になると危ぶむ人があるかもしれない。上級生からお金やもの脅し取られたりする問題が発生することもある。鶴ヶ島町では、お祭りで脅迫された経験のある子どもは少なく、安心して楽しめる場になっているようだ。

夏祭りは、地元にある昔から行われてきた庶民の行事で、住民にとってはなくてはならないものであることを子どもたちの回答は示している。鶴ヶ島では、菜の花祭り、桜祭りなどいくつかの新しい祭りが催されているが、いずれも子どもの参加率は高く、各種のお祭りは子どもに人気のあるイベントであることがわかる。子どもに限らず、お祭りは、大人にとっても楽しい行事であろう。埼玉県内の父母が地域のお祭りに参加する割合は、53.2%となっている(埼玉県教育委員会, 2001)。子どもたちの参加率も父母とほぼ同率で、小学生56.1%、中学生52.5%である。お祭りが、人と人とのふれ合いと、異世代間の交流

の場になっていることを示す。子どもは、地域のいろいろな人が集い、大人との関わりを嫌っているわけではないことを示す結果でもあろう。

なじみのうすい伝統行事 お祭りとは対照的に、伝統行事や芸能は、地域の子どもにはほとんど知られていない。「すねおり雨乞い行事」や「高倉の獅子舞」などは、特定の地域の歴史と深くかかわり、行事の開催地が限定されていることも一因かもしれない。これらの行事が、自然や神への祈願や祈祷を目的とし、感謝祭や人々の交流を主要な目的とするものではないことも影響しているのかもしれない。しかし、他方で脚折雨乞い行事は、その希少性がマスコミに報じられ（朝日新聞、2008年8月5日）、知名度は高く、鶴ヶ島を代表する行事として全国的に知られるようになった。こうした報道を通じて、地元の子どもたちの「脚折雨乞い行事」の受けとめめ方も変化するのではないだろうか。

活発な近所づきあい 直接比較できる資料ではないが、子どもの地域認識は、あまり肯定的でないことを示唆する資料もある。「近所に住む人たちは、あなたのことを親身になって心配したり、しかったり、教えたり、助けたりしてくれますか」の問いに、「少しは」と「ない」を合わせた割合は、小学生で50.8%、中学生で38.5%である（埼玉県教育委員会、2003）。一方で、子どもたちの地域における人間関係は、鶴ヶ島では一般にいわれるほど希薄ではないようだ。近所の人によく挨拶する子の割合は小中学生共に5割を越え、たまには近所の家に遊びに行く子どもも5割を越える。さらに近所の家族とたまには食事に行くと回答する子どもは7割前後いる。各学校区で子どもへの「ほんの読み聞かせ」が浸透していることも一役かっているのであろう。「読み聞かせ」のような親による地道な活動が成り立つこと自体が、親密な人間関係が地域にあることを示している。

危険が潜在する地域 子どもにとっての地域環境の安全性は、本研究で明らかにしようとした重要な課題の一つである。公園で危険な場面に出くわした子どもの割合はそれほど大きくなかった。しかし、注意しなければならないことは、家の近くや学校からの帰路で見知らぬ人から声をかけられた子どもは多く、3人に1人の割合になる。さらに、改めて大人が認識しておかなければならないことは、ときどきであるにせよ1人で学校から帰宅する子どもが2人に1人いる点だ。子どもを巻き込んだ犯罪で、現場を目撃した人がだれもいない場合も少なくない。交通網が発達し、人々の行動範囲が拡大した現在、どこの地域であれ子どもたちにとって「未知の人」「見知らぬ人」が行き交うことは日常的な事柄になっているのである。少なくとも子どもが、どこのだれとも知れぬ大人から、声をかけられ、道を聞かれ、後をつけられたりした経験を持っているのである。こうした状況の下で、一人下校は、子どもを危険にさらすことを意味し、保護者や大人の対応が問われているといわなければならない。子どもにとって、危険の中には交通事故も含まれることを記しておこう。

盲点ともいえる子どもにとっての危険が、調査から明らかになった。留守宅で1人で留守番をしているときの来訪者に対する対応である。1人で家にいるとき、宅急便や郵便などの届け物があつたとき、ドアを開ける子どもが多いのである。訪問者が実際に信頼できる配達人であるか否かを子どもが確認することは容易ではない。仮に確認できたとしても、安全である保証はない。万が一ドアを開ける場合でも、補助鍵や鎖をかけるなどの防衛が必要であること、緊急時の対応を知っておくこと、等の防衛策を十分周知する安全教育が欠かせない。

遊びとしての非行 社会的弱者に対する子どもの態度について興味深い結果が得られた。「ホームレスの人に暴力を振るうのは、少年たちの遊びであり、特別の目的を持つものではない」と、多くの子どもは見ている。犯意が曖昧で、目的的でないことは、大半の子どもが、少年たちは自ら犯した犯罪に対して無反省であると、みなしていることと無縁ではないだろう。少年自身が、暴力行為、犯罪行為を「遊び」として捉えているため、自らの暴力・傷害行為を客観的に犯罪として認識できていないことを示唆する結果である。触

法少年に犯罪意識がないことが、犯罪行為に対する「反省」も消滅させてしまっている。

問いかけ方にもよるが、ホームレスの人に出会ったことのない子どもの多くは、彼らに対して「怖い」と感じていない。子どもは、「ホームレス」を「暴力」と結びつけてイメージしていないことを示す結果である。現実には、「ホームレスの人」が青少年の暴力被害に遭い、一方的な被害者・「弱者」として報道される事件が多い。「ホームレス」との出会い経験のない子どもがもつこうした「社会的弱者イメージ」は、マスコミ、新聞、インターネット等、各種の媒体を通じて形成されたものであろう。子どもが目にし耳にする文字や映像・画像情報が子どもに及ぼす影響にも注意しなければならない。

(坂西友秀)

おわりに

本研究では、鶴ヶ島市で行われている伝統的な行事、子どもを対象にした市民によるボランティア活動、さらには子どもを中心に据えた「お祭り」などの行事をとりあげて聞き取り調査を行った。また、子どもたちが自分の住む町をどのように捉え、いろいろな行事や催しものにどれだけ参加しているのか、地域の大人との関わりや人間関係はどのような実態にあるのか、登下校時を含めた子どもの日常には犯罪に結びつくかもしれない危険性が潜在的にどの程度存在するのか、「格差社会」と称される今日、子どもたちはいわゆる「ホームレス」といわれる社会的弱者をどのように見ているのか、またそうした弱者に対して暴力を振るい、危害を加える触法少年たちをどのように見ているのか、これらの点について、小学生と中学生を対象に質問紙調査を実施し、彼らの意識・心理の一般的な傾向を明らかにした。

鶴ヶ島市には、子どもを取り込んだ行事や催しものが沢山あり、今回私たちが行った聞き取り調査も7団体を対象にしたものである。この報告書では、その内の5つをとり上げた。いずれも子どもと青年の参加がなくては立ちゆかない行事・芸能であり、催しもの・活動である。昔から行われてきた地元のお祭りや行事もあるが、新たに子どものために創意工夫して創出された行事もある。今回の調査で強調したい点は、鶴ヶ島の将来を担う子どもの育成に、地域をあげてとり組む姿勢が強く見られたことである。聞き取り調査の事例を読んでいただくとわかることであるが、どの行事、催しもの、そして活動にしても大人と子どもの関わりが地域社会を背景しており、両者の個別の関わりではないということである。

子どもは地域で育つこと、地域で育てなければならないことを、多くの大人が強く自覚している。このことが、鶴ヶ島で今回聞き取り調査を行った団体・関係者の話から感じることでできた大きな特徴であり、貴重な点である。さらにいえば、現代流に復元された伝統行事「脚折雨乞い行事」、伝統芸能の「高倉獅子舞」、古くて新しい「どんど焼き」、新しく生み出された「子ども祭り」や「読み聞かせ」など、これらの行事や儀式や文化的活動は、市民が憩い集う機会を提供するものであり、老いも若きも共に気軽に参加でき、楽しみ交流できる場の提供である。これらの活動は、それぞれ性格を異にするが、いくつもの活動が重層的に行われることで、市民の交流を促進する梃子の役割を果たしているといえよう。

梃子を用意する要の位置に公民館があることも聞き取り調査で明らかになった重要な点の一つであろう。どんど焼きがその典型である。行政が住民との距離を小さくし、地域の人々と一体になって住民が参加できる行事を創り出した、それが「どんど焼き」であった。住民の視点に立った行政の施策・活動により、住民相互の交流を促進し、地域を活性化させることを示す好例ではないだろうか。

本報告書は、心理学の理論的背景があって調査を実施したわけではない。仮説に基づいて事実の断片を取り出し、命題の正否を吟味するのではない。様々な要因が交叉する地域全体の文化や社会的な脈絡と関わらせながら、子どもの姿を明らかにしようと試みた。鶴ヶ島では、子どもたちが様々な行事に参加しながら、地域のなかで生活していることが概略ながら理解できた。地域の歴史、文化を考慮し、質問紙調査の結果と重ね合わせて子ど

もを捉えることは、数量的な把握では抜け落ちてしまいがちな子どもの地域でのダイナミックな生活と人間関係を把握することの重要性に気づかせてくれる。同時に、問題点は、聞き取り調査では、事例的に実態を把握することはできるが、子どもたちの全体的な像、一般的な姿は把握しにくいということである。たとえば、多くの子どもが参加し、地域の行事として定着した「脚折雨乞い」行事であるが、子どもたちへの質問紙調査では、参加は一部の子どもに限られていることがわかる。「どんど焼き」にしてもそうである。移動範囲の限定された子どもにとって、これらの行事は地域限定のものなのである。子どもの現実の姿を捉えるには、地域の特徴を考慮して、異なる方法、角度から得られる情報を、齟齬のないように立体的に組み立てる「技量」が研究者側になければならない。当然のことではあるが、聞き取りをするときに、聞き取る側が何を聞き取りたいのか、十分検討しておく必要がある。特に地域における子どもの人間関係を把握する場合には、どのような団体、グループを聞き取り調査の対象にするのが重要な課題になろう。想定していない話や話題が、思いがけず子どもの生活や活動に深く関わり、大きく影響していることが明らかになることもある。直接研究目的とした課題だけに絞って聞き取りを行うと、研究者の視点、枠組みからあらかじめ設定し限定した話題のみを取り上げ、研究者の関心に沿って話題を取捨選択してしまい、「片寄った」事実だけを掘り起こす危険が大きくなる。話題を拡張させ、柔軟に展開できるところが、質的な研究と調査のおもしろみでもあり、同時に難しい点でもある。

報告書を締めくくるにあたって、反省点は、報告書の作成までに予想以上に時間がかかり、報告が遅れてしまったことである。聞き取り調査のテープを起こし、聞き取った事実に沿いながらも、話された内容をひとまとまりのエピソードに分け、全体をいくつかのエピソードから構成・編成する作業を行った。エピソードに整理することは手間のかかる作業であるが、聞き取った話を自らの耳を通して再度聞き直し、文字化し、会話を意味のあるまとまりに整理することは、調査内容を明確化し、深く理解する上で有益である。一連の会話をエピソード化し、それぞれにテーマ・小見出しをつけることは、瞬間瞬間に流れ去る会話を対象化してじっくり意識化し、内容を明確化することを可能にする。整理に要する多大な労力とエピソードへの分類に客観性があるのかといった問題があり、今後の課題である。手間を省くために、第三者にテープ起こしを依頼することが多いのかもしれない。しかし、対話した研究者自らが会話を文字化することの意味もまた大きく、質的研究を深める上で有意義である。聞き取り調査者自身、研究者本人が、テープ起こしの作業を行うことの主観性の問題は、研究法の欠点というより、行間から醸し出されるデータの質的細部を理解することを可能にする点で、心理学研究にとってむしろ利点として考えることができるのではないだろうか。

最後に、本研究は、公募により市民の方と行った初めての共同研究であった。地域に密着した問題への関心から始まった研究は、大学にいる者にとって、新鮮で有意義なものであった。地元の実情を研究に反映できることは、市民の方との共同研究だからこそ可能になるものである。大学と地域の連携下研究を発展させるためには、密度の濃い情報交換と協同が欠かせない。この点はさらに深めるべき今後の課題として残っている。最後になりましたが、遠方まで足を運んでいただき、地元での調査等でお世話になりました共同研究者の原田裕子さん（鶴ヶ島市）に感謝申し上げます。

（坂西友秀）

第三部

資 料

表1 「葉の花祭り」に参加したことがあるか

学校	性別	毎年参加	ときどき参加	ほとんどない	ない	未記入	合計
T中学校	女子	1	7	5	35	4	52
		1.92%	13.46%	9.62%	67.31%	7.69%	100.00%
T中学校	男子	2	5	9	41	2	59
		3.39%	8.47%	15.25%	69.49%	3.39%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		3	12	14	77	6	112
		2.68%	10.71%	12.50%	68.75%	5.36%	100.00%
T1小学校	女子	1	10	6	19	0	36
		2.78%	27.78%	16.67%	52.78%	0.00%	100.01%
T1小学校	男子	0	9	9	36	0	54
		0.00%	16.67%	16.67%	66.67%	0.00%	100.01%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
合計		1	19	15	55	0	90
		1.11%	21.11%	16.67%	61.11%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	2	0	32	1	35
		0.00%	5.71%	0.00%	91.43%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	0	1	5	24	2	32
		0.00%	3.13%	15.63%	75.00%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
合計		0	3	5	56	3	67
		0.00%	4.48%	7.46%	83.58%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	0	1	2	30	10	43
		0.00%	2.33%	4.65%	69.77%	23.26%	100.01%
M中学校	男子	0	0	4	37	11	52
		0.00%	0.00%	7.69%	71.15%	21.15%	99.99%
M中学校	未記入	0	0	0	1	1	2
		0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%	100.00%
合計		0	1	6	68	22	97
		0.00%	1.03%	6.19%	70.10%	22.68%	100.00%
全合計		4	35	40	256	31	366

表2 「葉の花祭り」は楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	0	9	10	4	29	52
		0.00%	17.31%	19.23%	7.69%	55.77%	100.00%
T中学校	男子	2	6	13	9	29	59
		3.39%	10.17%	22.03%	15.25%	49.15%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	1	0	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		2	15	24	13	58	112
		1.79%	13.39%	21.43%	11.61%	51.79%	100.01%
T1小学校	女子	0	6	11	6	13	36
		0.00%	16.67%	30.56%	16.67%	36.11%	100.01%
T1小学校	男子	1	5	11	24	13	54
		1.85%	9.26%	20.37%	44.44%	24.07%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	11	22	30	26	90
		1.11%	12.22%	24.44%	33.33%	28.89%	99.99%
M小学校	女子	1	1	3	8	22	35
		2.86%	2.86%	8.57%	22.86%	62.86%	100.01%
M小学校	男子	0	4	6	11	11	32
		0.00%	12.50%	18.75%	34.38%	34.38%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	5	9	19	33	67
		1.49%	7.46%	13.43%	28.36%	49.25%	99.99%
M中学校	女子	0	1	4	8	30	43
		0.00%	2.33%	9.30%	18.60%	69.77%	100.00%
M中学校	男子	0	0	5	13	34	52
		0.00%	0.00%	9.62%	25.00%	65.38%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	0	1	1	2
		0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%	100.00%
合計		0	1	9	22	65	97
		0.00%	1.03%	9.28%	22.68%	67.01%	100.00%
全合計		4	32	64	84	182	366

表3 「夏祭り」に参加したことがありますか

学校	性別	毎年参加	ときどき参加	ほとんどない	ない	合計
T中学校	女子	14 26.92%	30 57.69%	5 9.62%	3 5.77%	52 100.00%
T中学校	男子	14 23.73%	32 54.24%	8 13.56%	5 8.47%	59 100.00%
T中学校	未記入	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%
合計		29 25.89%	62 55.36%	13 11.61%	8 7.14%	112 100.00%
T1小学校	女子	17 47.22%	18 50.00%	1 2.78%	0 0.00%	36 100.00%
T1小学校	男子	20 37.04%	29 53.70%	2 3.70%	3 5.56%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		37 41.11%	47 52.22%	3 3.33%	3 3.33%	90 99.99%
M小学校	女子	14 40.00%	17 48.57%	3 8.57%	1 2.86%	35 100.00%
M小学校	男子	18 56.25%	11 34.38%	3 9.38%	0 0.00%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		32 47.76%	28 41.79%	6 8.96%	1 1.49%	67 100.00%
M中学校	女子	18 41.86%	21 48.84%	2 4.65%	2 4.65%	43 100.00%
M中学校	男子	21 40.38%	22 42.31%	8 15.38%	1 1.92%	52 99.99%
M中学校	未記入	2 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		41 42.27%	43 44.33%	10 10.31%	3 3.09%	97 100.00%
全合計		139	180	32	15	366

表4 「夏祭り」にはだれと行きますか

学校	性別	家族と行く	友だちと行く	きょうだいと行く	近所の人と行く	未記入	合計
T中学校	女子	14 26.92%	35 67.31%	0 0.00%	0 0.00%	3 5.77%	52 100.00%
T中学校	男子	15 25.42%	41 69.49%	0 0.00%	0 0.00%	3 5.08%	59 99.99%
T中学校	未記入	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%
合計		29 25.89%	77 68.75%	0 0.00%	0 0.00%	6 5.36%	112 100.00%
T1小学校	女子	10 27.78%	24 66.67%	2 5.56%	0 0.00%	0 0.00%	36 100.01%
T1小学校	男子	30 55.56%	21 38.89%	1 1.85%	1 1.85%	1 1.85%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		40 44.44%	45 50.00%	3 3.33%	1 1.11%	1 1.11%	90 99.99%
M小学校	女子	9 25.71%	25 71.43%	0 0.00%	0 0.00%	1 2.86%	35 100.00%
M小学校	男子	9 28.13%	23 71.88%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		18 26.87%	48 71.64%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.49%	67 100.00%
M中学校	女子	3 6.98%	38 88.37%	0 0.00%	0 0.00%	2 4.65%	43 100.00%
M中学校	男子	4 7.69%	45 86.54%	1 1.92%	0 0.00%	2 3.85%	52 100.00%
M中学校	未記入	1 50.00%	1 50.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		8 8.25%	84 86.60%	1 1.03%	0 0.00%	4 4.12%	97 100.00%
全合計		95	254	4	1	12	

表5 地域のお祭り・「夏祭り」は楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	10	33	7	0	2	52
		19.23%	63.46%	13.46%	0.00%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	14	36	3	2	4	59
		23.73%	61.02%	5.08%	3.39%	6.78%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		24	70	10	2	6	112
		21.43%	62.50%	8.93%	1.79%	5.36%	100.01%
T1小学校	女子	11	23	2	0	0	36
		30.56%	63.89%	5.56%	0.00%	0.00%	
T1小学校	男子	16	30	4	3	1	54
		29.63%	55.56%	7.41%	5.56%	1.85%	
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		27	53	6	3	1	90
		30.00%	58.89%	6.67%	3.33%	1.11%	100.00%
M小学校	女子	9	21	4	0	1	35
		25.71%	60.00%	11.43%	0.00%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	14	11	4	3	0	32
		43.75%	34.38%	12.50%	9.38%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		23	32	8	3	1	67
		34.33%	47.76%	11.94%	4.48%	1.49%	100.00%
M中学校	女子	12	26	2	2	1	43
		27.91%	60.47%	4.65%	4.65%	2.33%	100.01%
M中学校	男子	12	27	8	4	1	52
		23.08%	51.92%	15.38%	7.69%	1.92%	99.99%
M中学校	未記入	2	0	0	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		26	53	10	6	2	97
		26.80%	54.64%	10.31%	6.19%	2.06%	100.00%
全合計		100	208	34	14	10	366

表6 「どんと焼き」に参加したことがありますか

学校	性別	毎年参加	ときどき参加	ほとんどない	ない	未記入	合計
T中学校	女子	0	3	0	48	1	52
		0.00%	5.77%	0.00%	92.31%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	1	0	6	52	0	59
		1.69%	0.00%	10.17%	88.14%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		1	3	6	101	1	112
		0.89%	2.68%	5.36%	90.18%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	0	1	1	34	0	36
		0.00%	2.78%	2.78%	94.44%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	0	0	1	53	0	54
		0.00%	0.00%	1.85%	98.15%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	1	2	87	0	90
		0.00%	1.11%	2.22%	96.67%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	0	4	31	0	35
		0.00%	0.00%	11.43%	88.57%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	0	2	4	26	0	32
		0.00%	6.25%	12.50%	81.25%	0.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	2	8	57	0	67
		0.00%	2.99%	11.94%	85.07%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	0	1	2	39	1	43
		0.00%	2.33%	4.65%	90.70%	2.33%	100.01%
M中学校	男子	0	0	1	50	1	52
		0.00%	0.00%	1.92%	96.15%	1.92%	99.99%
M中学校	未記入	0	0	1	0	1	2
		0.00%	0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	100.00%
合計		0	1	4	89	3	97
		0.00%	1.03%	4.12%	91.75%	3.09%	99.99%
全合計		1	7	20	334	4	366

表7 「どんと焼き」は楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	0	5	5	5	37	52
		0.00%	9.62%	9.62%	9.62%	71.15%	100.01%
T中学校	男子	1	2	7	14	35	59
		1.69%	3.39%	11.86%	23.73%	59.32%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	1	0	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		1	7	13	19	72	112
		0.89%	6.25%	11.61%	16.96%	64.29%	100.00%
T1小学校	女子	0	1	2	9	24	36
		0.00%	2.78%	5.56%	25.00%	66.67%	100.01%
T1小学校	男子	0	1	2	24	27	54
		0.00%	1.85%	3.70%	44.44%	50.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	2	4	33	51	90
		0.00%	2.22%	4.44%	36.67%	56.67%	100.00%
M小学校	女子	0	1	4	5	25	35
		0.00%	2.86%	11.43%	14.29%	71.43%	100.01%
M小学校	男子	1	2	5	11	13	32
		3.13%	6.25%	15.63%	34.38%	40.63%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	3	9	16	38	67
		1.49%	4.48%	13.43%	23.88%	56.72%	100.00%
M中学校	女子	0	2	1	11	29	43
		0.00%	4.65%	2.33%	25.58%	67.44%	100.00%
M中学校	男子	0	0	4	14	34	52
		0.00%	0.00%	7.69%	26.92%	65.38%	99.99%
M中学校	未記入	0	1	0	0	1	2
		0.00%	50.00%	0.00%	0.00%	50.00%	100.00%
合計		0	3	5	25	64	97
		0.00%	3.09%	5.15%	25.77%	65.98%	99.99%
全合計		2	15	31	93	225	366

表8 「子どもフェスティバル」に参加したことがありますか

学校	性別	毎年参加	ときどき参加	ほとんどない	ない	未記入	合計
T中学校	女子	6	18	13	15	0	52
		11.54%	34.62%	25.00%	28.85%	0.00%	100.01%
T中学校	男子	3	23	18	15	0	59
		5.08%	38.98%	30.51%	25.42%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	1	0	0	0	0	1
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		10	41	31	30	0	112
		8.93%	36.61%	27.68%	26.79%	0.00%	100.01%
T1小学校	女子	15	12	4	5	0	36
		41.67%	33.33%	11.11%	13.89%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	7	20	10	16	1	54
		12.96%	37.04%	18.52%	29.63%	1.85%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		22	32	14	21	1	90
		24.44%	35.56%	15.56%	23.33%	1.11%	100.00%
M小学校	女子	10	20	2	3	0	35
		28.57%	57.14%	5.71%	8.57%	0.00%	99.99%
M小学校	男子	15	9	6	2	0	32
		46.88%	28.13%	18.75%	6.25%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		25	29	8	5	0	67
		37.31%	43.28%	11.94%	7.46%	0.00%	99.99%
M中学校	女子	5	30	4	4	0	43
		11.63%	69.77%	9.30%	9.30%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	0	33	17	2	0	52
		0.00%	63.46%	32.69%	3.85%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		5	65	21	6	0	97
		5.15%	67.01%	21.65%	6.19%	0.00%	100.00%
全合計		62	167	74	62	1	366

表9 「子どもフェスティバル」は楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	5	20	13	2	12	52
		9.62%	38.46%	25.00%	3.85%	23.08%	100.01%
T中学校	男子	3	19	19	3	15	59
		5.08%	32.20%	32.20%	5.08%	25.42%	99.98%
T中学校	未記入	1	0	0	0	0	1
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		9	39	32	5	27	112
		8.04%	34.82%	28.57%	4.46%	24.11%	100.00%
T1小学校	女子	8	16	7	1	4	36
		22.22%	44.44%	19.44%	2.78%	11.11%	99.99%
T1小学校	男子	6	16	11	10	11	54
		11.11%	29.63%	20.37%	18.52%	20.37%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		14	32	18	11	15	90
		15.56%	35.56%	20.00%	12.22%	16.67%	100.01%
M小学校	女子	8	18	6	0	3	35
		22.86%	51.43%	17.14%	0.00%	8.57%	100.00%
M小学校	男子	14	11	3	3	1	32
		43.75%	34.38%	9.38%	9.38%	3.13%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		22	29	9	3	4	67
		32.84%	43.28%	13.43%	4.48%	5.97%	100.00%
M中学校	女子	6	27	5	2	3	43
		13.95%	62.79%	11.63%	4.65%	6.98%	100.00%
M中学校	男子	3	22	20	6	1	52
		5.77%	42.31%	38.46%	11.54%	1.92%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		9	51	25	8	4	97
		9.28%	52.58%	25.77%	8.25%	4.12%	100.00%
全合計		54	151	84	27	50	366

表10 お原りで食べたり、お金を取られそうになったり、怖いことはありませんか

学校	性別	何回もある	1/2回ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	1	1	50	0	52
		1.92%	1.92%	96.15%	0.00%	99.99%
T中学校	男子	0	0	59	0	59
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		1	1	110	0	112
		0.89%	0.89%	98.21%	0.00%	99.99%
T1小学校	女子	0	0	36	0	36
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	0	2	52	0	54
		0.00%	3.70%	96.30%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	2	88	0	90
		0.00%	2.22%	97.78%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	1	34	0	35
		0.00%	2.86%	97.14%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	0	2	30	0	32
		0.00%	6.25%	93.75%	0.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	3	64	0	67
		0.00%	4.48%	95.52%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	0	0	42	1	43
		0.00%	0.00%	97.67%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	1	6	45	0	52
		1.92%	11.54%	86.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		1	6	89	1	97
		1.03%	6.19%	91.75%	1.03%	100.00%
全合計		2	12	351	1	366

表11 お祭りなどでおじいさん・おばあさんなど、年配の大人と過ごすのは楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	5	20	20	5	2	52
		9.62%	38.46%	38.46%	9.62%	3.85%	100.01%
T中学校	男子	4	18	28	8	1	59
		6.78%	30.51%	47.46%	13.56%	1.69%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		9	38	49	13	3	112
		8.04%	33.93%	43.75%	11.61%	2.68%	100.01%
T1小学校	女子	3	7	24	2	0	36
		8.33%	19.44%	66.67%	5.56%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	3	18	28	5	0	54
		5.56%	33.33%	51.85%	9.26%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		6	25	52	7	0	90
		6.67%	27.78%	57.78%	7.78%	0.00%	100.01%
M小学校	女子	5	15	10	3	2	35
		14.29%	42.86%	28.57%	8.57%	5.71%	100.00%
M小学校	男子	4	11	9	7	1	32
		12.50%	34.38%	28.13%	21.88%	3.13%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		9	26	19	10	3	67
		13.43%	38.81%	28.36%	14.93%	4.48%	100.01%
M中学校	女子	3	15	20	4	1	43
		6.98%	34.88%	46.51%	9.30%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	1	12	26	13	0	52
		1.92%	23.08%	50.00%	25.00%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	1	0	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		4	28	47	17	1	97
		4.12%	28.87%	48.45%	17.53%	1.03%	100.00%
全合計		28	117	167	47	7	366

表12 「脚折雨乞い」行事で腰をかついだことはありますか

学校	性別	何回もかついだ	1回かついだ	かついだことない	未記入	合計
T中学校	女子	2	5	45	0	52
		3.85%	9.62%	86.54%	0.00%	100.01%
T中学校	男子	3	7	49	0	59
		5.08%	11.86%	83.05%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		5	12	95	0	112
		4.46%	10.71%	84.82%	0.00%	100.00%
T1小学校	女子	2	3	31	0	36
		5.56%	8.33%	86.11%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	3	7	44	0	54
		5.56%	12.96%	81.48%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		5	10	75	0	90
		5.56%	11.11%	83.33%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	0	35	0	35
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	0	0	32	0	32
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	0	67	0	67
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	0	0	43	0	43
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	0	1	50	1	52
		0.00%	1.92%	96.15%	1.92%	99.99%
M中学校	未記入	1	0	1	0	2
		50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		1	1	94	1	97
		1.03%	1.03%	96.91%	1.03%	100.00%
全合計		11	23	331	1	366

表13 「脚折雨乞い」行事は楽しいですか

学校	性別	とても楽し	けっこう楽しい	あまり楽しくない	つまらない	未記入	合計
T中学校	女子	1	19	14	7	11	52
		1.92%	36.54%	26.92%	13.46%	21.15%	99.99%
T中学校	男子	1	15	19	9	15	59
		1.69%	25.42%	32.20%	15.25%	25.42%	99.98%
T中学校	未記入	0	0	1	0	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		2	34	34	16	26	112
		1.79%	30.36%	30.36%	14.29%	23.21%	100.01%
T1小学校	女子	1	12	8	6	9	36
		2.78%	33.33%	22.22%	16.67%	25.00%	100.00%
T1小学校	男子	5	8	17	14	10	54
		9.26%	14.81%	31.48%	25.93%	18.52%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		6	20	25	20	19	90
		6.67%	22.22%	27.78%	22.22%	21.11%	100.00%
M小学校	女子	1	7	7	2	18	35
		2.86%	20.00%	20.00%	5.71%	51.43%	100.00%
M小学校	男子	0	6	10	11	5	32
		0.00%	18.75%	31.25%	34.38%	15.63%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	13	17	13	23	67
		1.49%	19.40%	25.37%	19.40%	34.33%	99.99%
M中学校	女子	2	1	5	10	25	43
		4.65%	2.33%	11.63%	23.26%	58.14%	100.01%
M中学校	男子	0	0	5	19	28	52
		0.00%	0.00%	9.62%	36.54%	53.85%	100.01%
M中学校	未記入	1	0	0	1	0	2
		50.00%	0.00%	0.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		3	1	10	30	53	97
		3.09%	1.03%	10.31%	30.93%	54.64%	100.00%
全合計		12	68	86	79	121	366

表14 学校の「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありますか

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	49	2	1	52
		94.23%	3.85%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	57	2	0	59
		96.61%	3.39%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	1	0	0	1
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		107	4	1	112
		95.54%	3.57%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	36	0	0	36
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	53	1	0	54
		98.15%	1.85%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		89	1	0	90
		98.89%	1.11%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	34	1	0	35
		97.14%	2.86%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	30	2	0	32
		93.75%	6.25%	0.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		64	3	0	67
		95.52%	4.48%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	42	1	0	43
		97.67%	2.33%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	50	2	0	52
		96.15%	3.85%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		94	3	0	97
		96.91%	3.09%	0.00%	100.00%
全合計		354	11	1	366

表15 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことがない（「あてはまる人」）

学校	性別	あてはまる	あてはまらない	未記入	合計
T中学校	女子	0 0.00%	51 98.08%	1 1.92%	52 100.00%
T中学校	男子	0 0.00%	59 100.00%	0 0.00%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
合計		0	111	1	112
T1小学校	女子	0 0.00%	36 100.00%	0 0.00%	36 100.00%
T1小学校	男子	0 0.00%	54 100.00%	0 0.00%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		0	90	0	90
M小学校	女子	0 0.00%	35 100.00%	0 0.00%	35 100.00%
M小学校	男子	0 0.00%	32 100.00%	0 0.00%	32 100.00%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		0	67	0	67
M中学校	女子	0 0.00%	43 100.00%	0 0.00%	43 100.00%
M中学校	男子	0 0.00%	52 100.00%	0 0.00%	52 100.00%
M中学校	未記入	0 0.00%	2 100.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		0	97	0	97
全合計		0	365	1	366

表16 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありませんか（1年生）

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	41 78.85%	10 19.23%	1 1.92%	52 100.00%
T中学校	男子	42 71.19%	17 28.81%	0 0.00%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
合計		83 73.21%	28 25.89%	1 0.89%	112 99.99%
T1小学校	女子	34 94.44%	2 5.56%	0 0.00%	36 100.00%
T1小学校	男子	51 94.44%	3 5.56%	0 0.00%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		85 94.44%	5 5.56%	0 0.00%	90 100.00%
M小学校	女子	10 28.57%	25 71.43%	0 0.00%	35 100.00%
M小学校	男子	11 34.38%	21 65.63%	0 0.00%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		21 31.34%	46 68.66%	0 0.00%	67 100.00%
M中学校	女子	7 16.28%	36 83.72%	0 0.00%	43 100.00%
M中学校	男子	10 19.23%	42 80.77%	0 0.00%	52 100.00%
M中学校	未記入	0 0.00%	2 100.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		17 17.53%	80 82.47%	0 0.00%	97 100.00%
全合計		206	159	1	366

表17 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありませんか（2年生）

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	41	10	1	52
		78.85%	19.23%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	44	15	0	59
		74.58%	25.42%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		85	26	1	112
		75.89%	23.21%	0.89%	99.99%
T1小学校	女子	34	2	0	36
		94.44%	5.56%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	52	2	0	54
		96.30%	3.70%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		86	4	0	90
		95.56%	4.44%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	15	20	0	35
		42.86%	57.14%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	13	19	0	32
		40.63%	59.38%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		28	39	0	67
		41.79%	58.21%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	7	36	0	43
		16.28%	83.72%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	7	45	0	52
		13.46%	86.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		14	83	0	97
		14.43%	85.57%	0.00%	100.00%
全合計		213	152	1	366

表18 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありませんか（3年生）

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	46	5	1	52
		88.46%	9.62%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	47	12	0	59
		79.66%	20.34%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		93	18	1	112
		83.04%	16.07%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	35	1	0	36
		97.22%	2.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	51	3	0	54
		94.44%	5.56%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		86	4	0	90
		95.56%	4.44%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	20	15	0	35
		57.14%	42.86%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	16	16	0	32
		50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		36	31	0	67
		53.73%	46.27%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	8	35	0	43
		18.60%	81.40%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	7	45	0	52
		13.46%	86.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	1	1	0	2
		50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		16	81	0	97
		16.49%	83.51%	0.00%	100.00%
全合計		231	134	1	366

表19 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありませんか（4年生）

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	47	4	1	52
		90.38%	7.69%	1.92%	99.99%
T中学校	男子	54	5	0	59
		91.53%	8.47%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		101	10	1	112
		90.18%	8.93%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	35	1	0	36
		97.22%	2.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	51	3	0	54
		94.44%	5.56%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		86	4	0	90
		95.56%	4.44%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	26	9	0	35
		74.29%	25.71%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	21	11	0	32
		65.63%	34.38%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		47	20	0	67
		70.15%	29.85%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	22	21	0	43
		51.16%	48.84%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	20	32	0	52
		38.46%	61.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		44	53	0	97
		45.36%	54.64%	0.00%	100.00%
全合計		278	87	1	366

表20 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありませんか（5年生）

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	49	2	1	52
		94.23%	3.85%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	53	6	0	59
		89.83%	10.17%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		102	9	1	112
		91.07%	8.04%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	35	1	0	36
		97.22%	2.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	53	1	0	54
		98.15%	1.85%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		88	2	0	90
		97.78%	2.22%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	34	1	0	35
		97.14%	2.86%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	25	7	0	32
		78.13%	21.88%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		59	8	0	67
		88.06%	11.94%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	36	7	0	43
		83.72%	16.28%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	36	16	0	52
		69.23%	30.77%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		74	23	0	97
		76.29%	23.71%	0.00%	100.00%
全合計		323	42	1	366

表21 「読み聞かせ」で本を読んでもらったことはありますか (6年生)

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	48	3	1	52
		92.31%	5.77%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	56	3	0	59
		94.92%	5.08%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	1	0	0	1
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		105	6	1	112
		93.75%	5.36%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	36	0	0	36
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	53	1	0	54
		98.15%	1.85%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		89	1	0	90
		98.89%	1.11%	0.00%	
M小学校	女子	34	1	0	35
		97.14%	2.86%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	29	3	0	32
		90.63%	9.38%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		63	4	0	67
		94.03%	5.97%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	41	2	0	43
		95.35%	4.65%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	46	6	0	52
		88.46%	11.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		89	8	0	97
		91.75%	8.25%	0.00%	100.00%
全合計		346	19	1	366

表22 「高倉獅子舞」を見たことがありますか

学校	性別	毎年見る	ときどき見る	ほとんど見ない	見たことない	未記入	合計
T中学校	女子	1	7	12	31	1	52
		1.92%	13.46%	23.08%	59.62%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	1	10	18	30	0	59
		1.69%	16.95%	30.51%	50.85%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		2	17	30	62	1	112
		1.79%	15.18%	26.79%	55.36%	0.89%	100.01%
T1小学校	女子	7	11	2	16	0	36
		19.44%	30.56%	5.56%	44.44%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	4	13	8	29	0	54
		7.41%	24.07%	14.81%	53.70%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		11	24	10	45	0	90
		12.22%	26.67%	11.11%	50.00%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	1	1	8	25	0	35
		2.86%	2.86%	22.86%	71.43%	0.00%	100.01%
M小学校	男子	0	0	11	21	0	32
		0.00%	0.00%	34.38%	65.63%	0.00%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	1	19	46	0	67
		1.49%	1.49%	28.36%	68.66%	0.00%	100.00%
M中学校	女子	1	3	7	32	0	43
		2.33%	6.98%	16.28%	74.42%	0.00%	100.01%
M中学校	男子	0	1	2	48	1	52
		0.00%	1.92%	3.85%	92.31%	1.92%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	0	1	0	2
		0.00%	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		1	5	9	81	1	97
		1.03%	5.15%	9.28%	83.51%	1.03%	100.00%
全合計		15	47	68	234	2	366

表23 地域のお祭りや行事を知っていますか（知っているのがありますか）

学校	性別	知っている	知らない	合計
T中学校	女子	48	4	52
		92.31%	7.69%	100.00%
	男子	51	8	59
		86.44%	13.56%	100.00%
T中学校	未記入	1	0	1
		100.00%	0.00%	100.00%
	合計		100	12
		89.29%	10.71%	100.00%
T1小学校	女子	36	0	36
		100.00%	0.00%	100.00%
	男子	51	3	54
		94.44%	5.56%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
	合計		87	3
		96.67%	3.33%	100.00%
M小学校	女子	29	6	35
		82.86%	17.14%	100.00%
	男子	26	6	32
		81.25%	18.75%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
	合計		55	12
		82.09%	17.91%	100.00%
M中学校	女子	36	7	43
		83.72%	16.28%	100.00%
	男子	35	17	52
		67.31%	32.69%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	2
		100.00%	0.00%	100.00%
	合計		73	24
		75.26%	24.74%	100.00%
全合計		315	51	366

表24 「桜祭り」を知っていますか

学校	性別	知っている	知らない	合計
T中学校	女子	43	9	52
		82.69%	17.31%	100.00%
	T中学校	男子	42	17
		71.19%	28.81%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	1
		0.00%	100.00%	100.00%
	合計		85	27
		75.89%	24.11%	100.00%
T1小学校	女子	34	2	36
		94.44%	5.56%	100.00%
	T1小学校	男子	46	8
		85.19%	14.81%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
	合計		80	10
		88.89%	11.11%	100.00%
M小学校	女子	9	26	35
		25.71%	74.29%	100.00%
	M小学校	男子	5	27
		15.63%	84.38%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
	合計		14	53
		20.90%	79.10%	100.00%
M中学校	女子	7	36	43
		16.28%	83.72%	100.00%
	M中学校	男子	8	44
		15.38%	84.62%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	2
		0.00%	100.00%	100.00%
	合計		15	82
		15.46%	84.54%	100.00%
全合計		194	172	366

表25 「産業祭り」を知っていますか

学校	性別	知っている	知らない	合計
T中学校	女子	47	5	52
		90.38%	9.62%	100.00%
T中学校	男子	48	11	59
		81.36%	18.64%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	1
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		96	17	112
		85.71%	14.29%	100.00%
T1小学校	女子	34	2	36
		94.44%	5.56%	100.00%
T1小学校	男子	43	11	54
		79.63%	20.37%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		77	13	90
		85.56%	14.44%	100.00%
M小学校	女子	10	25	35
		28.57%	71.43%	100.00%
M小学校	男子	8	24	32
		25.00%	75.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		18	49	67
		26.87%	73.13%	100.00%
M中学校	女子	10	33	43
		23.26%	76.74%	100.00%
M中学校	男子	6	46	52
		11.54%	88.46%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	2
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		16	81	97
		16.49%	83.51%	100.00%
全合計		206	160	366

表26 「公民館祭り」を知っていますか

学校	性別	知っている	知らない	合計
T中学校	女子	21	31	52
		40.38%	59.62%	100.00%
T中学校	男子	21	38	59
		35.59%	64.41%	100.00%
T中学校	未記入	1	0	1
		100.00%	0.00%	
合計		43	69	112
		38.39%	61.61%	100.00%
T1小学校	女子	13	23	36
		36.11%	63.89%	100.00%
T1小学校	男子	18	36	54
		33.33%	66.67%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		31	59	90
		34.44%	65.56%	100.00%
M小学校	女子	27	8	35
		77.14%	22.86%	100.00%
M小学校	男子	24	8	32
		75.00%	25.00%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		51	16	67
		76.12%	23.88%	100.00%
M中学校	女子	34	9	43
		79.07%	20.93%	100.00%
M中学校	男子	31	21	52
		59.62%	40.38%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	2
		100.00%	0.00%	100.00%
合計		67	30	97
		69.07%	30.93%	100.00%
全合計		192	174	366

表27 そのほかに知っている祭りがありますか

学校	性別	ある	ない	合計
T中学校	女子	1	51	52
		1.92%	98.08%	100.00%
T中学校	男子	1	58	59
		1.69%	98.31%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	1
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		2	110	112
		1.79%	98.21%	
T1小学校	女子	6	30	36
		16.67%	83.33%	100.00%
T1小学校	男子	2	52	54
		3.70%	96.30%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		8	82	90
		8.89%	91.11%	100.00%
M小学校	女子	3	32	35
		8.57%	91.43%	100.00%
M小学校	男子	1	31	32
		3.13%	96.88%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0
合計		4	63	67
		5.97%	94.03%	100.00%
M中学校	女子	6	37	43
		13.95%	86.05%	100.00%
M中学校	男子	1	51	52
		1.92%	98.08%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	2
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		7	90	97
		7.22%	92.78%	100.00%
全合計		21	345	366

表28 地域のいろいろなお祭りに参加しますか

学校	性別	参加する	参加しない	合計
T中学校	女子	49	3	52
		94.23%	5.77%	100.00%
T中学校	男子	49	10	59
		83.05%	16.95%	100.00%
T中学校	未記入	1	0	1
		100.00%	0.00%	100.00%
合計		99	13	112
		87.50%	12.50%	100.00%
T1小学校	女子	35	1	36
		97.22%	2.78%	100.00%
T1小学校	男子	48	6	54
		88.89%	11.11%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		83	7	90
		92.22%	7.78%	100.00%
M小学校	女子	28	7	35
		80.00%	20.00%	100.00%
M小学校	男子	22	10	32
		68.75%	31.25%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		50	17	67
		74.63%	25.37%	100.00%
M中学校	女子	36	7	43
		83.72%	16.28%	100.00%
M中学校	男子	29	23	52
		55.77%	44.23%	
M中学校	未記入	2	0	2
		100.00%	0.00%	100.00%
合計		67	30	97
		69.07%	30.93%	100.00%
全合計		299	67	366

表29 「桜祭り」に参加したことがありますか

学校	性別	ある	ない	合計
T中学校	女子	40	12	52
		76.92%	23.08%	100.00%
T中学校	男子	38	21	59
		64.41%	35.59%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	1
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		78	34	112
		69.64%	30.36%	100.00%
T1小学校	女子	31	5	36
		86.11%	13.89%	100.00%
T1小学校	男子	37	17	54
		68.52%	31.48%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		68	22	90
		75.56%	24.44%	100.00%
M小学校	女子	4	31	35
		11.43%	88.57%	100.00%
M小学校	男子	3	29	32
		9.38%	90.63%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		7	60	67
		10.45%	89.55%	100.00%
M中学校	女子	4	39	43
		9.30%	90.70%	100.00%
M中学校	男子	2	50	52
		3.85%	96.15%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	2
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		6	91	97
		6.19%	93.81%	100.00%
全合計		159	207	366

表30 「産業祭り」に参加したことがありますか

学校	性別	ある	ない	合計
T中学校	女子	46	6	52
		88.46%	11.54%	100.00%
T中学校	男子	45	14	59
		76.27%	23.73%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	1
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		91	21	112
		81.25%	18.75%	100.00%
T1小学校	女子	31	5	36
		86.11%	13.89%	100.00%
T1小学校	男子	41	13	54
		75.93%	24.07%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		72	18	90
		80.00%	20.00%	100.00%
M小学校	女子	8	27	35
		22.86%	77.14%	100.00%
M小学校	男子	6	26	32
		18.75%	81.25%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%
合計		14	53	67
		20.90%	79.10%	100.00%
M中学校	女子	8	35	43
		18.60%	81.40%	100.00%
M中学校	男子	4	48	52
		7.69%	92.31%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	2
		0.00%	100.00%	100.00%
合計		12	85	97
		12.37%	87.63%	100.00%
全合計		189	177	366

表31 「公民館祭り」に参加したことがありますか

学校	性別	ある	ない	合計
T中学校	女子	19 36.54%	33 63.46%	52 100.00%
T中学校	男子	15 25.42%	44 74.58%	59 100.00%
T中学校	未記入	1 100.00%	0 0.00%	1 100.00%
合計		35 31.25%	77 68.75%	112 100.00%
T1小学校	女子	12 33.33%	24 66.67%	36 100.00%
T1小学校	男子	14 25.93%	40 74.07%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		26 28.89%	64 71.11%	90 100.00%
M小学校	女子	26 74.29%	9 25.71%	35 100.00%
M小学校	男子	20 62.50%	12 37.50%	32 100.00%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		46 68.66%	21 31.34%	67 100.00%
M中学校	女子	34 79.07%	9 20.93%	43 100.00%
M中学校	男子	25 48.08%	27 51.92%	52 100.00%
M中学校	未記入	2 100.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		61 62.89%	36 37.11%	97 100.00%
全合計		168	198	366

表32 「その他の祭り」に参加したことがありますか

学校	性別	ある	ない	合計
T中学校	女子	1 1.92%	51 98.08%	52 100.00%
T中学校	男子	1 1.69%	58 98.31%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
合計		2 1.79%	110 98.21%	112 100.00%
T1小学校	女子	3 8.33%	33 91.67%	36 100.00%
T1小学校	男子	3 5.56%	51 94.44%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		6 6.67%	84 93.33%	90 100.00%
M小学校	女子	3 8.57%	32 91.43%	35 100.00%
M小学校	男子	1 3.13%	31 96.88%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		4 5.97%	63 94.03%	67 100.00%
M中学校	女子	5 11.63%	38 88.37%	43 100.00%
M中学校	男子	2 3.85%	50 96.15%	52 100.00%
M中学校	未記入	0 0.00%	2 100.00%	2 100.00%
合計		7 7.22%	90 92.78%	97 100.00%
全合計		19	347	366

表33 近所の大人のひとと話をしますか

学校	性別	よくする	たまにす る	ぜんぜ んしない	未記入	合計
T中学校	女子	6	32	14	0	52
		11.54%	59.62%	28.85%	0.00%	100.01%
T中学校	男子	13	34	12	0	59
		22.03%	57.63%	20.34%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		19	66	27	0	112
		16.96%	58.93%	24.11%	0.00%	
T1小学校	女子	11	20	5	0	36
		30.56%	55.56%	13.89%	0.00%	100.01%
T1小学校	男子	13	26	15	0	54
		24.07%	48.15%	27.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		24	46	20	0	90
		26.67%	51.11%	22.22%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	5	27	3	0	35
		14.29%	77.14%	8.57%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	5	18	8	1	32
		15.63%	56.25%	25.00%	3.13%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		10	45	11	1	67
		14.93%	67.16%	16.42%	1.49%	100.00%
M中学校	女子	9	25	9	0	43
		20.93%	58.14%	20.93%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	0	25	27	0	52
		0.00%	48.08%	51.92%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		9	52	36	0	97
		9.28%	53.61%	37.11%	0.00%	100.00%
全合計		62	209	94	1	366

表34 朝夕近所の人に会ったらあいさつをしますか

学校	性別	よくする	たまにす る	ぜんぜ んしない	未記入	合計
T中学校	女子	27	19	6	0	52
		51.92%	38.46%	9.62%	0.00%	100.00%
T中学校	男子	35	21	3	0	59
		59.32%	35.59%	5.08%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	1	0	0	0	1
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		63	41	9	0	112
		56.25%	36.61%	7.14%	0.00%	100.00%
T1小学校	女子	18	17	1	0	36
		50.00%	47.22%	2.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	31	16	7	0	54
		57.41%	29.63%	12.96%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		49	33	8	0	90
		54.44%	36.67%	8.89%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	23	10	2	0	35
		65.71%	28.57%	5.71%	0.00%	99.99%
M小学校	男子	11	14	6	1	32
		34.38%	43.75%	18.75%	3.13%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		34	24	8	1	67
		50.75%	35.82%	11.94%	1.49%	100.00%
M中学校	女子	31	9	2	1	43
		72.09%	20.93%	4.65%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	33	15	4	0	52
		63.46%	28.85%	7.69%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		66	24	6	1	97
		68.04%	24.74%	6.19%	1.03%	100.00%
全合計		212	121	31	2	366

表35 近所の家に遊びに行くことがありますか

学校	性別	よく行く	たまに行 く	ぜんぜ ん行か ない	未記入	合計
T中学校	女子	2	16	34	0	52
		3.85%	30.77%	65.38%	0.00%	100.00%
T中学校	男子	8	24	26	1	59
		13.56%	40.68%	44.07%	1.69%	100.00%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		10	41	60	1	112
		8.93%	36.61%	53.57%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	12	19	5	0	36
		33.33%	52.78%	13.89%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	10	24	20	0	54
		18.52%	44.44%	37.04%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		22	43	25	0	90
		24.44%	47.78%	27.78%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	5	20	10	0	35
		14.29%	57.14%	28.57%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	8	12	11	1	32
		25.00%	37.50%	34.38%	3.13%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		13	32	21	1	67
		19.40%	47.76%	31.34%	1.49%	99.99%
M中学校	女子	7	15	21	0	43
		16.28%	34.88%	48.84%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	2	17	32	1	52
		3.85%	32.69%	61.54%	1.92%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	1	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		9	33	54	1	97
		9.28%	34.02%	55.67%	1.03%	100.00%
全合計		54	149	160	3	366

表36 運動会・文化祭で近所の人が声をかけてくれることがありますか

学校	性別	よくある	たまにあ る	ぜんぜ んない	未記入	合計
T中学校	女子	8	30	14	0	52
		15.38%	57.69%	25.00%	0.00%	98.07%
T中学校	男子	11	30	18	0	59
		18.64%	50.85%	28.81%	0.00%	98.30%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		19	61	32	0	112
		16.96%	54.46%	26.79%	0.00%	
T1小学校	女子	10	22	4	0	36
		27.78%	61.11%	11.11%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	14	22	17	1	54
		25.93%	40.74%	31.48%	1.85%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		24	44	21	1	90
		26.67%	48.89%	23.33%	1.11%	100.00%
M小学校	女子	8	17	9	1	35
		22.86%	48.57%	25.71%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	4	15	10	3	32
		12.50%	46.88%	31.25%	9.38%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		12	32	19	4	67
		17.91%	47.76%	28.36%	5.97%	100.00%
M中学校	女子	9	24	10	0	43
		20.93%	55.81%	23.26%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	4	24	23	1	52
		7.69%	46.15%	44.23%	1.92%	99.99%
M中学校	未記入	0	2	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		13	50	33	1	97
		13.40%	51.55%	34.02%	1.03%	100.00%
全合計		68	187	105	6	366

表37 家の近くで知らない人から声をかけられることがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	1	13	38	0	52
		1.92%	25.00%	73.08%	0.00%	100.00%
T中学校	男子	4	20	34	1	59
		6.78%	33.90%	57.63%	1.69%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		5	33	73	1	112
		4.46%	29.46%	65.18%	0.89%	99.99%
T1小学校	女子	0	12	24	0	36
		0.00%	33.33%	66.67%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	2	18	34	0	54
		3.70%	33.33%	62.96%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		2	30	58	0	90
		2.22%	33.33%	64.44%	0.00%	99.99%
M小学校	女子	2	11	21	1	35
		5.71%	31.43%	60.00%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	1	13	17	1	32
		3.13%	40.63%	53.13%	3.13%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	24	38	2	67
		4.48%	35.82%	56.72%	2.99%	100.01%
M中学校	女子	0	19	24	0	43
		0.00%	44.19%	55.81%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	3	17	32	0	52
		5.77%	32.69%	61.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		3	38	56	0	97
		3.09%	39.18%	57.73%	0.00%	100.00%
全合計		13	125	225	3	366

表38 近所の家族と一っしょに出かけたり、ご飯を食べたりすることがありますか

学校	性別	よく行った	たまに行った	行ったことはない	未記入	合計
T中学校	女子	7	19	25	1	52
		13.46%	36.54%	48.08%	1.92%	100.00%
T中学校	男子	13	25	21	0	59
		22.03%	42.37%	35.59%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		20	44	47	1	112
		17.86%	39.29%	41.96%	0.89%	100.00%
T1小学校	女子	6	17	13	0	36
		16.67%	47.22%	36.11%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	8	23	23	0	54
		14.81%	42.59%	42.59%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		14	40	36	0	90
		15.56%	44.44%	40.00%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	2	18	15	0	35
		5.71%	51.43%	42.86%	0.00%	100.00%
M小学校	男子	7	12	12	1	32
		21.88%	37.50%	37.50%	3.13%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		9	30	27	1	67
		13.43%	44.78%	40.30%	1.49%	100.00%
M中学校	女子	11	12	19	1	43
		25.58%	27.91%	44.19%	2.33%	100.01%
M中学校	男子	7	22	22	1	52
		13.46%	42.31%	42.31%	1.92%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		18	34	43	2	97
		18.56%	35.05%	44.33%	2.06%	100.00%
全合計		61	148	153	4	366

表39 学校や遊びから帰るとき、近所の人に会うと声をかけてくれますか

学校	性別	よくかけて くれる	たまにか けてくれる	かけてく れない	未記入	合計
T中学校	女子	12	25	12	3	52
		23.08%	48.08%	23.08%	5.77%	100.01%
T中学校	男子	19	28	11	1	59
		32.20%	47.46%	18.64%	1.69%	99.99%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		31	54	23	4	112
		27.68%	48.21%	20.54%	3.57%	100.00%
T1小学校	女子	15	19	2	0	36
		41.67%	52.78%	5.56%	0.00%	100.01%
T1小学校	男子	13	29	12	0	54
		24.07%	53.70%	22.22%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		28	48	14	0	90
		31.11%	53.33%	15.56%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	12	18	5	0	35
		34.29%	51.43%	14.29%	0.00%	100.01%
M小学校	男子	9	12	10	1	32
		28.13%	37.50%	31.25%	3.13%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		21	30	15	1	67
		31.34%	44.78%	22.39%	1.49%	100.00%
M中学校	女子	27	12	4	0	43
		62.79%	27.91%	9.30%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	13	24	15	0	52
		25.00%	46.15%	28.85%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	2	0	0	0	2
		100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		42	36	19	0	97
		43.30%	37.11%	19.59%	0.00%	100.00%
全合計		122	168	71	5	366

表40 学校から一人で帰ることがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	9	19	22	2	52
		17.31%	36.54%	42.31%	3.85%	100.01%
T中学校	男子	10	28	21	0	59
		16.95%	47.46%	35.59%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		19	47	44	2	112
		16.96%	41.96%	39.29%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	1	18	17	0	36
		2.78%	50.00%	47.22%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	12	27	15	0	54
		22.22%	50.00%	27.78%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		13	45	32	0	90
		14.44%	50.00%	35.56%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	22	12	1	35
		0.00%	62.86%	34.29%	2.86%	100.01%
M小学校	男子	1	15	14	2	32
		3.13%	46.88%	43.75%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	37	26	3	67
		1.49%	55.22%	38.81%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	4	23	15	1	43
		9.30%	53.49%	34.88%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	11	23	18	0	52
		21.15%	44.23%	34.62%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		15	46	35	1	97
		15.46%	47.42%	36.08%	1.03%	99.99%
全合計		48	175	137	6	366

表41 学校から帰るとき、知らない人に声をかけられたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	0	13	37	2	52
		0.00%	25.00%	71.15%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	0	16	43	0	59
		0.00%	27.12%	72.88%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		0	29	81	2	112
		0.00%	25.89%	72.32%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	1	13	22	0	36
		2.78%	36.11%	61.11%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	2	12	40	0	54
		3.70%	22.22%	74.07%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	25	62	0	90
		3.33%	27.78%	68.89%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	13	21	1	35
		0.00%	37.14%	60.00%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	1	6	23	2	32
		3.13%	18.75%	71.88%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	19	44	3	67
		1.49%	28.36%	65.67%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	1	10	31	1	43
		2.33%	23.26%	72.09%	2.33%	100.01%
M中学校	男子	1	8	43	0	52
		1.92%	15.38%	82.69%	0.00%	99.99%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		2	18	76	1	97
		2.06%	18.56%	78.35%	1.03%	100.00%
全合計		6	91	263	6	366

表42 学校から帰るとき、車にはおられそうになったことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	2	15	33	2	52
		3.85%	28.85%	63.46%	3.85%	100.01%
T中学校	男子	2	11	46	0	59
		3.39%	18.64%	77.97%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		4	26	80	2	112
		3.57%	23.21%	71.43%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	0	6	30	0	36
		0.00%	16.67%	83.33%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	1	18	35	0	54
		1.85%	33.33%	64.81%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	24	65	0	90
		1.11%	26.67%	72.22%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	4	30	1	35
		0.00%	11.43%	85.71%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	0	8	22	2	32
		0.00%	25.00%	68.75%	6.25%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	12	52	3	67
		0.00%	17.91%	77.61%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	0	9	33	1	43
		0.00%	20.93%	76.74%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	2	5	45	0	52
		3.85%	9.62%	86.54%	0.00%	100.01%
M中学校	未記入	0	1	1	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		2	15	79	1	97
		2.06%	15.46%	81.44%	1.03%	99.99%
全合計		7	77	276	6	366

表43 学校から帰るとき、車に乗った人に道を聞かれたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	1	10	39	2	52
		1.92%	19.23%	75.00%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	2	19	38	0	59
		3.39%	32.20%	64.41%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		3	29	78	2	112
		2.68%	25.89%	69.64%	1.79%	
T1小学校	女子	0	6	30	0	36
		0.00%	16.67%	83.33%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	1	6	45	2	54
		1.85%	11.11%	83.33%	3.70%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	12	75	2	90
		1.11%	13.33%	83.33%	2.22%	99.99%
M小学校	女子	0	6	28	1	35
		0.00%	17.14%	80.00%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	0	3	27	2	32
		0.00%	9.38%	84.38%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		0	9	55	3	67
		0.00%	13.43%	82.09%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	0	10	33	0	43
		0.00%	23.26%	76.74%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	2	14	36	0	52
		3.85%	26.92%	69.23%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		2	24	71	0	97
		2.06%	24.74%	73.20%	0.00%	100.00%
全合計		6	74	279	7	366

表44 学校から帰るとき、知らない人が後ろからついてきたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	1	6	43	2	52
		1.92%	11.54%	82.69%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	1	2	56	0	59
		1.69%	3.39%	94.92%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		2	8	100	2	112
		1.79%	7.14%	89.29%	1.79%	100.01%
T1小学校	女子	2	8	26	0	36
		5.56%	22.22%	72.22%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	1	8	45	0	54
		1.85%	14.81%	83.33%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	16	71	0	90
		3.33%	17.78%	78.89%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	1	9	24	1	35
		2.86%	25.71%	68.57%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	1	3	26	2	32
		3.13%	9.38%	81.25%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		2	12	50	3	67
		2.99%	17.91%	74.63%	4.48%	100.01%
M中学校	女子	0	8	35	0	43
		0.00%	18.60%	81.40%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	3	3	46	0	52
		5.77%	5.77%	88.46%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		3	11	83	0	97
		3.09%	11.34%	85.57%	0.00%	100.00%
全合計		10	47	304	5	366

表45 留守番をしているとき、宅急便や郵便がきたらどうしますか

学校	性別	返事をして ドアを開け る	ドアを閉め 「家の人は いない」と いう	返事をし ないで 黙ってい る	未記入	合計
T中学校	女子	16	15	19	2	52
		30.77%	28.85%	36.54%	3.85%	100.01%
T中学校	男子	37	12	7	3	59
		62.71%	20.34%	11.86%	5.08%	99.99%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		53	28	26	5	112
		47.32%	25.00%	23.21%	4.46%	99.99%
T1小学校	女子	13	17	6	0	36
		36.11%	47.22%	16.67%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	16	16	21	1	54
		29.63%	29.63%	38.89%	1.85%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		29	33	27	1	90
		32.22%	36.67%	30.00%	1.11%	100.00%
M小学校	女子	14	9	10	2	35
		40.00%	25.71%	28.57%	5.71%	99.99%
M小学校	男子	8	13	6	5	32
		25.00%	40.63%	18.75%	15.63%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		22	22	16	7	67
		32.84%	32.84%	23.88%	10.45%	100.01%
M中学校	女子	16	15	11	1	43
		37.21%	34.88%	25.58%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	30	14	7	1	52
		57.69%	26.92%	13.46%	1.92%	99.99%
M中学校	未記入	1	0	1	0	2
		50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		47	29	19	2	97
		48.45%	29.90%	19.59%	2.06%	100.00%
全合計		151	112	88	15	366

表46 野良ネコをだいたり、なでたりしたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	10	18	22	2	52
		19.23%	34.62%	42.31%	3.85%	100.01%
T中学校	男子	15	23	21	0	59
		25.42%	38.98%	35.59%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		25	42	43	2	112
		22.32%	37.50%	38.39%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	5	23	8	0	36
		13.89%	63.89%	22.22%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	8	24	22	0	54
		14.81%	44.44%	40.74%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
合計		13	47	30	0	90
		14.44%	52.22%	33.33%	0.00%	99.99%
M小学校	女子	11	16	7	1	35
		31.43%	45.71%	20.00%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	9	11	10	2	32
		28.13%	34.38%	31.25%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		20	27	17	3	67
		29.85%	40.30%	25.37%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	11	18	14	0	43
		25.58%	41.86%	32.56%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	7	15	30	0	52
		13.46%	28.85%	57.69%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	2	0	0	2
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		18	35	44	0	97
		18.56%	36.08%	45.36%	0.00%	100.00%
全合計		76	151	134	5	366

表47 バッタの足をとったり、トンボの羽を切ったりしたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	1	3	46	2	52
		1.92%	5.77%	88.46%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	3	17	39	0	59
		5.08%	28.81%	66.10%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	0	1	0	0	1
		0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		4	21	85	2	112
		3.57%	18.75%	75.89%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	1	1	34	0	36
		2.78%	2.78%	94.44%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	7	9	38	0	54
		12.96%	16.67%	70.37%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		8	10	72	0	90
		8.89%	11.11%	80.00%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	0	34	1	35
		0.00%	0.00%	97.14%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	3	7	19	3	32
		9.38%	21.88%	59.38%	9.38%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	7	53	4	67
		4.48%	10.45%	79.10%	5.97%	100.00%
M中学校	女子	0	2	41	0	43
		0.00%	4.65%	95.35%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	5	10	37	0	52
		9.62%	19.23%	71.15%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		5	12	80	0	97
		5.15%	12.37%	82.47%	0.00%	99.99%
全合計		20	50	290	6	366

表48 アリを足でふみつけたことはありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	11	26	13	2	52
		21.15%	50.00%	25.00%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	15	27	17	0	59
		25.42%	45.76%	28.81%	0.00%	99.99%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		26	53	31	2	112
		23.21%	47.32%	27.68%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	7	23	6	0	36
		19.44%	63.89%	16.67%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	18	26	10	0	54
		33.33%	48.15%	18.52%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		25	49	16	0	90
		27.78%	54.44%	17.78%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	5	17	12	1	35
		14.29%	48.57%	34.29%	2.86%	100.01%
M小学校	男子	7	11	12	2	32
		21.88%	34.38%	37.50%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		12	28	24	3	67
		17.91%	41.79%	35.82%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	8	26	8	1	43
		18.60%	60.47%	18.60%	2.33%	100.00%
M中学校	男子	22	21	9	0	52
		42.31%	40.38%	17.31%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	1	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		30	48	18	1	97
		30.93%	49.48%	18.56%	1.03%	100.00%
全合計		93	178	89	6	366

表49 ハトに手でえさをあげたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	4	10	35	3	52
		7.69%	19.23%	67.31%	5.77%	100.00%
T中学校	男子	5	14	40	0	59
		8.47%	23.73%	67.80%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	
合計		9	24	76	3	112
		8.04%	21.43%	67.86%	2.68%	100.01%
T1小学校	女子	1	10	25	0	36
		2.78%	27.78%	69.44%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	4	10	40	0	54
		7.41%	18.52%	74.07%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		5	20	65	0	90
		5.56%	22.22%	72.22%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	1	11	22	1	35
		2.86%	31.43%	62.86%	2.86%	100.01%
M小学校	男子	2	6	22	2	32
		6.25%	18.75%	68.75%	6.25%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	17	44	3	67
		4.48%	25.37%	65.67%	4.48%	100.00%
M中学校	女子	3	12	28	0	43
		6.98%	27.91%	65.12%	0.00%	100.01%
M中学校	男子	4	12	36	0	52
		7.69%	23.08%	69.23%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		7	24	66	0	97
		7.22%	24.74%	68.04%	0.00%	100.00%
全合計		24	85	251	6	366

表50 野良ネコに石をぶつけたり、けったりしたことがありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	0	1	49	2	52
		0.00%	1.92%	94.23%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	0	4	55	0	59
		0.00%	6.78%	93.22%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	1	0	1
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		0	5	105	2	112
		0.00%	4.46%	93.75%	1.79%	100.00%
T1小学校	女子	0	0	36	0	36
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	1	4	49	0	54
		1.85%	7.41%	90.74%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		1	4	85	0	90
		1.11%	4.44%	94.44%	0.00%	99.99%
M小学校	女子	0	0	34	1	35
		0.00%	0.00%	97.14%	2.86%	100.00%
M小学校	男子	3	2	25	2	32
		9.38%	6.25%	78.13%	6.25%	100.01%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	2	59	3	67
		4.48%	2.99%	88.06%	4.48%	100.01%
M中学校	女子	0	0	43	0	43
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
M中学校	男子	3	4	45	0	52
		5.77%	7.69%	86.54%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	0	2	0	2
		0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
合計		3	4	90	0	97
		3.09%	4.12%	92.78%	0.00%	99.99%
全合計		7	15	339	5	366

表51 ホームレスの人に出会ったことがありますか

学校	性別	ある	ない	未記入	合計
T中学校	女子	22 42.31%	27 51.92%	3 5.77%	52 100.00%
T中学校	男子	35 59.32%	24 40.68%	0 0.00%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
合計		57 50.89%	51 45.54%	4 3.57%	112 100.00%
T1小学校	女子	17 47.22%	19 52.78%	0 0.00%	36 100.00%
T1小学校	男子	26 48.15%	28 51.85%	0 0.00%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		43 47.78%	47 52.22%	0 0.00%	90 100.00%
M小学校	女子	14 40.00%	17 48.57%	4 11.43%	35 100.00%
M小学校	男子	14 43.75%	15 46.88%	3 9.38%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		28 41.79%	32 47.76%	7 10.45%	67 100.00%
M中学校	女子	31 72.09%	12 27.91%	0 0.00%	43 100.00%
M中学校	男子	31 59.62%	21 40.38%	0 0.00%	52 100.00%
M中学校	未記入	1 50.00%	1 50.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		63 64.95%	34 35.05%	0 0.00%	97 100.00%
全合計		191	164	11	366

表52 ホームレスの人をけったり、なぐったりする少年をどう思いますか

学校	性別	自分たちとは違う乱暴な少年だ	自分たちにも少年と似た乱暴なところがある	未記入	合計
T中学校	女子	41 78.85%	9 17.31%	2 3.85%	52 100.01%
T中学校	男子	47 79.66%	10 16.95%	2 3.39%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
合計		88 78.57%	19 16.96%	5 4.46%	112 99.99%
T1小学校	女子	33 91.67%	3 8.33%	0 0.00%	36 100.00%
T1小学校	男子	46 85.19%	8 14.81%	0 0.00%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		79 87.78%	11 12.22%	0 0.00%	90 100.00%
M小学校	女子	30 85.71%	2 5.71%	3 8.57%	35 99.99%
M小学校	男子	22 68.75%	7 21.88%	3 9.38%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		52 77.61%	9 13.43%	6 8.96%	67 100.00%
M中学校	女子	36 83.72%	5 11.63%	2 4.65%	43 100.00%
M中学校	男子	41 78.85%	11 21.15%	0 0.00%	52 100.00%
M中学校	未記入	2 100.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		79 81.44%	16 16.49%	2 2.06%	97 99.99%
全合計		298	55	13	366

表53 少年は、ホームレスの人に乱暴したことをどう思っていると思いますか

学校	性別	とても悪い ことをした と思っています	少し悪いこ とをしたと 思っている	悪いこと をしたと は思ってい ない	未記入	合計
T中学校	女子	7 13.46%	15 28.85%	28 53.85%	2 3.85%	52 100.01%
T中学校	男子	24 40.68%	10 16.95%	22 37.29%	3 5.08%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
合計		31 27.68%	25 22.32%	50 44.64%	6 5.36%	112 100.00%
T1小学校	女子	7 19.44%	13 36.11%	16 44.44%	0	36 99.99%
T1小学校	男子	14 25.93%	13 24.07%	27 50.00%	0	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		21 23.33%	26 28.89%	43 47.78%	0 0.00%	90 100.00%
M小学校	女子	4 11.43%	10 28.57%	19 54.29%	2 5.71%	35 100.00%
M小学校	男子	12 37.50%	7 21.88%	10 31.25%	3 9.38%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		16 23.88%	17 25.37%	29 43.28%	5 7.46%	67 99.99%
M中学校	女子	17 39.53%	6 13.95%	18 41.86%	2 4.65%	43 99.99%
M中学校	男子	9 17.31%	13 25.00%	29 55.77%	1 1.92%	52 100.00%
M中学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		26 26.80%	19 19.59%	49 50.52%	3 3.09%	97 100.00%
全合計		94	87	171	14	366

表54 少年は、なぜホームレスの人に乱暴するのだと思いますか

学校	性別	自分の不 満をはら すため	いじめて 遊ぶため	お金や持 ち物を振 るため	未記入	合計
T中学校	女子	17 32.69%	23 44.23%	9 17.31%	3 5.77%	52 100.00%
T中学校	男子	18 30.51%	22 37.29%	18 30.51%	1 1.69%	59 100.00%
T中学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 100.00%	1 100.00%
合計		35 31.25%	45 40.18%	27 24.11%	5 4.46%	112 100.00%
T1小学校	女子	15 41.67%	15 41.67%	6 16.67%	0 0.00%	36 100.01%
T1小学校	男子	13 24.07%	26 48.15%	15 27.78%	0 0.00%	54 100.00%
T1小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		28 31.11%	41 45.56%	21 23.33%	0 0.00%	90 100.00%
M小学校	女子	12 34.29%	16 45.71%	5 14.29%	2 5.71%	35 100.00%
M小学校	男子	14 43.75%	9 28.13%	6 18.75%	3 9.38%	32 100.01%
M小学校	未記入	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
合計		26 38.81%	25 37.31%	11 16.42%	5 7.46%	67 100.00%
M中学校	女子	12 27.91%	19 44.19%	10 23.26%	2 4.65%	43 100.01%
M中学校	男子	19 36.54%	23 44.23%	10 19.23%	0 0.00%	52 100.00%
M中学校	未記入	1 50.00%	1 50.00%	0 0.00%	0 0.00%	2 100.00%
合計		32 32.99%	43 44.33%	20 20.62%	2 2.06%	97 100.00%
全合計		121	154	79	12	366

表55 公園で遊んでいるとき、中学生・高校生にいやなこと・こわいことをいわれたことはありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	0	1	49	2	52
		0.00%	1.92%	94.23%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	0	6	53	0	59
		0.00%	10.17%	89.83%	0.00%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	0	1	1
		0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%
合計		0	7	102	3	112
		0.00%	6.25%	91.07%	2.68%	100.00%
T1小学校	女子	0	3	33	0	36
		0.00%	8.33%	91.67%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	2	7	45	0	54
		3.70%	12.96%	83.33%	0.00%	99.99%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		2	10	78	0	90
		2.22%	11.11%	86.67%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	0	6	27	2	35
		0.00%	17.14%	77.14%	5.71%	99.99%
M小学校	男子	3	5	21	3	32
		9.38%	15.63%	65.63%	9.38%	100.02%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		3	11	48	5	67
		4.48%	16.42%	71.64%	7.46%	100.00%
M中学校	女子	0	11	30	2	43
		0.00%	25.58%	69.77%	4.65%	100.00%
M中学校	男子	4	12	36	0	52
		7.69%	23.08%	69.23%	0.00%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	1	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		4	24	67	2	97
		4.12%	24.74%	69.07%	2.06%	99.99%
全合計		9	52	295	10	366

表56 公園や駅近くで生活するホームレスの人をこわいと思ったことはありますか

学校	性別	よくある	たまにある	ぜんぜんない	未記入	合計
T中学校	女子	3	20	27	2	52
		5.77%	38.46%	51.92%	3.85%	100.00%
T中学校	男子	2	12	44	1	59
		3.39%	20.34%	74.58%	1.69%	100.00%
T中学校	未記入	0	0	0	1	1
		0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%
合計		5	32	71	4	112
		4.46%	28.57%	63.39%	3.57%	
T1小学校	女子	3	15	18	0	36
		8.33%	41.67%	50.00%	0.00%	100.00%
T1小学校	男子	4	11	39	0	54
		7.41%	20.37%	72.22%	0.00%	100.00%
T1小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		7	26	57	0	90
		7.78%	28.89%	63.33%	0.00%	100.00%
M小学校	女子	2	8	23	2	35
		5.71%	22.86%	65.71%	5.71%	99.99%
M小学校	男子	2	6	20	4	32
		6.25%	18.75%	62.50%	12.50%	100.00%
M小学校	未記入	0	0	0	0	0
		0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計		4	14	43	6	67
		5.97%	20.90%	64.18%	8.96%	100.01%
M中学校	女子	5	23	13	2	43
		11.63%	53.49%	30.23%	4.65%	100.00%
M中学校	男子	2	9	40	1	52
		3.85%	17.31%	76.92%	1.92%	100.00%
M中学校	未記入	0	1	1	0	2
		0.00%	50.00%	50.00%	0.00%	100.00%
合計		7	33	54	3	97
		7.22%	34.02%	55.67%	3.09%	100.00%
全合計		23	105	225	13	366

(坂西友秀)

「地域の行事と生活」アンケートへのご協力をお願い

みなさんが住んでいる鶴ヶ島には、古くから伝わる「すねおり雨乞い」行事や「高倉獅子舞」があります。また、「子どもフェスティバル」や「菜の花祭り」「どんど焼き」などの行事もあります。このアンケートでは、みなさんがいろいろな行事にどのくらい参加し、どのように感じているのか、さらに、みなさんが住む地域の人たちと、ふだんどのくらい話しをし、あいさつをしあっているのか、などについておききするものです。地域の行事に参加し、子どもどうし、子どもと大人が、お互いにふれあい親しみを深めることで、安全で住みやすい町をつくることができます。調査は、みなさんにアンケートにご協力していただくことで、だれもが安心して暮らせる町にするためには、何が大切なことなのかを調べることを目的としています。みなさんにごめいわくをおかけすることはありませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

行

あなたにあてはまる数字に○をしてください。

()にはあてはまる学年を書いてください。

性別

- { 1 女子
2 男子

学年

- { 小学校 () 年生
中学校 () 年生

調査者:

調査者:

埼玉大学教育学部・社会心理学研究室
市民との共同研究会 坂西 友秀

banzai@psycho.edu.saitama-u.ac.jp

電話・FAX: : 048-858-3161

これからみなさんに、お祭りや遊びのことなどいろいろなことについておききします。自分の思っていることを書いてください。これから書き方の練習をします。つぎの例のように自分の思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

【例】

・お正月に家族で「かるた」をしますか。

(毎年する・ときどきする・ほとんどしない・したことがない)

【練習してみましょう】

・あなたは、「菜の花祭り」に参加したことがありますか。

(毎年参加する・ときどき参加する・ほとんど参加しない・参加したことがない)

・「菜の花祭り」は楽しいですか

(とても楽しい・けっこう楽しい・あまり楽しくない・つまらない)

1 あなたの住んでいる地域でおこなわれる行事やお祭りについて、あなたの思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

1. 地域のお祭り・夏祭りに参加したことがありますか
(毎年参加する・ときどき参加する・ほとんど参加しない・参加したことがない)
2. 地域のお祭り・夏祭りにいくときはだれといきますか
(家族といく・友だちといく・きょうだいといく・近所の人といく)
3. 地域のお祭り・夏祭りは楽しいですか
(とても楽しい・けっこう楽しい・あまり楽しくない・つまらない)
4. 「どんど焼き」に参加したことはありますか
(毎年参加する・ときどき参加する・ほとんど参加しない・参加したことがない)
5. 「どんど焼き」は楽しいですか
(とても楽しい・けっこう楽しい・あまり楽しくない・つまらない)
6. 「子どもフェスティバル」に参加したことはありますか
(毎年参加する・ときどき参加する・ほとんど参加しない・参加したことがない)
7. 「子どもフェスティバル」は楽しいですか
(とても楽しい・けっこう楽しい・あまり楽しくない・つまらない)
8. お祭りでおどされたり、お金をとられそうになったり、恐いことがありましたか
(なん回もある・1回か2回ある・ぜんぜんない)
9. お祭りなどでおじさんやおばさんなど大人のひとと一緒に過ごすのは好きですか
(とても好き・けっこう好き・あまり好きではない・きらい)
10. 「すねおり雨乞い」行事でりゅう(龍)をかついだことはありますか
(なん回もかついだ・1回かついだ・かついだことはない)
11. 「すねおり雨乞い」行事は楽しいですか
(とても楽しい・けっこう楽しい・あまり楽しくない・つまらない)
12. 学校の「読み聞かせ」で本を読んでもらったことがありますか(あてはまるところにぜんぶ○をつける)
(ない・1年の時ある・2年の時ある・3年の時ある・4年の時ある・5年の時ある・6年の時ある)
13. 「高倉獅子舞」を見たことがありますか
(毎年見る・ときどき見る・ほとんど見ない・見たことがない)
14. 次のお祭りや行事を知っていますか(あてはまるところにぜんぶ○をつけ、()に書いてください)
(桜まつり・産業祭り・公民館祭り () 公民館・その他 ())
15. 次のお祭りや行事に行ったことがありますか(あてはまるところにぜんぶ○をつけ、()に書いてください)
(桜まつり・産業祭り・公民館祭り () 公民館・その他 ())

2 あなたは、ふだん近所の人にあいさつをしたり、話をしたりすることがありますか。あなたの思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

1. 近所の大人のひとと話しますか
(よく話しをする・ときどき話しをする・ぜんぜんしない)
2. 朝や夕方近所の人に会ったらあいさつをしますか
(よくあいさつをする・ときどきあいさつをする・ぜんぜんしない)
3. 近所の家に遊びに行くことがありますか
(よく遊びに行く・たまに遊びに行く・ぜんぜんいかない)
4. 運動会や文化祭で近所の人から声をかけてくれることはありますか
(よく声をかけてくれる・たまに声をかけてくれる・ぜんぜんかけてくれない)
5. 家の近くで知らない人から声をかけられることがありますか
(よく声をかけられる・たまに声をかけられる・ぜんぜんかけられない)
6. 近所の家族といっしょにでかけたり、ご飯を食べたりすることがありますか
(よくいった・たまにいった・いったことはない)
7. 学校や遊びからかえるとき、近所の人に会うと、声をかけてくれますか
(よくか声をかけてくれる・たまに声をかけてくれる・ぜんぜんかけてくれない)

3 学校から家に帰るときのことについておききします。あなたの思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

1. あなたは学校からひとりで帰ることがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
2. あなたは学校から帰るとき、知らない人に声をかけられたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
3. あなたは学校から帰るとき、車にはねられそうになったことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
4. あなたは学校から帰るとき、車に乗った人から道をきかれたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
5. あなたが家に帰るとき、知らない人がうしろからついてきたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
6. あなたが、留守番をしているとき、宅急便や郵便がきたらどうしますか
(返事をしてドアをあける・ドアをしめたまま「家の人はいない」という・返事をしないでだまっている)

4 動物や虫についておききします。あなたの思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

1. あなたはのらネコをだいたり、なでたりしたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
2. あなたはバッタの足とったり、トンボの羽を切ったりしたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
3. あなたはアリを足でふみつけたことはありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
4. あなたはハトに手でエサをあげたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
5. あなたはのらネコに石をぶついたり、けったりしたことがありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)

5 公園で生活したり、駅の近くで生活している「ホームレス」の人などについておききします。あなたの思っていることに一番よくあてはまるところに○をつけてください。

1. あなたは、ホームレスの人に出会ったことがありますか。
(ある・ない)
2. ホームレスの人をけったり、なぐったりする少年について、どのように思いますか。
(自分たちとはちがう乱暴な少年だ・自分たちにも少年と似た乱暴なところがある)
3. けったり、なぐったりした少年は、乱暴したことをどのように思っていると思いますか
(とても悪いことをしたと思っている・少し悪いことをしたと思っている・悪いことをしたとは思っていない)
4. 少年たちは、なぜ「ホームレス」の人をたたいたり、けったりするのだと思いますか
(自分の不満をはらすため・いじめて遊ぶため・お金や持ち物をとるため)
5. 公園で遊んでいるとき、中学生や高校生からいやなことやこわいことをいわれたことがありますか、
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)
6. 公園や駅の近くで生活する「ホームレス」の人をこわいと思ったことはありますか
(よくある・たまにある・ぜんぜんない)

以上で終わります、ありがとうございました